

揖斐川町まちづくり住民意識調査 結果報告書

令和6年12月
揖 斐 川 町

もくじ

調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 集計・分析にあたって	1
4 意見・要望について	2
第1章 一般調査	3
1 基本属性	4
2 地域の課題について	13
3 ボランティア活動について	36
4 医療機関への受診について	46
5 医療機関を受診する際に困っていること	54
6 障がい者差別について	58
7 揖斐川町の福祉について	61
8 社会福祉協議会について	75
9 これからの揖斐川町について	85
10 これからの揖斐川町の福祉で大切なこと	89
11 揖斐川町のまちづくりについて	92
第2章 中学生調査	100
1 基本属性	101
2 日常生活について	104
3 地域での生活について	110
4 福祉教育などについて	114
5 ボランティア活動について	125
6 これからの揖斐川町について	128
第3章 意見・要望	133

調査の概要

1 調査の目的

揖斐川町では、今年度に「第4期揖斐川町地域福祉計画」を、来年度に「揖斐川町第3次総合計画」および「揖斐川町まち・ひと・しごと総合戦略」を策定する予定です。この調査は、町民の皆様の総合計画や地域福祉に関するお考えや実態などをお聞かせいただき、計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

2 調査方法

区 分		一般調査	中学生調査
調査対象者		町内にお住まいの18歳以上の人	町内の中学1、2年生
抽出方法		無作為抽出	全 数
調査票の配布・回収		郵送配布・郵送回収、 もしくはWEBにて回答	各学校を通じて配布、WEBにて回答
調査期間		令和6年7月11日 ～8月9日	令和6年7月
回収結果	配布数	2,000	282
	回収数	825	169
	有効回答数 (率)	824 (41.2%)	145 (51.4%)

3 集計・分析にあたって

- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（N）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。
- ③ 有効回答とした中には、年齢、性別、地区等の不詳があります。したがって、全体の回答数と分類別の回答数の合計が一致しない場合があります。
- ④ 平成25年、令和元年に実施した『「揖斐川町地域福祉計画」策定のためのアンケート調査』のうち、同じ設問については、今回の調査と比較分析を行いました。この場合、「平成25年」および「令和元年」とあるのは平成25年および令和元年に実施した調査をいい、「令和6年」とあるのは今回の調査をいいます。

4 意見・要望について

アンケートの質問事項の最後にありました自由記載欄には、いろいろなご意見やご要望をいただきました。記載された意見・要望は、明らかに誤字脱字と分かる部分は修正しましたが、ほぼ原文のまま掲載しております。

第1章 一般調査

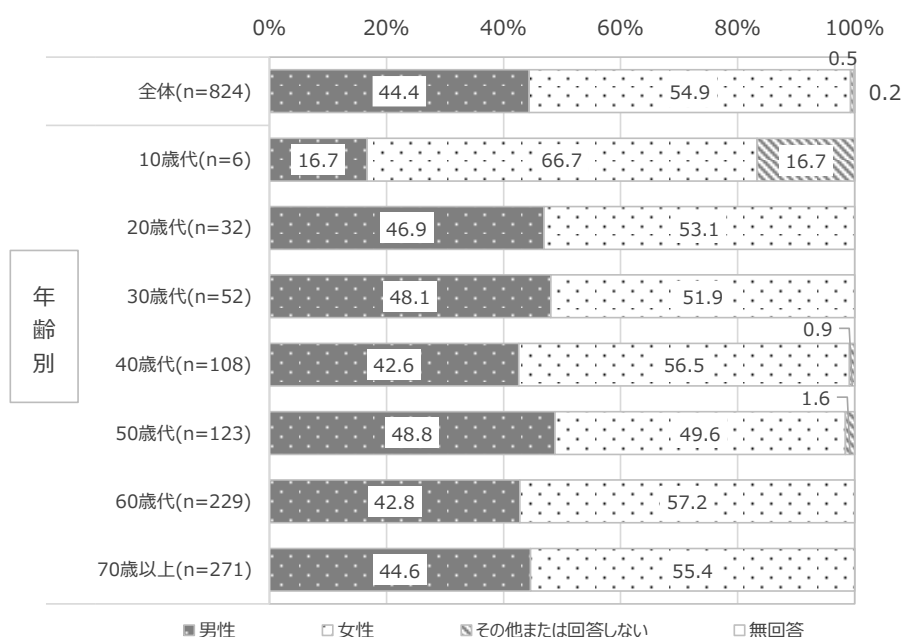
1 基本属性

(1) 性別・年齢別

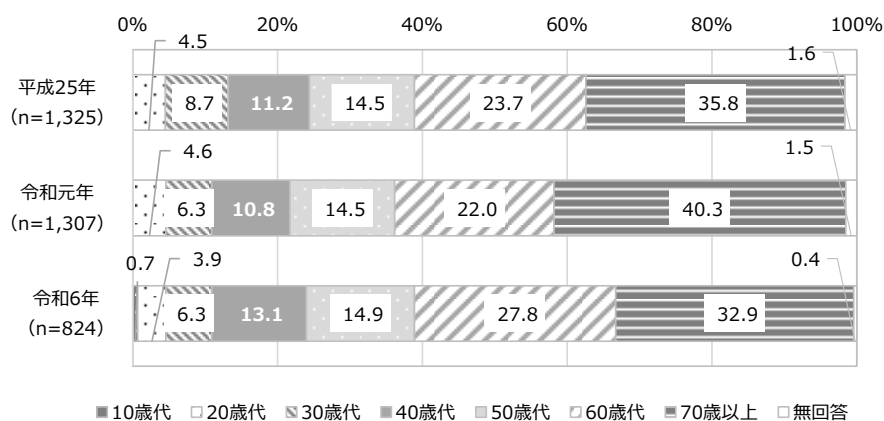
回答者の性別は、「男性」が44.4%、「女性」が54.9%となっています。女性は男性より10.5ポイント高くなっています。年齢別でも、すべての年齢で女性が高くなっています。（図表1－1）

回答者の年齢は、「70歳以上」が32.9%と最も高く、次いで「60歳代」が27.8%となっており、両者で60.7%を占めています。令和元年の調査と比べると、「70歳以上」と「60歳代」の合計割合は▲1.6ポイントとなりましたが、依然として高齢者の占める割合が高くなっています。（図表1－2）

図表1－1 性別（属性別）



図表1－2 年齢別（平成25年・令和元年調査と比較）



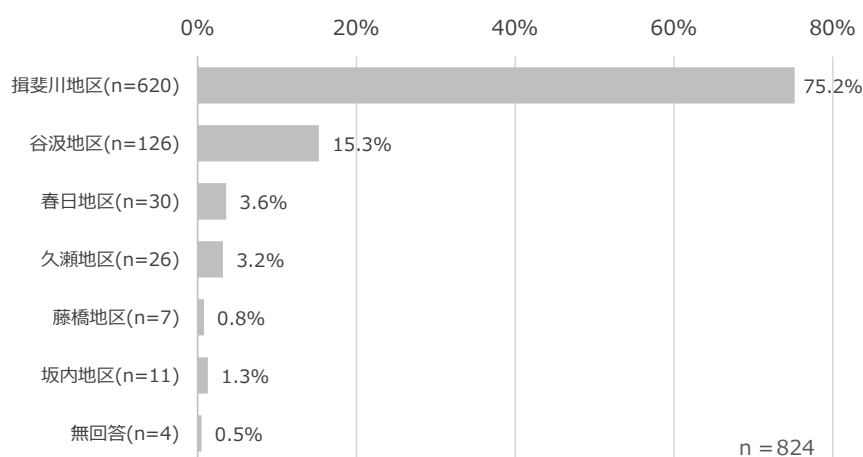
(注)平成25年、令和元年の調査時は、「10歳代」の選択肢はありませんでした。

(2) 居住地区

回答者の居住する地区は、「揖斐川地区」が75.2%と最も高く、次いで「谷汲地区」が15.3%、その他の地区はそれぞれ5%未満となっています。（図表 1－3）

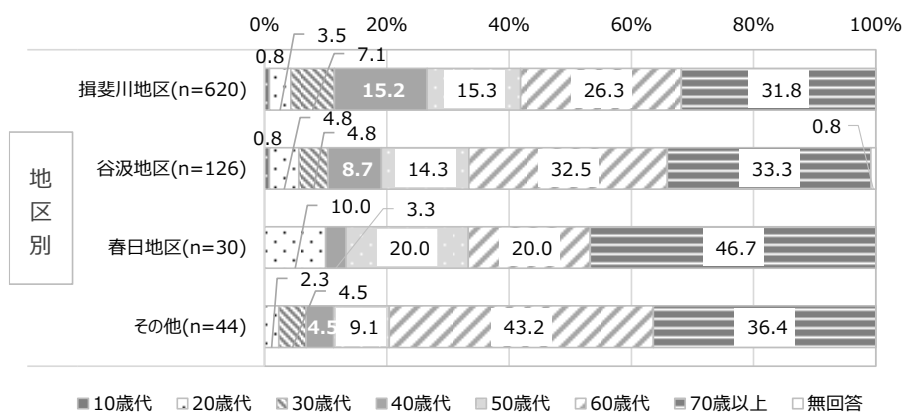
なお、本項以降について、地区別にみる場合には、「久瀬地区」「藤橋地区」「坂内地区」の3地区を合わせて「その他」の地区としています。

図表 1－3 居住地区



地区を年齢別でみると、「その他」の地区では、60歳代および70歳以上が79.6%と高齢者の占める割合が、他地区と比べて高くなっています。また、「春日地区」では、70歳以上が約半数の46.7%となっています。「揖斐川地区」では、他地区と比べると40歳代の割合が高くなっています（図表 1－4）。

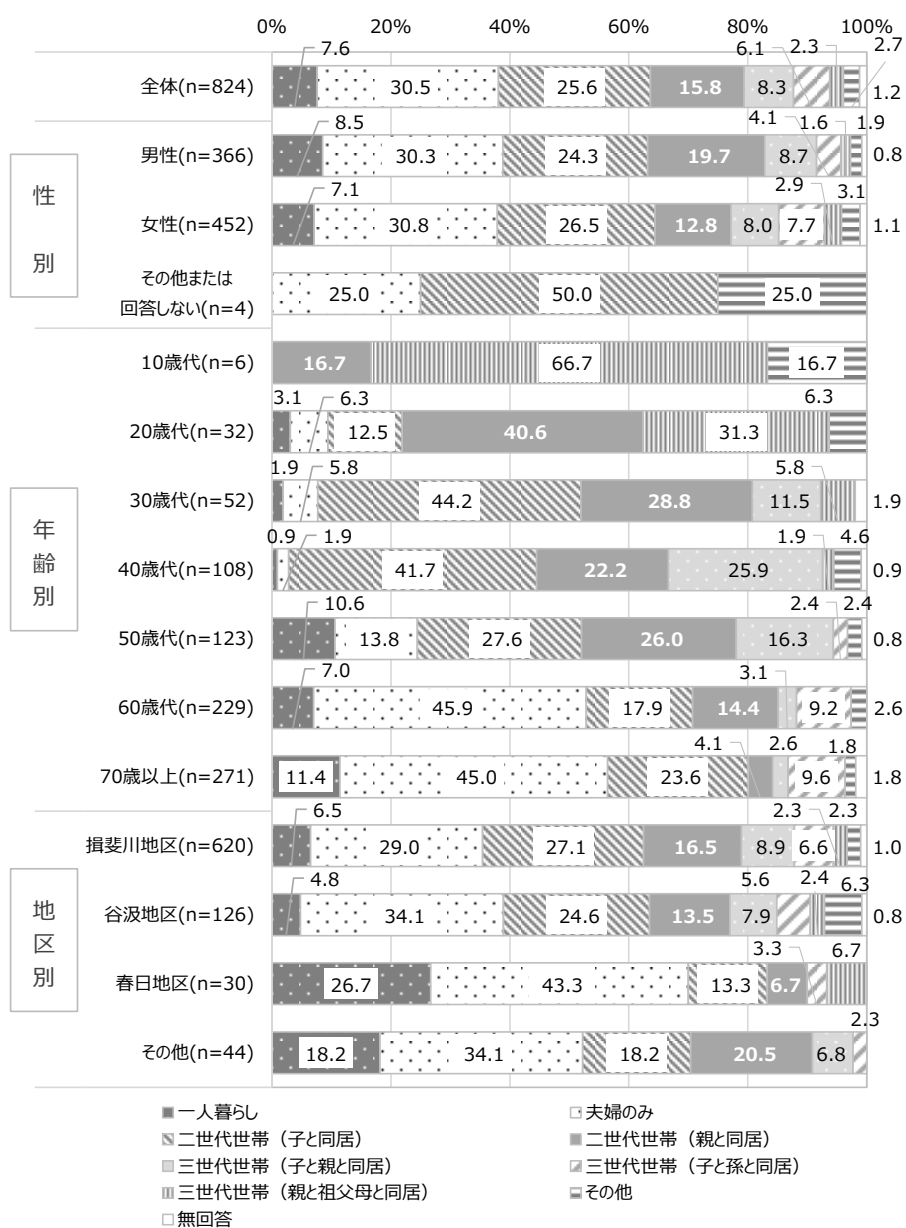
図表 1－4 居住地区（属性別）



(3) 世 帯

回答者の世帯類型は、「夫婦のみ」が30.5%と最も高く、次いで「二世世代世帯（子と同居）」（25.6%）となっています。「二世世代世帯（子と同居）」と「二世世代世帯（親と同居）」を合わせた<二世世代世帯>は41.4%、「三世世代世帯（子と親と同居）」「三世世代世帯（子と孫と同居）」「三世世代世帯（親と祖父母と同居）」を合わせた<三世世代世帯>は16.7%、「一人暮らし」は7.6%です。（図表 1－5）

図表 1－5 世 帯（属性別）



性別でみると、＜二世世代世帯＞は女性（39.3%）より男性（44.0%）の方が高くなっています。

年齢別でみると、50歳代までは、＜二世世代世帯＞または＜三世世代世帯＞が70%～90%程度を占めていますが、60歳代、70歳以上は「夫婦のみ」または「一人暮らし」が50%以上と、高くなっています。

地区別でみると、「春日地区」や「その他」の地区で、「夫婦のみ」または「一人暮らし」が50%以上を占め、特に、「春日地区」では70.0%と同割合は高くなっています。

世帯類型の「その他」としては、図表 1－6 の通りです。

図表 1－6 世帯（その他）

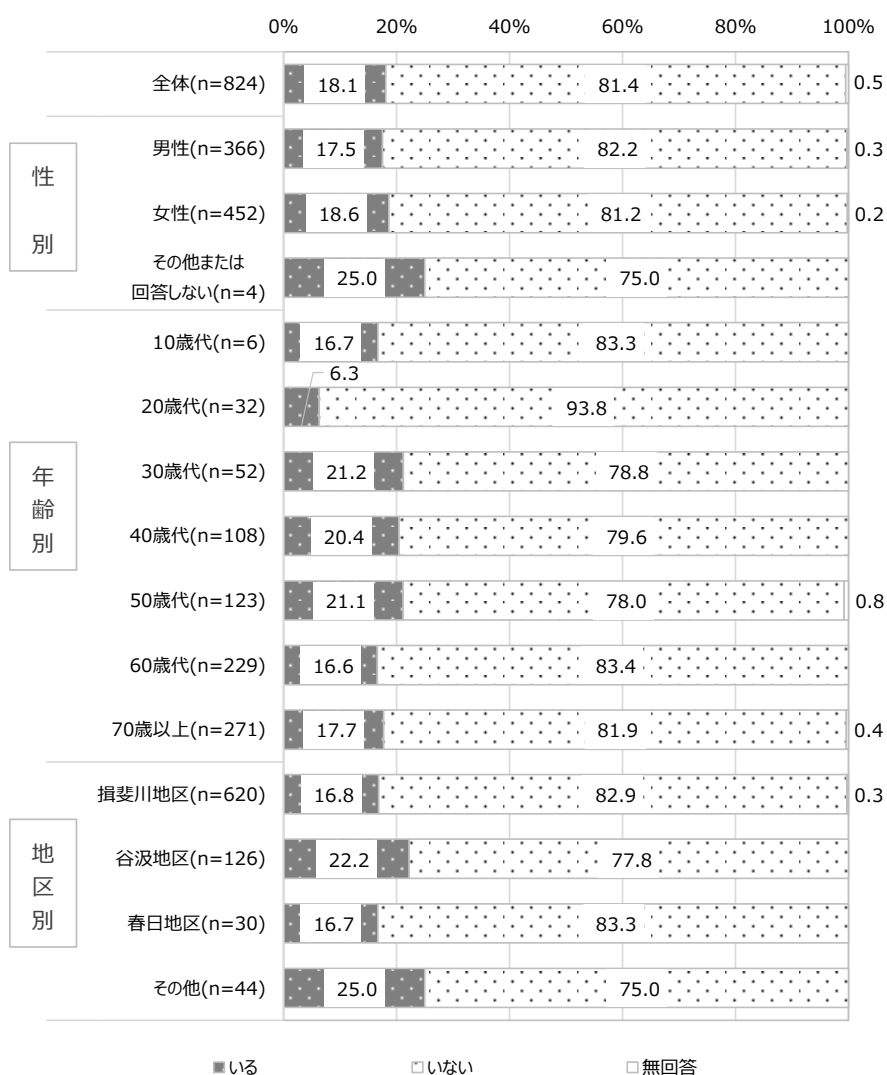
・四世代世帯（「親と子と孫と同居」等）（6人） ・孫と同居 ・親と姉と叔母と同居 ・子、義父の叔母 ・祖母と同居 ・子、夫婦、祖父母、曾祖父	・グループホーム入居。子と別居 ・兄弟 ・祖母、夫婦 ・夫婦と孫 ・祖母と同居 ・夫婦と姉、親
--	---

(4) 家族に障がい者や要介護者がいるか

「あなた自身を含め、家族に障がいのある人や介護の必要な人がいますか」という設問に対しては、18.1%が「いる」と回答しています。

性別、年齢別、地区別での大きな差はありませんでしたが、「いる」が高いのは、性別では「女性」、年齢別では「30歳代」、地区別では「その他」の地区となっています。（図表 1－7）

図表 1－7 家族に障害者、要介護者がいるか（属性別）



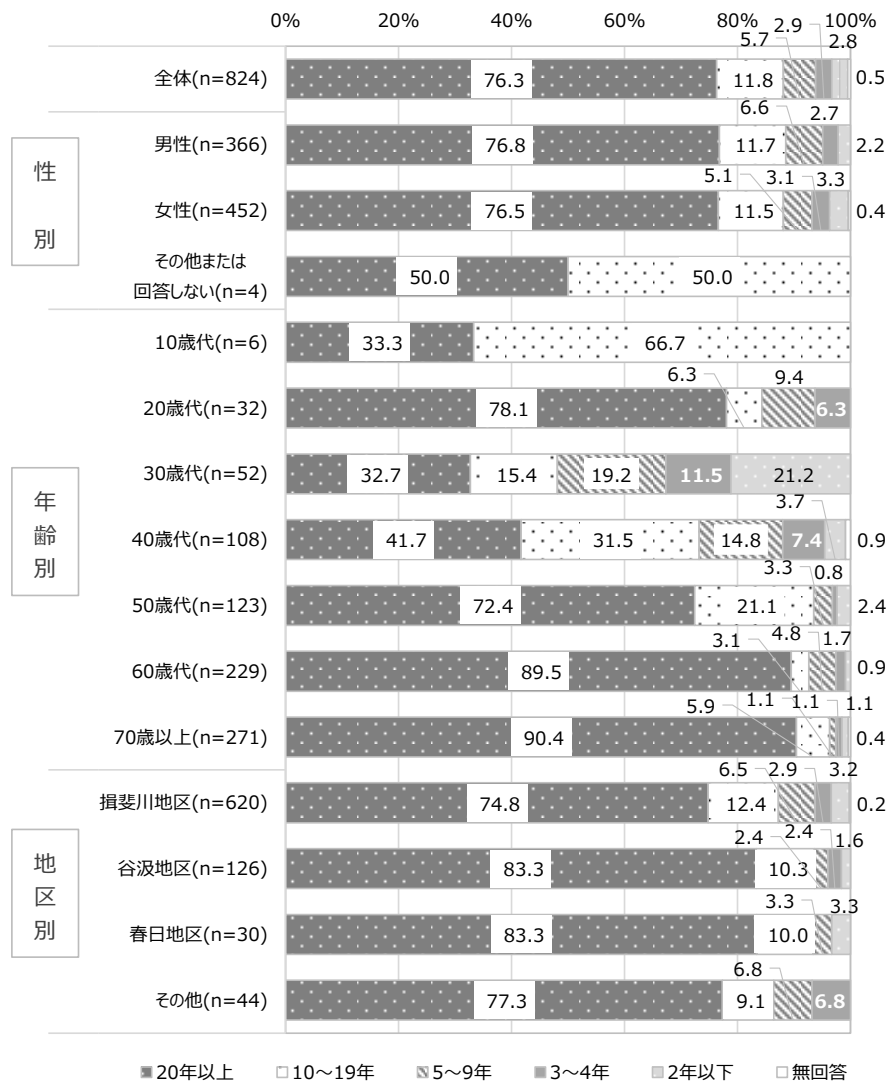
(5) 居住年数

現在の住まいの居住年数をたずねたところ、「20年以上」が76.3%と過半数を占めています。

年齢別でみると、30歳代で＜10年未満＞の割合が、51.9%となり、他の年齢に比べて高くなっています。

地区別でみると、大きな差はみられませんでした。揖斐川地区では＜20年未満＞の割合が25.0%と、他の地区と比べて高くなっています。（図表1－8）

図表1－8 居住年数（属性別）

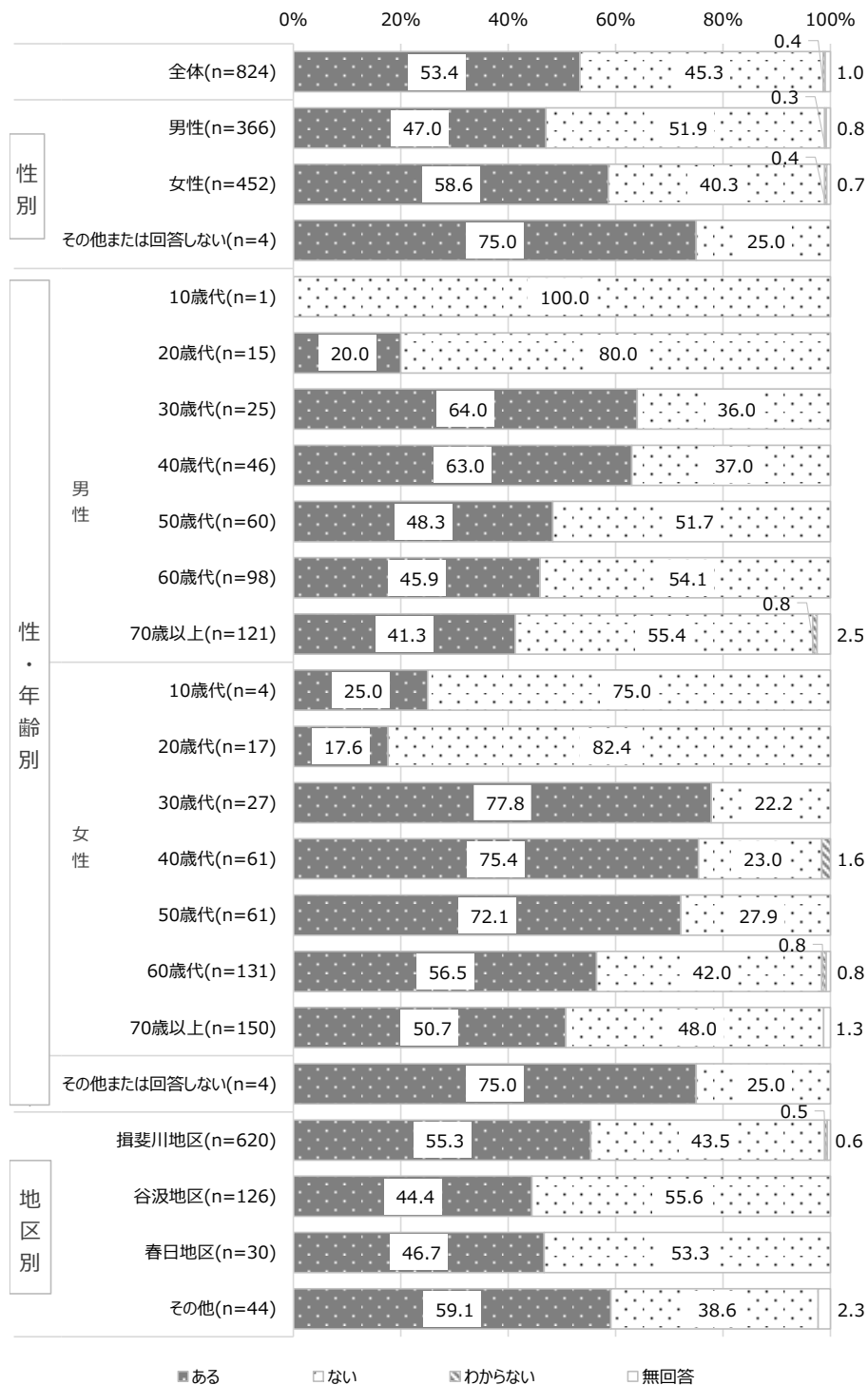


(6) 他市町からの転入

他市町村から揖斐川町内への転入については、過半数の53.4%が「ある」と回答しています。

「ある」が高いのは、性別では女性、性・年齢別では30歳代以上の女性、地区別ではその他の地区です。（図表1－9）

図表1－9 他市町村からの転入経験（属性別）

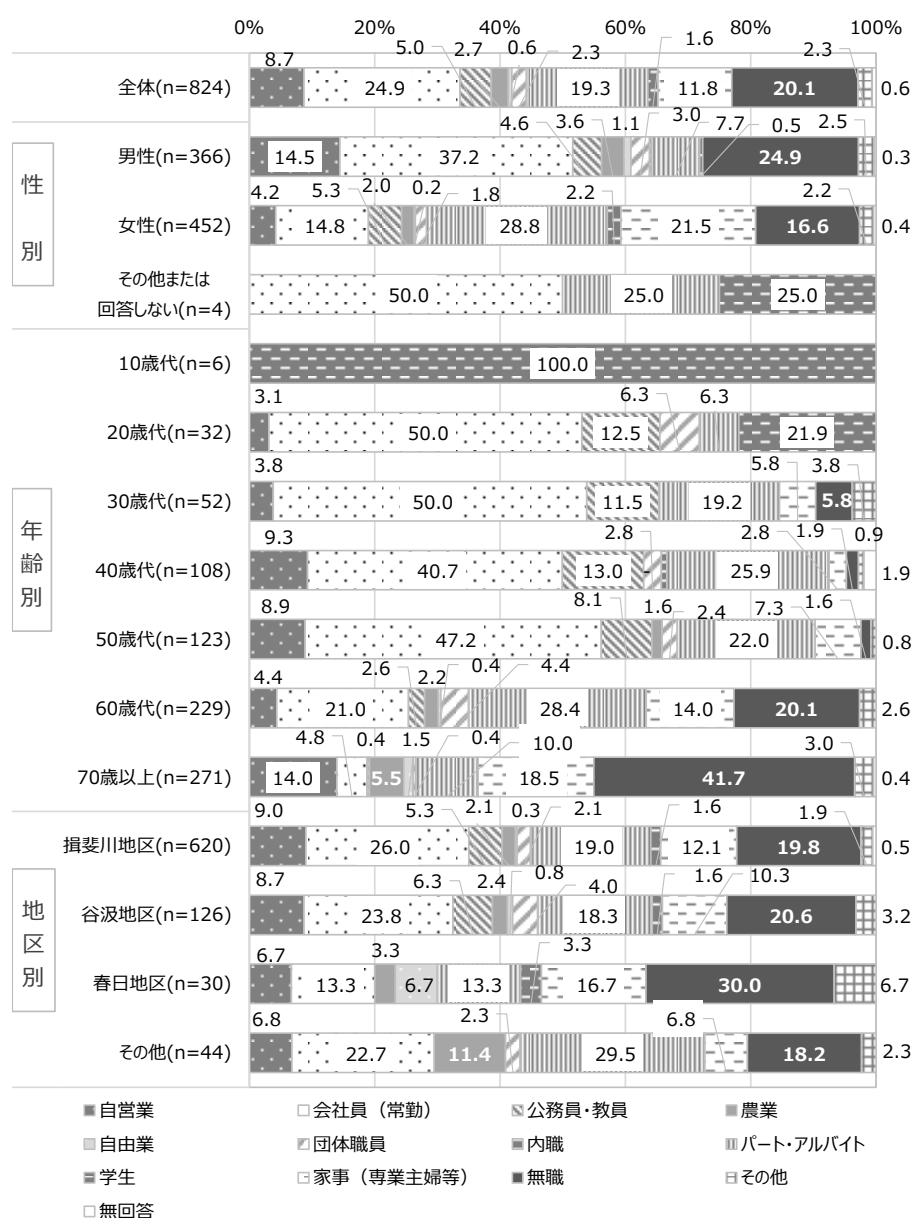


(7) 就業状況

回答者の就学・就業状況をみると、「会社員（常勤）」が24.9%と最も高く、次いで「無職」（20.1%）、「パート・アルバイト」（19.3%）の順となっています。性別でみると、女性は男性に比べて「パート・アルバイト」「家事（専業主婦等）」が高く、男性は「自営業」「会社員（常勤）」「無職」が高くなっています。年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「会社員」が低くなり、「無職」が高くなる傾向にあります。地区別でみると、春日地区の「無職」が30.0%と、他の地区よりも高くなっています。

「その他」として、「介護（2名）」「授産所通所」「サービス業」「シルバーに加入（原文のまま）」「臨時従業員」「非常勤公務員」「医療関係」「派遣」が記載されていました。

図表 1－10 就学・就業状況（属性別）



(8) 健康状態

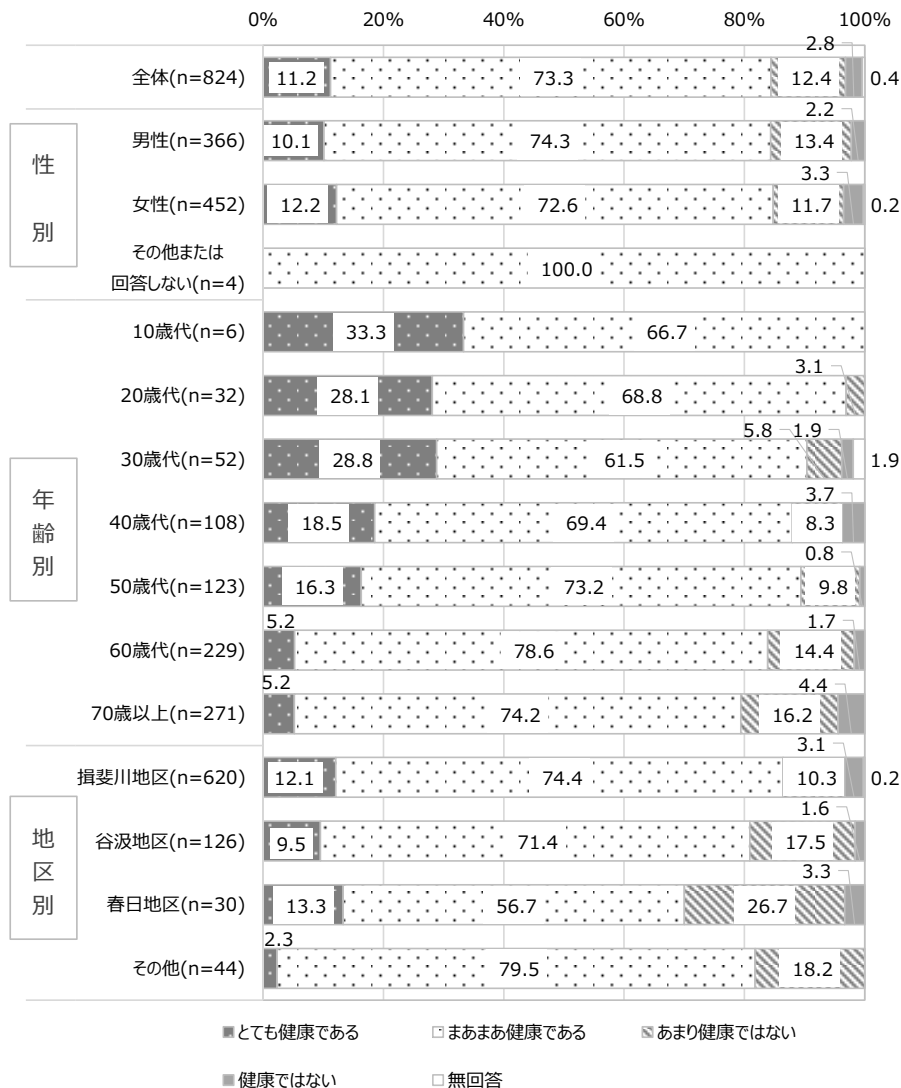
全体では「まあまあ健康である」が73.3%を占めており、これに「とても健康である」（11.2%）を加えた＜健康＞は84.5%、「あまり健康でない」と「健康でない」を合計した＜健康でない＞は15.2%となっています。

性別では大きな差はみられません。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「とても健康である」が低下し、＜健康でない＞が高くなる傾向にあります。

地区別にみると、70歳以上の割合が高い春日地区で＜健康でない＞の割合は最も高くなっています。

図表 1－11 健康状態（属性別）



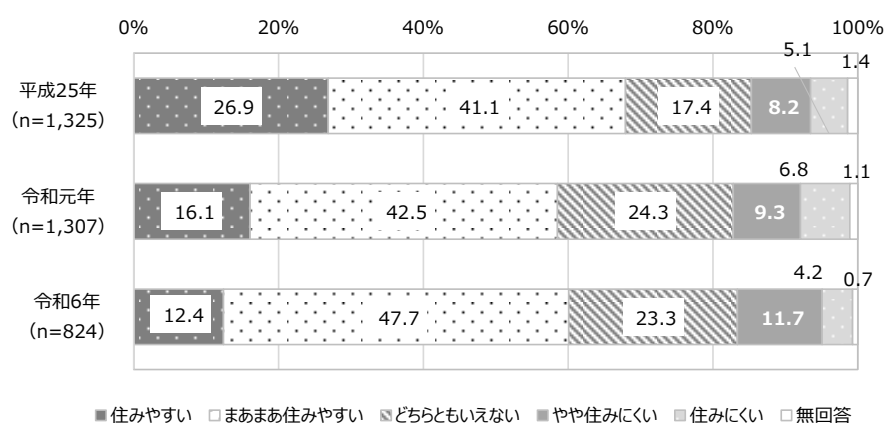
2 地域の課題について

(1) 地域の住みやすさ

現在住んでいる地域を住みやすいと感じているかたずねたところ、「まあ住みやすい」が47.7%と最も高くなっています。これに「住みやすい」（12.4%）を加えた＜住みやすい＞は60.1%です。「やや住みにくい」「住みにくい」を合計した＜住みにくい＞は15.9%です。

過去の調査と比べると、「住みやすい」と回答した割合は、平成25年から低下しており、平成25年からは、＜住みやすい＞は7.9ポイント低下しています。一方で「どちらともいえない」および「住みにくい」が高い傾向にあります（図表1－12）。

図表1－12 居住地域の評価の推移（平成25年・令和元年調査との比較）

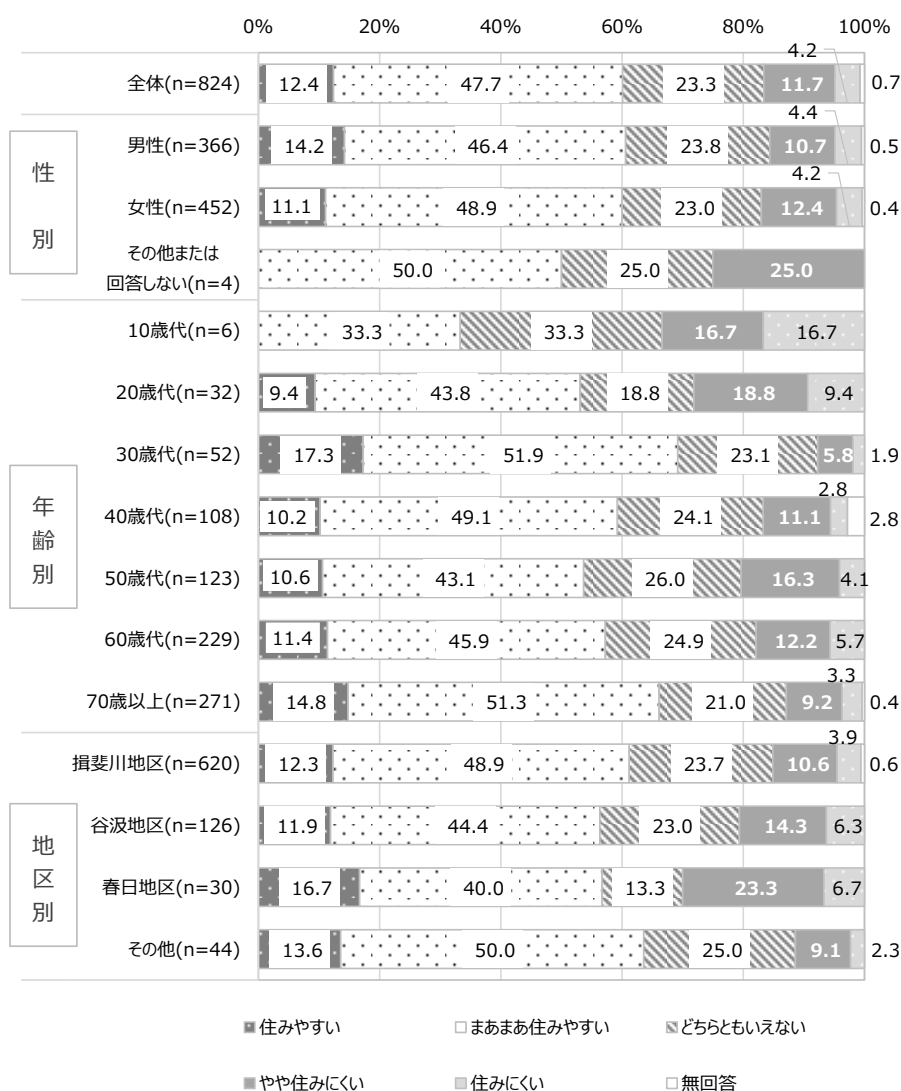


（注）図表1-12の平成25年、令和元年の調査時は、選択肢の一つが「まあ住みやすい」となっていたが、今回の調査では「まあまあ住みやすい」として集計しています。

図表1－13は属性別にみたものです。性別では大きな違いは見られません。年齢別にみると、＜住みやすい＞は30歳代と70歳以上が60%以上と、高くなっています。＜住みにくい＞は、10歳代、20歳代、50歳代が20%以上と、他の年齢と比べて高くなっています。

地区別では、揖斐川地区、その他の地区で＜住みやすい＞が60%以上と高く、春日地区では＜住みにくい＞が30.0%と他の地区よりも高くなっています。

図表 1 - 13 居住区の評価（属性別）



(2) 近所づきあい

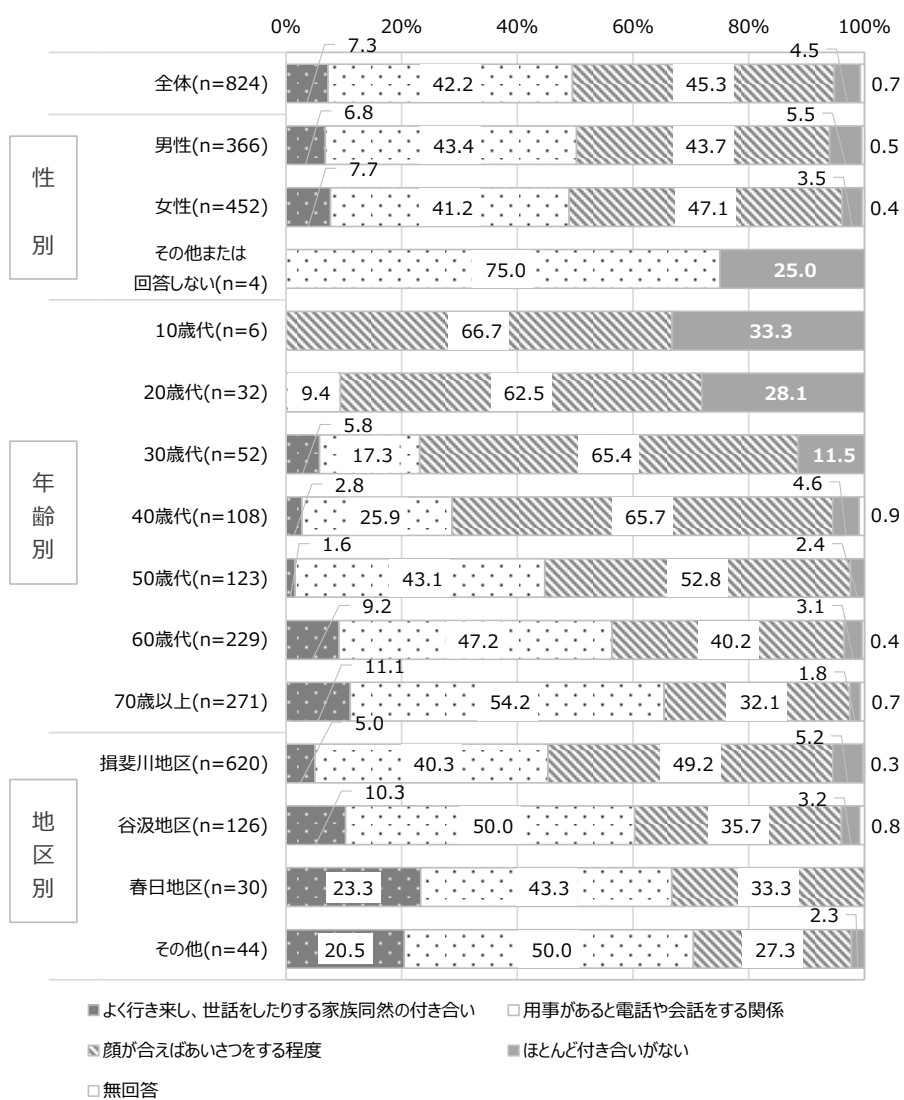
近所づきあいの程度については、「顔が合えばあいさつをする程度」が45.3%と最も高くなっています。

性別による大きな違いはありません。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「用事があると電話や会話をする関係」「よく行き来し、世話をしたりする家族同然の付き合い」の＜比較的濃いつきあい＞をする割合が高くなり、「顔が合えばあいさつをする程度」や「ほとんど付き合いがない」の割合が低くなる傾向にあります。

地区別でみると、揖斐川地区に比べて、谷汲地区・春日地区・その他の地区では、＜比較的濃いつきあいをする＞割合が高くなっています（図表 1 - 14）。

図表 1 - 14 近所づきあい（属性別）

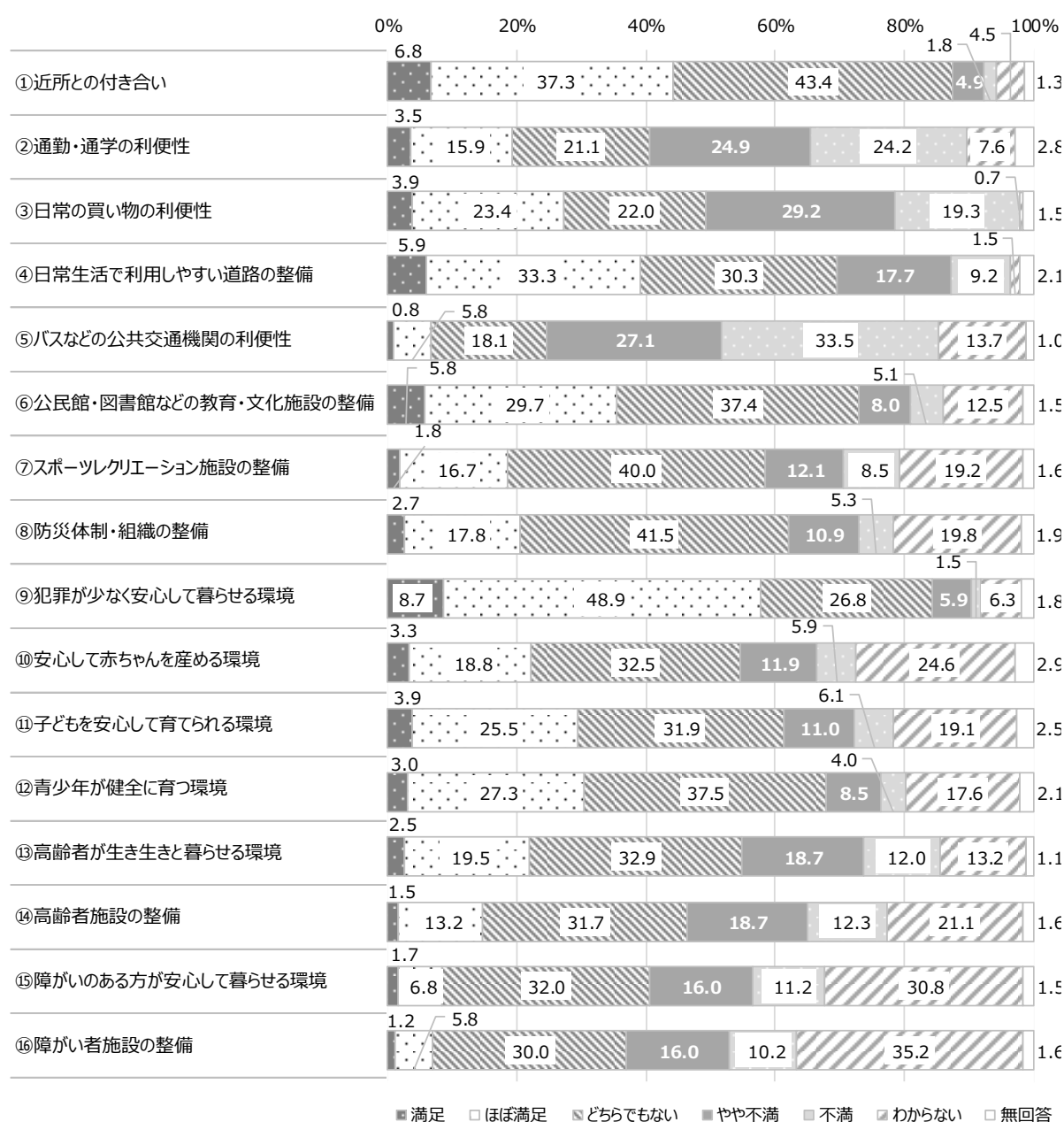


(3) 揖斐川町の現在の福祉について

次の16項目について、福祉の面から見た印象をたずねました。「満足」「ほぼ満足」を合計した＜満足＞は、「⑨犯罪が少なく安心して暮らせる環境（57.6%）」、「①近所との付き合い（44.1%）」が他項目と比べて高くなっています。一方で、「やや不満」「不満」を合わせた＜不満＞は、「⑤バスなどの公共交通機関の利便性（60.6%）」「②通勤・通学の利便性（49.1%）」「③日常の買い物の利便性（48.5%）」で高くなっています。（図表1－15）

図表1－15 現在の揖斐川町の福祉の評価

【全体(n=824)】



平成25年からの調査において、＜満足＞が高くなっているのは「⑨犯罪が少なく安心して暮らせる環境」、「①近所との付き合い」であり、一方、「やや不満」と「不満」を合わせた＜不満＞が高くなっているのは、平成25年から変わらず、「⑤バスなどの公共交通機関の利便性」となっています（図表 1－16）。

図表 1－16 現在の揖斐川町の福祉の評価（平成25年・令和元年調査と比較） 単位：nは人、他は%

区分	満足と感じている人			不満と感じている人		
	令和6年	令和元年	平成25年	令和6年	令和元年	平成25年
n	824	1,307	1,325	824	1,307	1,325
①近所との付き合い	44.1	50.5	59.2	6.7	6.9	6.7
②通勤・通学の利便性	19.4	18.1	24.2	49.1	47.9	38.8
③日常の買い物の利便性	27.3	25.9	34.0	48.5	49.9	39.0
④日常生活で利用しやすい道路の整備	39.2	43.8	44.9	26.9	22.7	21.9
⑤バスなどの公共交通機関の利便性	6.6	9.6	17.1	60.6	60.4	45.2
⑥公民館・図書館などの教育・文化施設の整備	35.5	27.8	32.0	13.1	16.7	16.9
⑦スポーツレクリエーション施設の整備	18.5	20.0	24.3	20.6	19.4	19.0
⑧防災体制・組織の整備	20.5	21.4	25.3	16.2	14.7	12.9
⑨犯罪が少なく安心して暮らせる環境	57.6	59.2	57.4	7.4	5.5	7.9
⑩安心して赤ちゃんを産める環境	22.1	25.2	30.3	17.8	15.6	14.2
⑪子どもを安心して育てられる環境	29.4	34.9	38.2	17.1	13.7	13.9
⑫青少年が健全に育つ環境	30.3	34.0	34.9	12.5	9.3	9.2
⑬高齢者が生き生きと暮らせる環境	22.0	23.2	32.4	30.7	29.6	21.8
⑭高齢者施設の整備	14.7	15.6	20.8	31.0	31.2	25.9
⑮障がいのある方が安心して暮らせる環境	8.5	9.7	11.6	27.2	28.6	23.8
⑯障がい者施設の整備	7.0	8.4	9.5	26.2	27.6	22.9

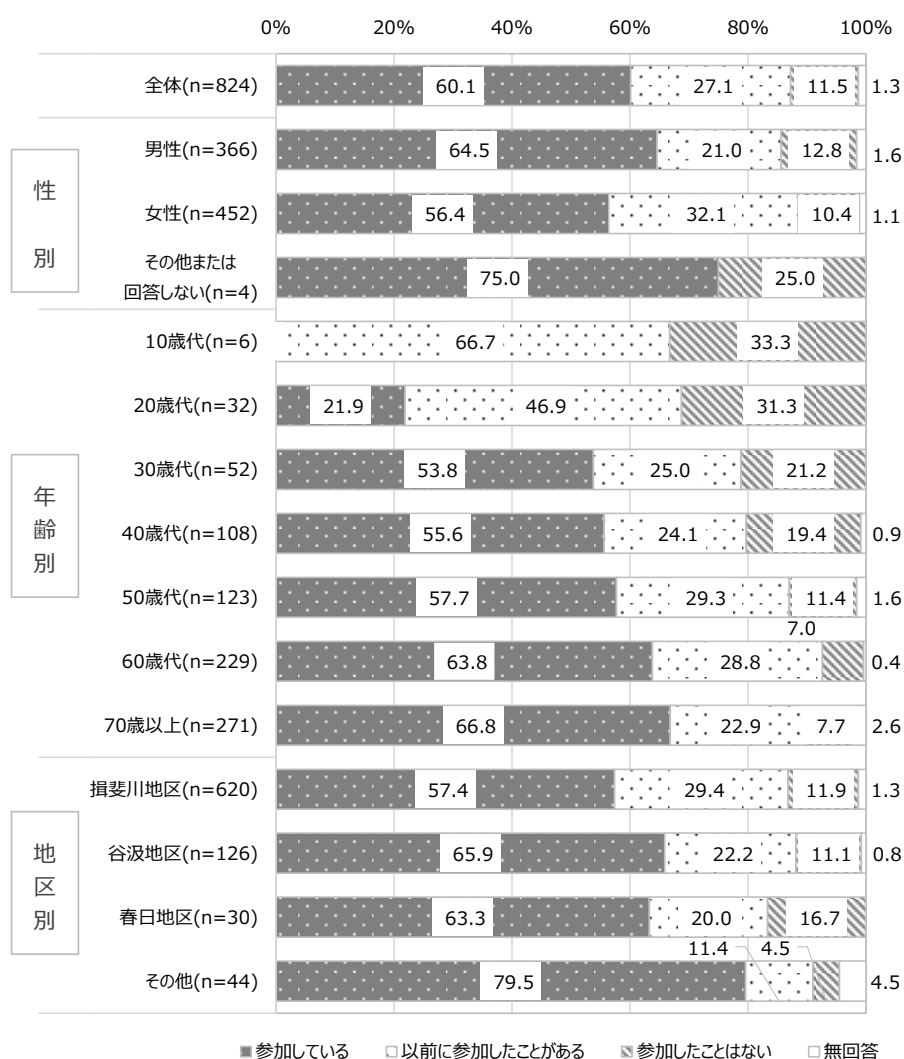
(4) 地域行事・地域活動について

① 地域行事・地域活動の参加状況

地域行事や地域活動については、60.1%が「参加している」と回答しています。

「参加している」は、性別では男性が高く、年齢別では年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、70歳以上が66.8%と最も高くなっています。地区別では、「その他」の地区が79.5%と最も高く、揖斐川地区が57.4%と低くなっています。

図表 1 - 17 地域行事・地域活動の参加状況（属性別）



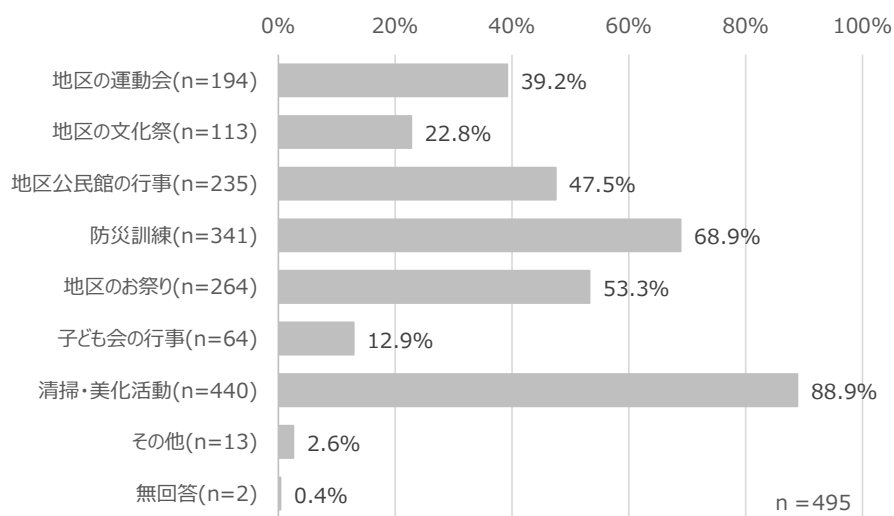
② 参加している地域行事

地域行事や地域活動に「参加している」と回答した人に、参加している地域行事をたずねたところ、「清掃・美化活動」が88.9%と最も高く、次いで「防災訓練（68.9%）」「地区のお祭り

（53.3%）」となっています（図表 1－18）。

「その他」として、図表 1－19の内容が記載されていました。

図表 1－18 参加している地域行事（複数回答）



図表 1－19 参加している地域行事（その他）

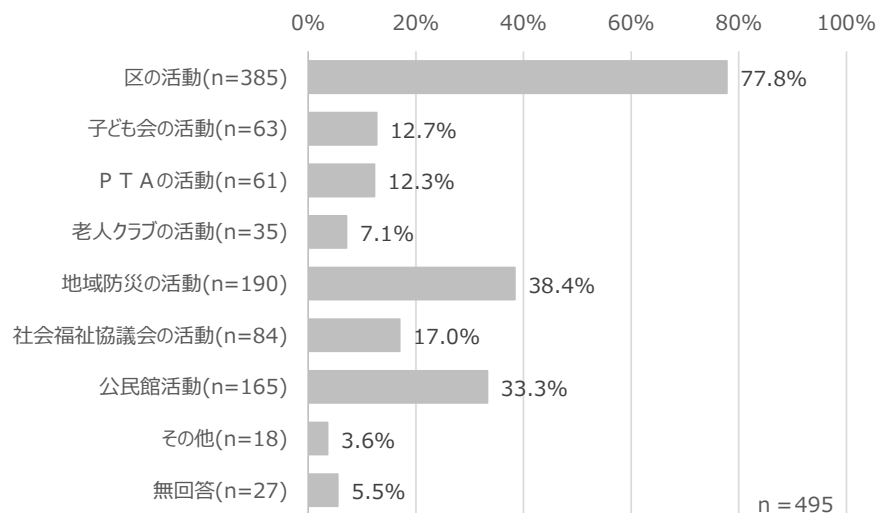
・揖斐川町消防団（2人） ・区役員（役員活動）（2人） ・地域づくり協議会の行事（2人） ・ボランティア	・パン教室などの趣味の会、J Aの催し事 ・自主サロン ・朝市
---	---

③ 参加している地域活動

地域行事や地域活動に「参加している」と回答した人に、参加している地域活動をたずねたところ、「区の活動」が77.8%と最も高く、次いで、「地域防災の活動（38.4%）」「公民館活動（33.3%）」となっています（図表1-20）。

「その他」として、図表1-21の内容が記載されていました。

図表1-20 参加している地域活動（複数回答）



図表1-21 参加している地域活動（その他）

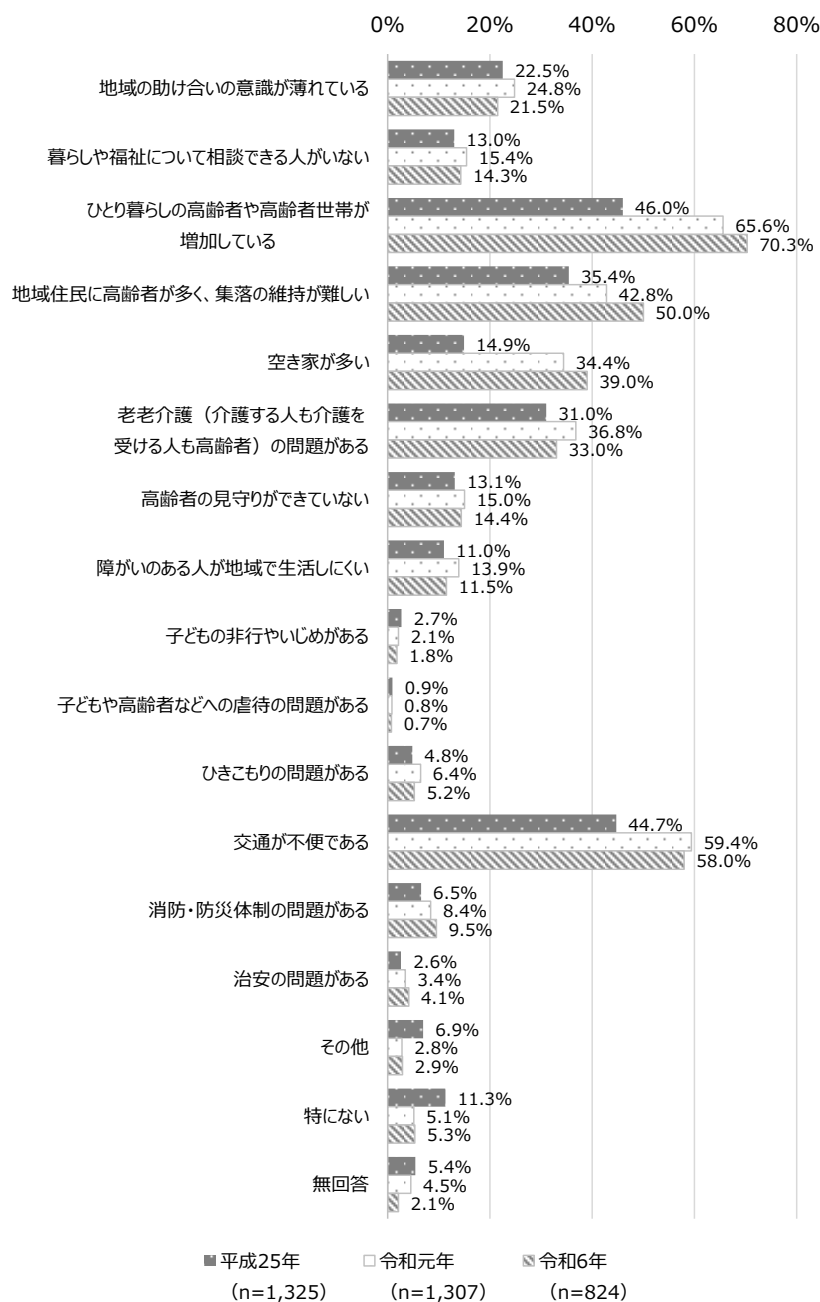
・消防団 ・地域のボランティア活動 ・青十字 ・活動推進委員 ・ゴミ当番、神社の掃除 ・地域づくり協議会の活動、多面的…の活動 ・地域づくり協議会活動 ・協議会の活動	・J Aの活動 ・揖斐川町消防団 ・さわやかクラブ ・役員になった場合の担当行事 ・地区の行事 ・朝市、しか畏獵 ・地域の道の駅への出品や出店 ・町内活動
--	--

(5) 地域の福祉的な課題

地域の福祉的な課題としては、「ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している」が70.3%と最も高く、次いで「交通が不便である（58.0%）」、「地域住民に高齢者が多く、集落の維持が難しい（50.0%）」、「空き家が多い（39.0%）」の順となっています。

過去の調査をみると、「ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している」や「空き家が多い」は平成25年調査から、20ポイント以上上昇しています。（図表 1 - 22）

図表 1 - 22 地域の福祉的な課題（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



性別でみると、男女ともに「ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している」が最も高くなっています。

年齢別でみると、10歳代と40歳代以外では、「ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している」が最も高くなっており、40歳代では、「交通が不便である」が最も高くなっています。10歳代では、上記2項目が同率となります。（図表 1 - 23）

図表 1 - 23 地域の福祉的な課題（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271
地域の助け合いの意識が薄れている	27.3	17.0	-	16.7	3.1	11.5	13.0	15.4	22.7	30.6
暮らしや福祉について相談できる人がいない	16.1	12.6	50.0	16.7	6.3	7.7	12.0	12.2	18.3	14.8
ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している	70.8	69.9	75.0	50.0	65.6	59.6	56.5	68.3	76.4	74.5
地域住民に高齢者が多く、集落の維持が難しい	54.6	46.2	50.0	33.3	43.8	40.4	53.7	49.6	52.4	49.4
空き家が多い	42.3	36.7	-	16.7	34.4	30.8	29.6	39.8	43.2	41.3
老老介護（介護する人も介護を受ける人も高齢者）の問題がある	34.4	32.1	25.0	16.7	25.0	21.2	24.1	29.3	34.9	40.2
高齢者の見守りができていない	16.7	12.2	50.0	-	15.6	7.7	11.1	15.4	17.5	13.7
障がいのある人が地域で生活しにくい	11.5	11.7	-	-	12.5	3.8	10.2	12.2	13.5	11.4
子どもの非行やいじめがある	2.2	1.3	25.0	-	6.3	-	4.6	3.3	0.9	0.7
子どもや高齢者などへの虐待の問題がある	1.6	-	-	-	-	-	2.8	0.8	0.4	0.4
ひきこもりの問題がある	5.7	4.9	-	-	3.1	5.8	4.6	3.3	6.6	5.5
交通が不便である	54.4	60.8	75.0	50.0	62.5	40.4	61.1	64.2	62.0	53.5
消防・防災体制の問題がある	13.1	6.6	-	-	9.4	5.8	6.5	4.9	12.7	11.1
治安の問題がある	4.6	3.8	-	-	3.1	1.9	3.7	4.1	4.8	4.4
その他	3.3	2.4	-	-	-	7.7	3.7	4.1	2.2	1.8
特になし	4.4	6.2	-	33.3	12.5	9.6	7.4	4.1	4.4	3.7
無回答	2.5	1.8	-	-	-	-	3.7	2.4	1.3	2.6

地区別でみても、「ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している」が最も高くなっています。また、春日地区、その他の地区では「空き家が多い」も80.0%以上となり、高い割合となっています（図表1－24）。

図表1－24 地域の福祉的な課題（複数回答、地区別）

単位：nは人、他は%

区分	地区別			
	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	620	126	30	44
地域の助け合いの意識が薄れている	21.3	25.4	10.0	22.7
暮らしや福祉について相談できる人がいない	14.5	14.3	16.7	11.4
ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加している	67.6	70.6	86.7	95.5
地域住民に高齢者が多く、集落の維持が難しい	45.5	56.3	80.0	77.3
空き家が多い	33.1	42.9	80.0	86.4
老老介護（介護する人も介護を受ける人も高齢者）の問題がある	32.1	32.5	40.0	45.5
高齢者の見守りができていない	14.2	12.7	20.0	18.2
障がいのある人が地域で生活しにくい	10.8	10.3	20.0	18.2
子どもの非行やいじめがある	2.3	0.8	-	-
子どもや高齢者などへの虐待の問題がある	0.8	0.8	-	-
ひきこもりの問題がある	5.6	5.6	-	2.3
交通が不便である	55.5	67.5	60.0	63.6
消防・防災体制の問題がある	8.7	11.1	6.7	18.2
治安の問題がある	3.9	5.6	3.3	4.5
その他	2.9	4.0	-	-
特になし	6.1	4.0	3.3	-
無回答	2.3	2.4	-	-

「その他」として、図表 1－25の内容が記載されていました。

図表 1－25 地域の福祉的な課題（その他）

・ペットボトル回収が少ない。 ・消防団員の必要性がうすく団員になるとやめられず不満である。 ・村のつき合いが大変なので考えてほしい。 ・子どもが少ない。若い人が住みにくいのかな？ ・担い手となる若い人の減少。 ・小学校毎の生徒数が少なすぎる。そのため子供世帯に住んでもらいにくい。 ・近所の雑草や、木など通る道までおいしげっている。 ・年金が安い。 ・美化デーに出られるのが、高齢者が多くなって維持できなくなっている。 ・病院に通院のバスの本数が少なく大変不便である。 ・冬雪かきが大変！除雪。	・ゴミのポイ捨てが多い。 ・病院まで遠い。 ・少子化対策,結婚支援消滅します。 ・高齢ドライバーが多い。車がないと住めない。 ・買物ができない。 ・獣害＝猿、鹿、熊など。 ・意図的に付き合わず、意見のみ主帳する者。カスハラも有り。 ・人口減少。 ・野生動物が心配。 ・高齢であっても、役がまわってくる（できないのに）。 ・車にのれない人→これから増える→予約？？無理！予定外の事案発生の場合。 ・獣の被害 ・若者が他の地域に流出すること。
---	---

(6) 不安に感じること

毎日の暮らしの中で、困ったり不安を感じたりすることとしては、「老後」が49.0%と最も高く、「家族の健康（44.9%）」「自分の健康（43.0%）」と続きます。

過去の調査と比べると、順序は異なりますが、上位項目は同じです。令和元年調査より高くなっているのは「老後」「家族の健康」などで、低下しているのは「自分の健康」「介護」などです（図表 1－26）。

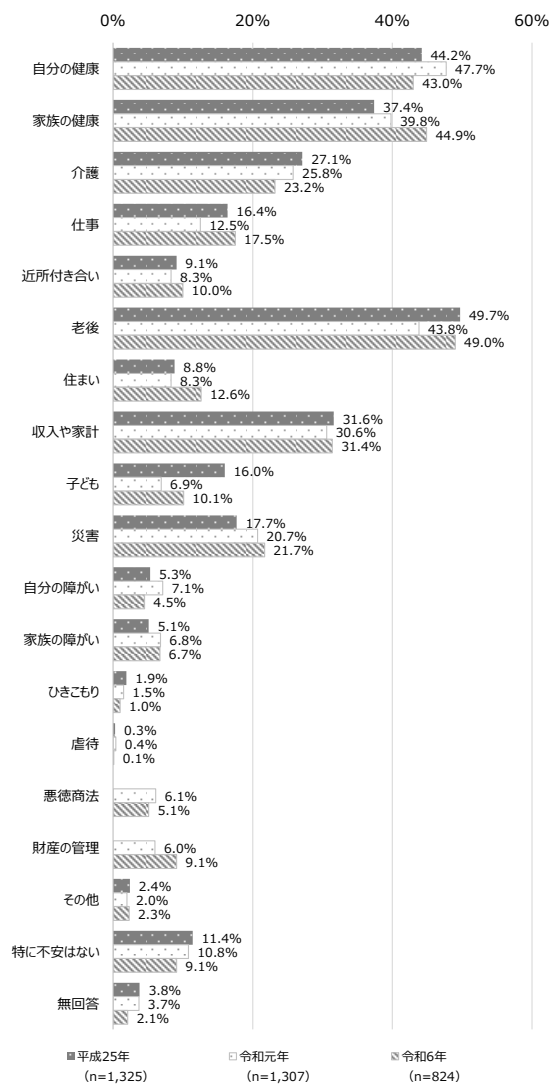
性別でみると、男女ともに「老後」が最も高く、次いで「家族の健康」となっています。

年齢別でみると、10歳代では「仕事」「収入や家計」、20歳代と30歳代は「収入や家計」、40歳代～60歳代は「老後」、70歳以上は「自分の健康」が最も高くなっています。

地区別では、揖斐川地区と谷汲地区では「老後」、春日地区とその他の地区では「自分の健康」が最も高くなっています（図表 1－27）。

「その他」として、図表 1－28の内容が記載されていました。

図表 1－26 不安に感じること（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 27 不安に感じる事（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別							地区別			
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271	620	126	30	44
自分の健康	44.5	42.0	25.0	-	25.0	32.7	21.3	39.8	47.2	54.6	40.8	46.8	53.3	56.8
家族の健康	45.4	44.9	25.0	16.7	21.9	38.5	42.6	45.5	45.9	49.4	45.0	48.4	36.7	43.2
介護	24.9	21.9	-	-	21.9	13.5	17.6	30.9	27.1	20.7	23.1	23.0	23.3	25.0
仕事	20.2	15.3	-	33.3	25.0	30.8	27.8	24.4	17.5	6.3	17.6	16.7	10.0	22.7
近所付き合い	10.9	9.1	25.0	16.7	3.1	19.2	8.3	12.2	9.2	9.2	9.8	11.9	10.0	6.8
老後	45.9	51.5	50.0	16.7	28.1	34.6	43.5	57.7	52.8	49.8	48.5	50.0	50.0	52.3
住まい	13.7	11.7	25.0	16.7	9.4	7.7	18.5	11.4	17.0	8.5	12.7	11.1	16.7	11.4
収入や家計	32.5	30.5	50.0	33.3	34.4	44.2	33.3	37.4	34.1	23.2	34.5	21.4	30.0	20.5
子ども	8.2	11.3	25.0	-	6.3	34.6	29.6	4.1	7.0	3.3	11.8	5.6	3.3	2.3
災害	20.5	22.8	25.0	16.7	21.9	17.3	17.6	22.0	26.2	20.7	19.7	27.0	30.0	31.8
自分の障がい	4.9	4.2	-	-	-	3.8	2.8	4.1	3.5	6.6	4.4	1.6	6.7	11.4
家族の障がい	6.3	7.1	-	-	-	9.6	7.4	9.8	3.5	7.7	7.1	4.8	3.3	9.1
ひきこもり	1.6	0.4	-	-	3.1	1.9	-	-	1.3	1.1	1.3	-	-	-
虐待	0.3	-	-	-	-	-	-	-	0.4	-	0.2	-	-	-
悪徳商法	5.7	4.6	-	-	-	-	1.9	5.7	8.7	4.4	4.7	5.6	6.7	9.1
財産の管理	10.4	8.2	-	-	6.3	3.8	10.2	11.4	10.5	8.1	9.0	8.7	13.3	6.8
その他	1.9	2.7	-	-	6.3	5.8	0.9	0.8	2.2	2.6	2.3	3.2	-	2.3
特に不安はない	8.5	9.7	-	33.3	28.1	3.8	10.2	3.3	9.2	9.6	9.8	5.6	10.0	9.1
無回答	1.6	2.4	-	-	-	-	2.8	-	2.2	3.3	2.3	2.4	-	-

図表 1 - 28 不安に感じる事（その他）

・夫婦関係 ・家、田畑、林の管理 ・ゴミ、不用品の処分 ・くま、しか ・自分の責任 ・大型車の通行。ごみ集配車。ガスタンク車（13t）通行道路の整備（子供が多い地域）。堤防を広くする。 ・裏の空屋が木がモシャモシャ ・揖斐川町の限界集落化 ・出産 ・害獣 ・子供が離れて暮らしている。 ・親族の介護、障がい ・70才でも出来る仕事が少ない！ ・空家になっている庭等の草木が手入れされてなくて通り道がせまくなり困る。 ・防犯	・子育て ・自営業や不動産などの後継あるいは処分 ・森前の堤防沿いに桜の木が大量に植えてあるから切って欲しい。理由は枝が道路にまで伸びていてしっかりと左に寄って運転できないから道路真ん中よりで運転するので対向車が見えなくて危ない。強風、雪で枝が折れて道路に散乱して危険。人や車に当たる可能性大。木の幹にまで草ボーボーと巻きついていて。右折左折が本当に車が見えなくて危ない。本当に切ってくださいお願いします。同様にクリニックIBの辺のはなももの木？じゃまです！左に寄ると車が木の枝でキズつきます！道沿いに木を植えることを絶対にしないでください。迷惑なんです！ ・揖斐川町にスーパーがないので大野町へ行くことになる。だから揖斐川町に活気を感じられない。
---	---

(7) 相談相手

困ったときの相談相手としては、「親族」が77.7%と最も高く、「知人・友人」も40.0%と、比較的高い割合です。一方で、「相談できる人がいない」は5.2%（43人）あります。

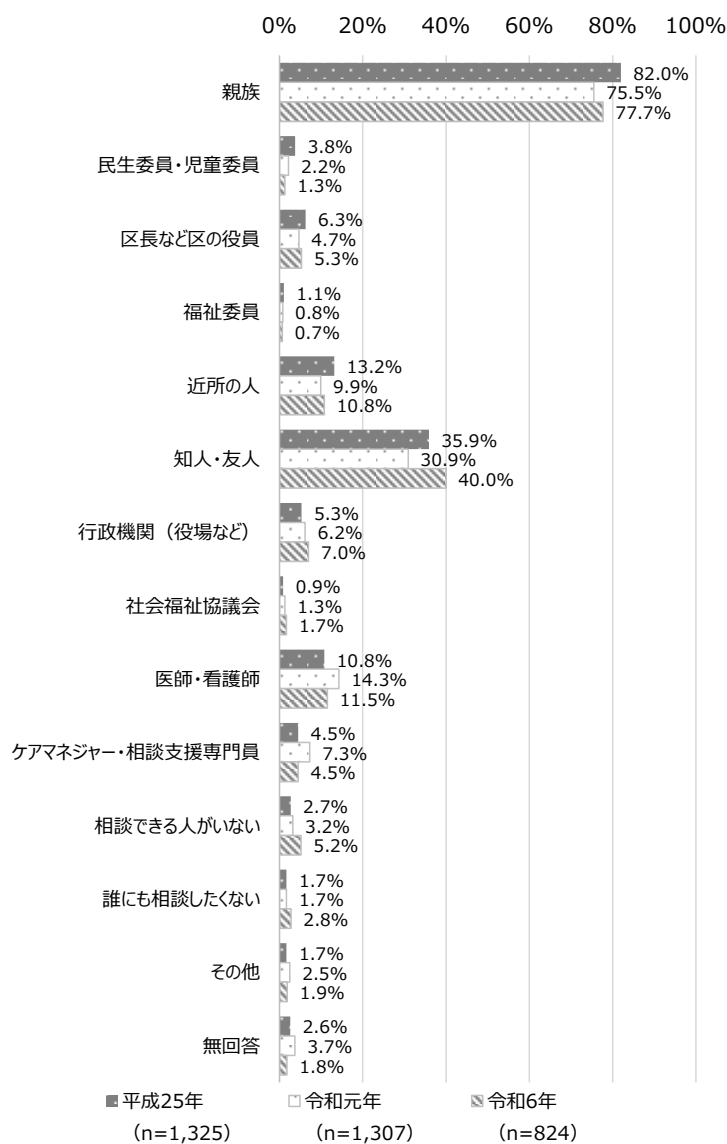
過去の調査と比べても、上位2項目は同じです。令和元年調査と比べて高くなっているのは、「親族」「知人・友人」などで、低くなっているのは「医師・看護師」「ケアマネジャー・相談支援専門員」などの医療・看護・介護の専門職となります。（図表1－29）

性別、年齢別、地区別、すべての属性で「親族」が最も高く、次いで、「知人・友人」となっています。

（図表1－30）

「その他」として、図表1－31の内容が記載されていました。

図表1－29 相談相手（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 30 相談相手（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別							地区別			
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271	620	126	30	44
親族	72.7	81.9	50.0	66.7	90.6	84.6	79.6	78.9	75.5	75.6	78.7	78.6	66.7	70.5
民生委員・児童委員	1.9	0.9	-	-	3.1	1.9	-	1.6	0.4	2.2	1.3	-	6.7	2.3
区長など区の役員	6.3	4.6	-	-	9.4	1.9	0.9	5.7	4.8	7.7	4.4	4.0	13.3	18.2
福祉委員	0.5	0.9	-	-	-	-	-	-	1.3	1.1	0.6	-	-	4.5
近所の人	11.2	10.6	-	-	6.3	7.7	4.6	13.8	11.8	12.5	9.2	13.5	20.0	20.5
知人・友人	32.2	46.0	100.0	50.0	46.9	48.1	60.2	48.0	38.0	27.7	41.8	38.9	23.3	34.1
行政機関（役場など）	9.8	4.9	-	-	-	7.7	6.5	4.9	7.4	8.9	6.5	9.5	3.3	11.4
社会福祉協議会	1.9	1.5	-	-	-	3.8	-	0.8	1.3	3.0	1.5	3.2	3.3	-
医師・看護師	11.5	11.5	25.0	16.7	6.3	1.9	13.0	5.7	14.8	13.3	11.0	11.9	13.3	18.2
ケアマネジャー・相談支援専門員	6.3	3.1	-	-	-	3.8	-	1.6	8.3	5.2	5.2	1.6	3.3	4.5
相談できる人がいない	7.4	3.3	25.0	-	3.1	5.8	4.6	5.7	5.2	5.5	5.0	7.1	10.0	-
誰にも相談したくない	3.6	2.2	-	16.7	-	3.8	6.5	0.8	3.5	1.5	3.1	1.6	3.3	-
その他	2.7	1.3	-	-	3.1	1.9	1.9	0.8	2.2	2.2	1.6	4.0	3.3	-
無回答	1.6	2.0	-	-	-	-	0.9	-	1.7	3.7	1.5	4.0	-	-

図表 1 - 31 相談相手（その他）

・困ったことはない（今は特になし等）（3人） ・考えられる相手がうかばない。 ・相談しない。 ・健康である。 ・産土様（神社） ・グループホームの職員。 ・自分で	・どこに行けば相談できるかわからない。 ・自分のネットワーク。調べる。情報収集。 ・同じ揖斐川町内の人とはうわさ話が多い。 ・子育て支援センターの職員 ・ネットなどの情報
---	---

(8) 家族以外に手助けしてほしいこと

家族以外の誰かに手助けしてほしいことはあるかをたずねたところ、「特にない」が48.7%となりましたが、一方で、「特にない」と「無回答（5.3%）」を除くと、46.0%が何らかの手助けを必要としています。

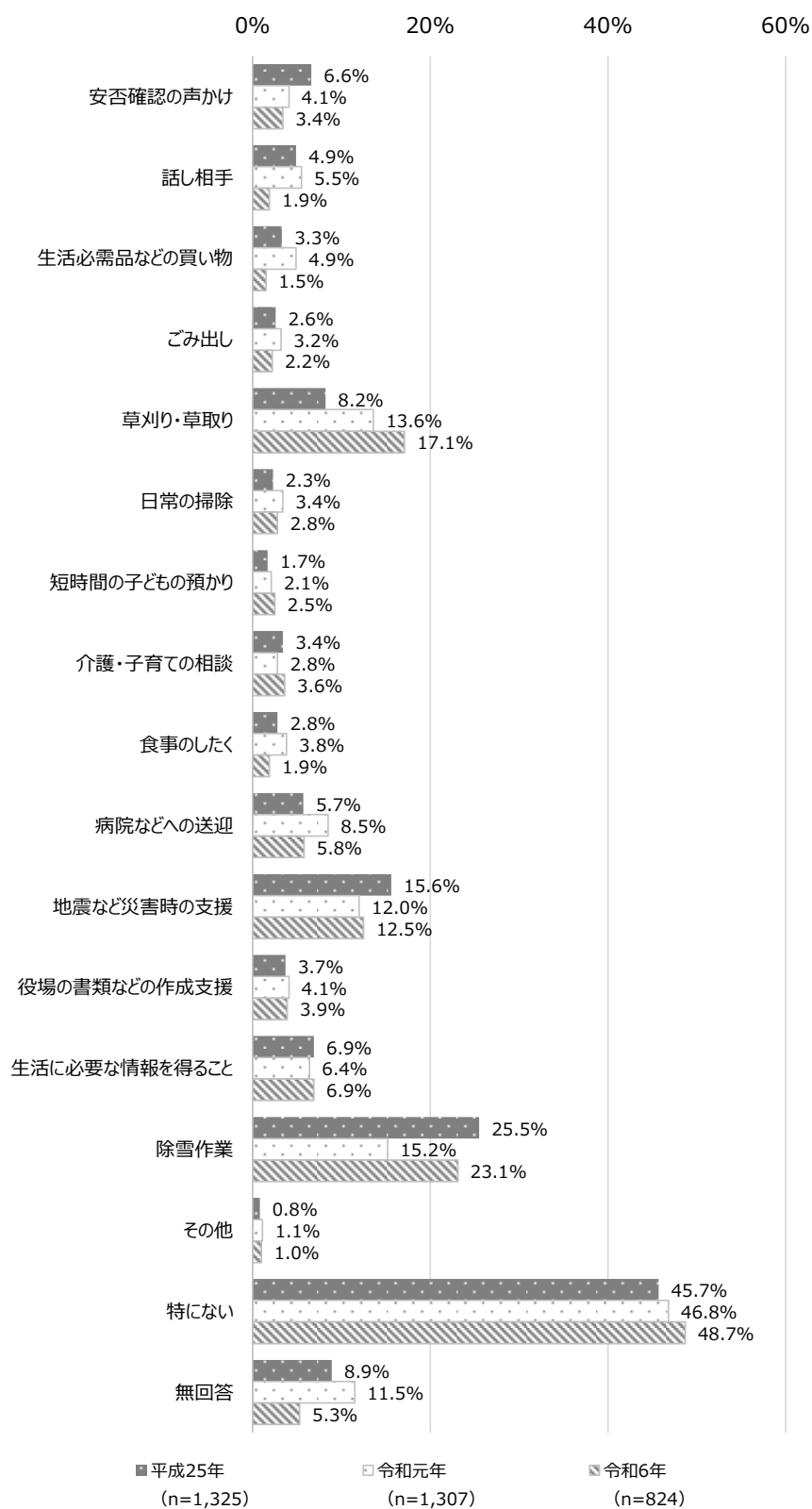
手助けしてほしいこととしては、「除雪作業」が23.1%と最も高く、「草刈り・草取り（17.1%）」「地震など災害時の支援（12.5%）」が続きます。

過去の調査と比べると、「草刈り・草取り」が平成25年調査から上昇傾向にあり、8.9ポイント高くなっています。（図表1－32）

性別でみると、男女ともに「除雪作業」が最も高く、次いで「草刈り・草取り」となっています。年齢別にみると、30歳代以外は「除雪作業」が最も高く、30歳代は「短時間の子どもの預かり」が最も高くなっています。（図表1－33）

「その他」として、図表1－34の内容が記載されていました。

図表 1 - 32 家族以外に手助けしてほしいこと（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 33 家族以外に手助けしてほしいこと（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別							地区別			
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271	620	126	30	44
安否確認の声かけ	3.6	3.3	-	-	3.1	1.9	-	4.9	4.4	3.7	3.4	0.8	13.3	4.5
話し相手	1.4	2.4	-	-	3.1	1.9	0.9	-	1.3	3.3	1.9	1.6	-	4.5
生活必需品などの買い物	1.4	1.5	-	-	-	-	-	2.4	0.9	2.6	1.1	0.8	10.0	2.3
ごみ出し	3.3	0.9	50.0	16.7	6.3	-	0.9	2.4	2.2	1.8	2.1	1.6	3.3	4.5
草刈り・草取り	17.8	16.4	25.0	16.7	9.4	13.5	13.9	18.7	21.4	15.5	16.3	24.6	13.3	9.1
日常の掃除	2.7	2.9	-	-	6.3	3.8	1.9	4.9	3.1	1.5	2.7	1.6	6.7	4.5
短時間の子どもの預かり	0.8	3.8	25.0	-	3.1	21.2	5.6	-	0.9	0.4	3.1	1.6	-	-
介護・子育ての相談	5.7	2.0	-	-	-	9.6	7.4	3.3	3.1	1.8	3.5	4.8	3.3	2.3
食事のしたく	2.2	1.8	-	-	6.3	5.8	2.8	1.6	2.2	0.4	2.3	-	3.3	2.3
病院などへの送迎	7.1	4.6	-	-	3.1	3.8	5.6	7.3	4.4	6.6	5.2	6.3	10.0	9.1
地震など災害時の支援	12.3	12.8	-	-	15.6	13.5	10.2	8.9	14.4	13.3	11.9	12.7	16.7	15.9
役場の書類などの作成支援	4.6	3.1	25.0	-	-	3.8	3.7	2.4	4.8	4.4	4.0	4.0	3.3	2.3
生活に必要な情報を得ること	6.6	7.1	-	-	3.1	13.5	10.2	4.9	7.0	5.5	8.1	3.2	3.3	2.3
除雪作業	20.2	25.2	50.0	50.0	18.8	17.3	27.8	25.2	23.1	21.4	22.7	23.0	33.3	18.2
その他	0.8	0.9	-	-	-	-	0.9	1.6	0.9	0.7	1.1	-	-	-
特になし	53.0	45.6	25.0	50.0	62.5	36.5	51.9	52.8	47.2	48.0	47.9	50.8	53.3	54.5
無回答	5.7	5.1	-	-	-	-	1.9	4.1	5.2	9.2	4.8	7.9	-	9.1

図表 1 - 34 家族以外に手助けしてほしいこと（その他）

・健康のために公民館サークル活動がほしい。 ・猫の駆除。 ・パソコン、スマホが使えない。 ・美化デー土砂運搬	・木の剪定と処理。 ・部落の行事。 ・地区役員 ・庭木の剪定。
---	--

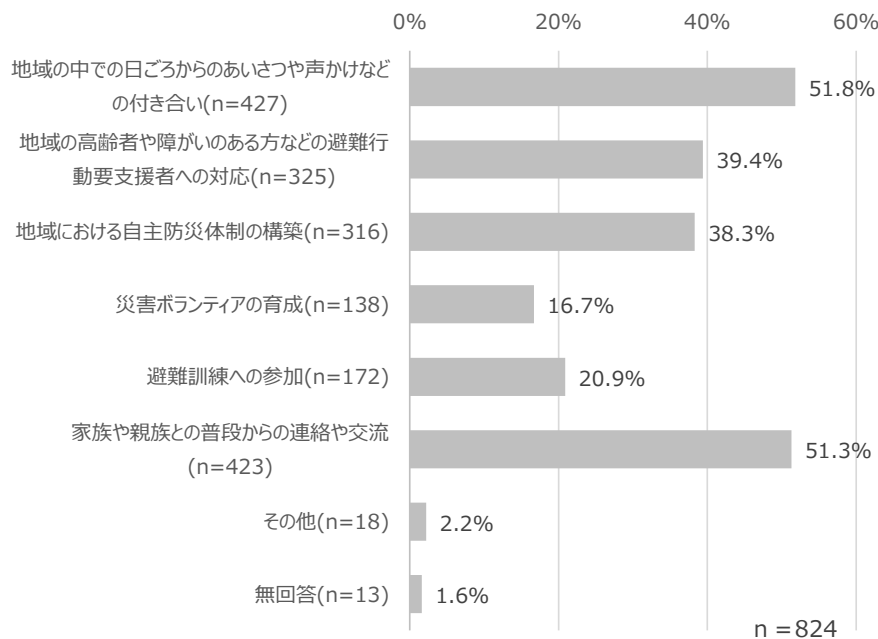
(9) 災害時に必要な助け合い

「東海地震や東南海地震などが懸念される中、災害時における助け合いを行う上でどのようなことが必要だと思いますか」という設問に対しては、「地域の中での日ごろからのあいさつや声かけなどの付き合い」「家族や親族との普段からの連絡や交流」の2項目が50%以上となっています。（図表1－35）

性別、年齢別、地区別にみると、年齢別の30歳代～70歳以上は、「地域の中での日ごろからのあいさつや声かけなどの付き合い」「家族や親族との普段からの連絡や交流」の2項目が上位を占めています。10歳代は「地域の高齢者や障がいのある方などの避難行動要支援者への対応」が最も高く、20歳代は「地域における自主防災体制の構築」が最も高くなっています（図表1－36）

「その他」として、図表1－37の内容が記載されていました。

図表1－35 災害時に必要な助け合い（複数回答）



図表 1 - 36 災害時に必要な助け合い（複数回答、属性別）

単位：n は人、他は%

区分	性別			年齢別							地区別			
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271	620	126	30	44
地域の中での日ごろからのあいさつや声かけなどの付き合い	46.4	56.0	75.0	33.3	21.9	55.8	41.7	57.7	48.5	59.4	52.9	50.8	43.3	45.5
地域の高齢者や障がいのある方などの避難行動要支援者への対応	41.0	38.1	50.0	83.3	40.6	42.3	37.0	36.6	44.5	35.4	36.6	41.3	66.7	54.5
地域における自主防災体制の構築	43.2	34.5	25.0	16.7	53.1	44.2	40.7	34.1	41.5	34.3	36.3	48.4	20.0	52.3
災害ボランティアの育成	19.9	14.2	25.0	16.7	18.8	13.5	14.8	13.8	20.5	16.2	17.4	16.7	6.7	15.9
避難訓練への参加	22.1	20.1	-	16.7	6.3	9.6	15.7	16.3	20.1	29.9	19.8	20.6	30.0	31.8
家族や親族との普段からの連絡や交流	45.4	56.0	75.0	50.0	37.5	53.8	49.1	43.1	51.5	56.8	52.9	47.6	50.0	43.2
その他	3.0	1.5	-	-	-	3.8	2.8	2.4	0.9	3.0	2.1	2.4	3.3	2.3
無回答	1.9	1.3	-	-	-	-	1.9	-	1.7	2.6	1.8	1.6	-	-

図表 1 - 37 災害時に必要な助け合い（その他）

・各自の防災意識を高めること。 ・災害時を想定して避難訓練の実施。 ・災害時飼育動物を考える ・公民館や体育館以外の自主的な避難先が自由に選べること。 ・心がまえ ・個人による防災意識の向上。 ・地域住民が高齢化しており、助け合いが困難。 ・災害に対応した事前準備の周知。 ・その地域を守っていききたいと思えるような魅力。 ・助け合いも必要ですが、ペットを飼っている人の事も考えて下さい。ペット同伴で避難できますか？そこも考えて下さい。ペットは家族です！！助け合いは、言われなくてもみんな協力するでしょう！！	・避難場所がはっきりしていない。安心して避難できる所がない。 ・各種ボランティア活動の推進。 ・トイレが使えなくなることがもっとも心配。 ・半数が高齢者なのに、要支援者ばかりでどう対応するの？ ・役所の人が率先して活動できるような体制づくりと訓練 ・災害にあってみないとわからない。 ・自分はいらない。 ・無し。
---	---

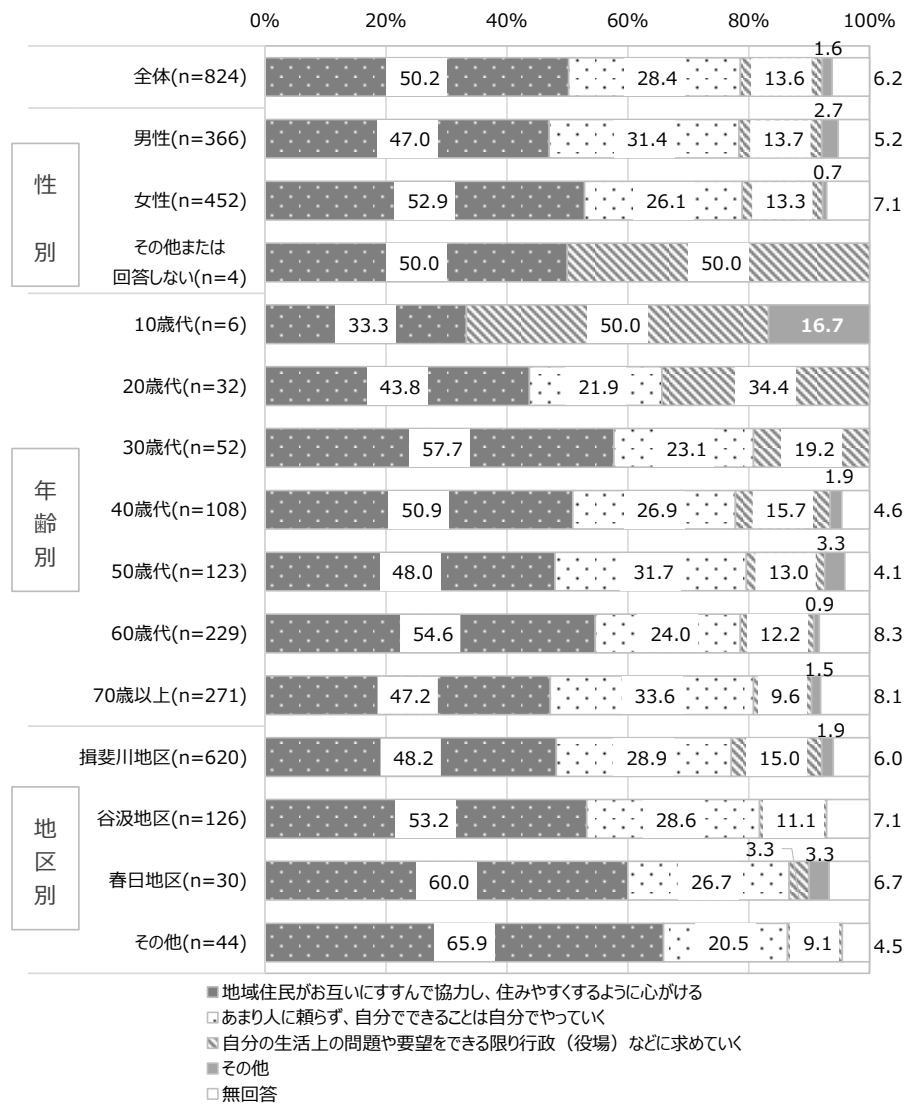
(10) 地域生活で最も重要なこと

地域生活について、最も重要と考えるものをたずねたところ、「地域住民がお互いにすすんで協力し、住みやすくするように心がける」が50.2%を占めています。

属性別にみると、10歳代以外では、「地域住民がお互いにすすんで協力し、住みやすくするように心がける」が最も高くなっています。10歳代で最も高かったのは、「自分の生活上の問題や要望をできる限り行政（役場）などに求めていく」となっています。（図表1－38）

「その他」として、図表1－39の内容が記載されていました。

図表1－38 地域生活で最も重要なこと（属性別）



図表 1－39 地域生活で最も重要なこと（その他）

・若者が逃げないようにする。 ・互いに干渉しない。 ・行政との信頼関係。 ・税金を安くする。 ・心がまえ ・人的、金銭的支援を行政の責任をもって、地域づくりを進める。 ・行政サービス助成などの説明一覧があれば良い。行政のたてわりと住民へのサービス提供をさまたげる様なことがない様にしていきたい。	・地域住民と行政のバランスの確保が前提。 ・役員をなくす。 ・企業誘致と、雇用 ・現役世代の増加ができる住みやすく利便性の高い町 ・アパートの人はむりです。 ・私も年をとりできない事が多くなりました。近所の人とのコミュニケーションを大切にと思っています。
---	--

3 ボランティア活動について

(1) ボランティア活動の参加状況

ボランティア活動への参加については、現在「活動している」（以下、「参加率」）は18.9%、「以前に活動したことがある」は27.9%、「活動したことはない」は47.5%となっています。

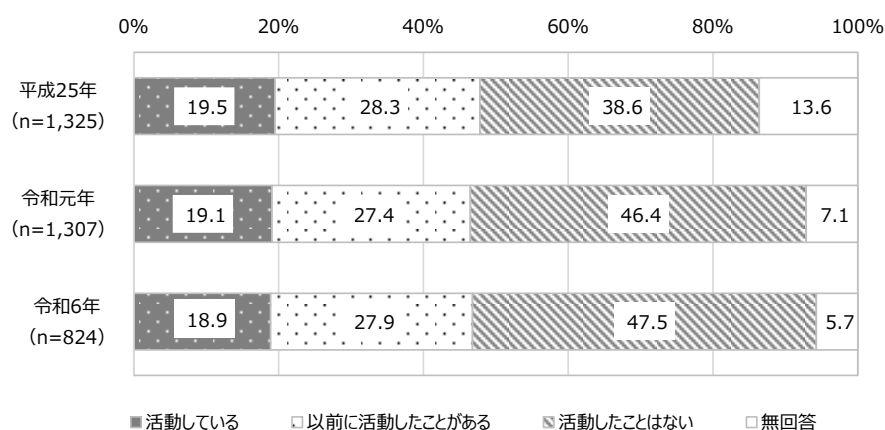
過去の調査と比べると、平成25年調査とほぼ同様の参加率となっています（図表 1－40）。

性別でみると、参加率は女性に比べて男性が7.5ポイント高くなっています。

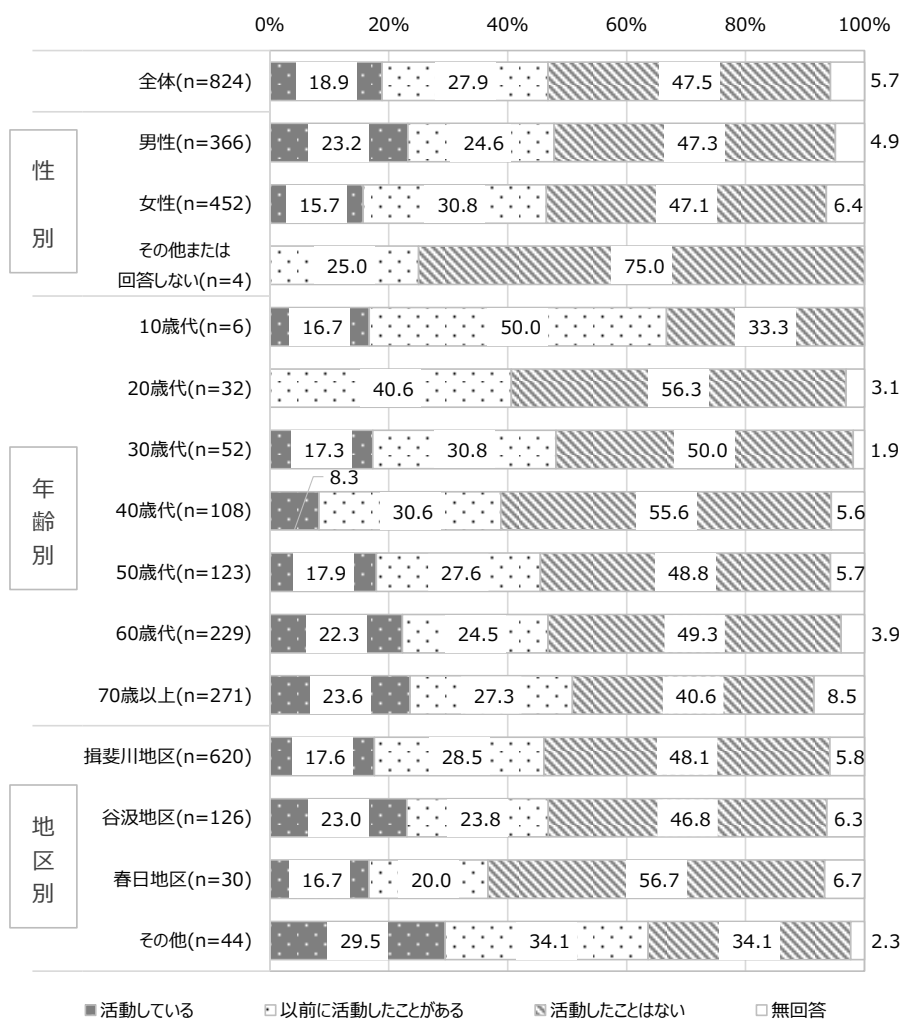
年齢別でみると、参加率は20歳代が0%と最も低く、60歳代～70歳以上で20%以上です。

地区別では、その他の地区の参加率が29.5%と他地区に比べて高くなっています。（図表 1－41）

図表 1－40 ボランティア活動の参加状況の推移（平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 41 ボランティア活動の参加状況（属性別）

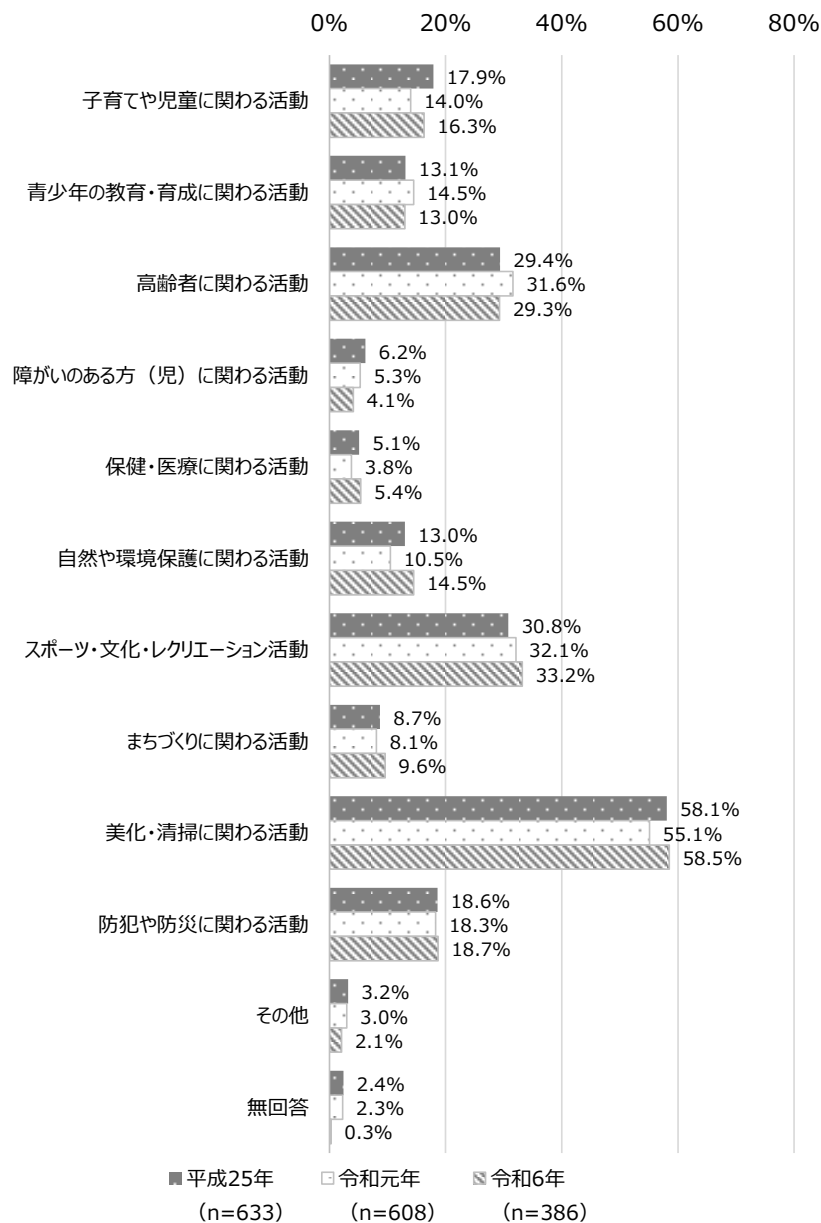


(2) ボランティア活動の内容

前項で「活動している」または「以前に活動したことがある」と答えた人にボランティア活動の内容をたずねたところ、「美化・清掃に関わる活動」が58.5%と最も高く、次いで「スポーツ・文化・レクリエーション活動（33.2%）」「高齢者に関わる活動（29.3%）」と続きます。

過去の調査と比べても、同じ項目が上位を占めています。（図表 1－42）

図表 1－42 ボランティア活動の内容（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



性別・年齢別でも、いずれも「美化・清掃に関わる活動」が最も高くなっています。（図表 1 - 43）

図表 1 - 43 ボランティア活動の内容（複数回答、属性別）

単位：n は人、他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	175	210	1	4	13	25	42	56	107	138
子育てや児童に関わる活動	14.3	18.1	-	25.0	7.7	24.0	26.2	19.6	18.7	9.4
青少年の教育・育成に関わる活動	16.6	10.0	-	-	15.4	-	7.1	10.7	19.6	13.0
高齢者に関わる活動	13.1	42.9	-	-	23.1	12.0	11.9	10.7	36.4	41.3
障がいのある方（児）に関わる活動	2.9	5.2	-	-	7.7	4.0	4.8	7.1	2.8	2.9
保健・医療に関わる活動	6.3	4.8	-	-	-	8.0	4.8	1.8	5.6	7.2
自然や環境保護に関わる活動	25.1	5.7	-	-	30.8	8.0	11.9	8.9	15.9	16.7
スポーツ・文化・レクリエーション活動	38.9	28.6	-	25.0	38.5	32.0	19.0	33.9	33.6	37.0
まちづくりに関わる活動	14.9	5.2	-	-	15.4	8.0	7.1	14.3	12.1	6.5
美化・清掃に関わる活動	64.0	53.8	100.0	75.0	84.6	52.0	50.0	66.1	57.9	57.2
防犯や防災に関わる活動	30.3	9.0	-	-	15.4	4.0	31.0	26.8	20.6	13.8
その他	2.9	1.4	-	-	-	-	-	1.8	1.9	3.6
無回答	-	0.5	-	-	-	-	-	-	0.9	-

地区別でみても、「美化・清掃に関わる活動」が最も高く、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」もしくは「高齢者に関わる活動」が続きます（図表 1－44）

「その他」として、図表 1－45の内容が記載されていました。

図表 1－44 ボランティア活動の内容（複数回答、地区別）

単位：n は人、他は%

区分	地区別			
	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	286	59	11	28
子育てや児童に関わる活動	17.8	13.6	18.2	7.1
青少年の教育・育成に関わる活動	10.5	23.7	9.1	17.9
高齢者に関わる活動	25.9	37.3	45.5	39.3
障がいのある方（児）に関わる活動	4.2	5.1	-	3.6
保健・医療に関わる活動	5.2	5.1	9.1	7.1
自然や環境保護に関わる活動	15.0	11.9	18.2	14.3
スポーツ・文化・レクリエーション活動	33.2	30.5	27.3	39.3
まちづくりに関わる活動	8.4	11.9	18.2	14.3
美化・清掃に関わる活動	57.7	55.9	72.7	71.4
防犯や防災に関わる活動	18.5	20.3	27.3	14.3
その他	1.0	3.4	-	10.7
無回答	0.3	-	-	-

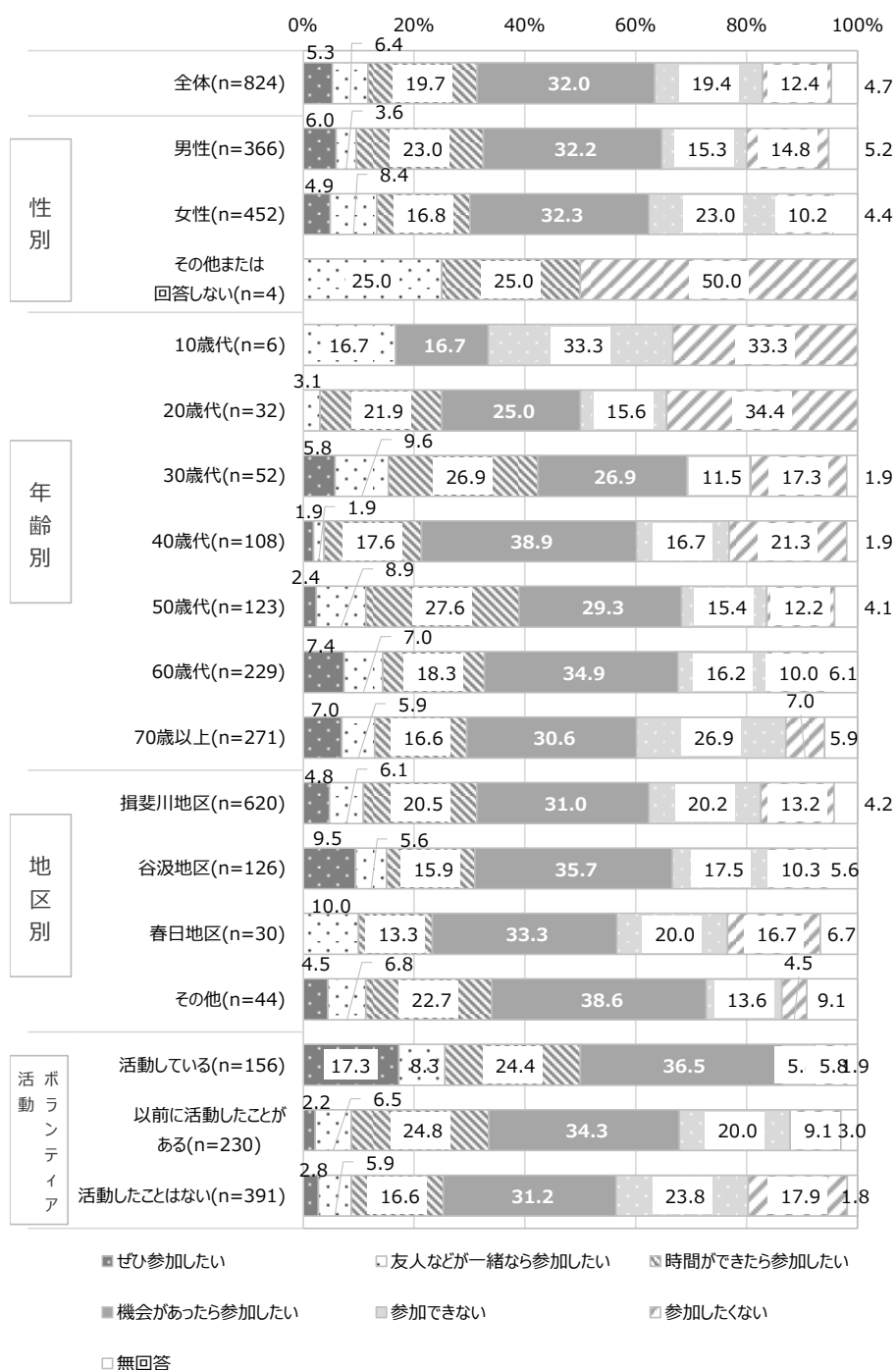
図表 1－45 ボランティア活動の内容（その他）

・近所の幼稚園の茶道。 ・国際交流 ・婚活支援、九ちゃんクラブ	・有償 ・保護司 ・朝市
---	--

(3) 地域の助け合いの参加意向

今後、地域の助け合い（有償ボランティア・無償ボランティアを含む）に参加したいかたずねたところ、「ぜひ参加したい」は5.3%です。これに「友人などが一緒なら参加したい」「時間ができたら参加したい」「機会があったら参加したい」を加えた＜参加意向＞は63.4%となります。

図表 1 - 46 地域の助け合いの参加意向（属性別）



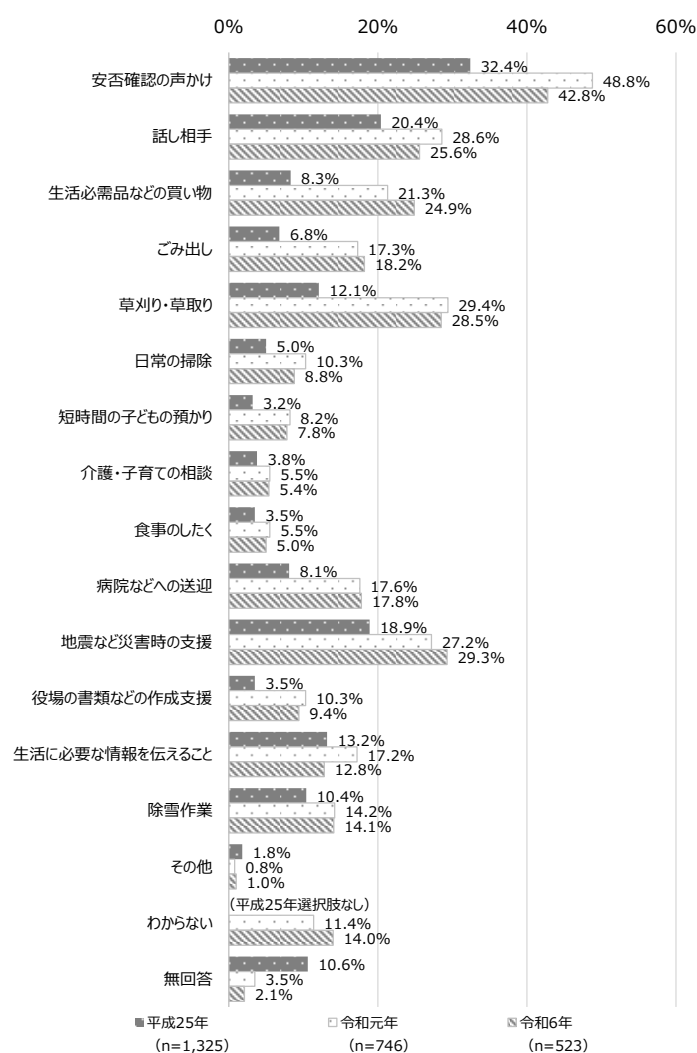
「ぜひ参加したい」が高いのは、性別では「男性」、年齢別では「60歳代」、地区別では「谷汲地区」、ボランティアの活動状況別では「活動している」とした人です。（図表 1－46）

（4）今後できそうな地域の助け合い

前項で〈参加意向〉を示した人に、今後できそうな地域の助け合い（有償ボランティア・無償ボランティアを含む）は何かをたずねたところ、「安否確認の声かけ」が42.8%と最も高くなっています。「話し相手」「生活必需品などの買い物」「草刈り・草取り」「地震など災害時の支援」も20%以上です。

過去の調査とは選択肢が異なるため、簡単には比較できませんが、平成25年調査から「生活必需品などの買い物」「地震など災害時の支援」などが増加傾向にあります。（図表 1－47）

図表 1－47 今後できそうな地域の助け合い（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



性別でみると、男性は「草刈り・草取り」が最も高く、女性は「安否確認の声かけ」が最も高くなっています。女性に比べて男性が高いのは、「草刈り・草取り」「地震など災害時の支援」「除雪作業」などで、女性が高いのは「安否確認の声かけ」「話し相手」「生活必需品などの買い物」「短時間の子どもの預かり」などです。

年齢別でみると30歳代～70歳代以上で「安否確認の声かけ」が最も高くなっています。20歳代は「地震など災害時の支援」が高くなっています。（図表 1－48）

図表 1－48 今後できそうな地域の助け合い（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別							地区別			
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	237	282	2	2	16	36	65	84	155	163	387	84	17	32
安否確認の声かけ	33.8	50.7	50.0	-	25.0	33.3	35.4	35.7	51.6	46.0	40.3	50.0	47.1	56.3
話し相手	16.0	33.7	-	-	25.0	27.8	13.8	19.0	31.0	28.2	22.5	41.7	11.8	28.1
生活必需品などの買い物	19.0	29.8	-	-	25.0	19.4	21.5	19.0	35.5	20.2	23.5	28.6	23.5	31.3
ごみ出し	17.7	18.8	-	-	31.3	13.9	6.2	13.1	24.5	19.6	16.5	21.4	29.4	25.0
草刈り・草取り	47.7	12.4	-	-	31.3	19.4	10.8	31.0	29.7	35.0	24.8	35.7	41.2	46.9
日常の掃除	8.9	8.9	-	-	12.5	8.3	10.8	9.5	8.4	8.0	7.8	10.7	17.6	12.5
短時間の子どもの預かり	2.5	12.1	-	-	12.5	11.1	15.4	10.7	7.7	1.8	7.8	9.5	-	6.3
介護・子育ての相談	3.4	7.1	-	50.0	18.8	8.3	3.1	4.8	5.8	3.7	5.7	4.8	-	6.3
食事のしたく	0.8	8.5	-	-	6.3	5.6	10.8	2.4	4.5	4.3	4.4	6.0	5.9	9.4
病院などへの送迎	19.4	16.7	-	-	18.8	16.7	18.5	17.9	20.6	15.3	18.3	13.1	11.8	28.1
地震など災害時の支援	42.6	18.4	-	-	43.8	16.7	30.8	27.4	29.0	31.9	28.2	28.6	41.2	40.6
役場の書類などの作成支援	11.8	7.4	-	-	12.5	8.3	13.8	7.1	9.0	9.2	10.1	7.1	-	12.5
生活に必要な情報を伝えること	13.5	12.4	-	-	6.3	16.7	12.3	6.0	14.8	14.7	12.7	11.9	11.8	18.8
除雪作業	24.5	5.7	-	-	6.3	27.8	10.8	16.7	11.6	14.7	12.4	13.1	23.5	34.4
その他	1.3	0.7	-	-	-	2.8	1.5	-	0.6	1.2	0.8	1.2	5.9	-
わからない	9.3	17.7	50.0	50.0	12.5	11.1	32.3	19.0	10.3	8.0	16.0	8.3	5.9	6.3
無回答	3.4	1.1	-	-	-	-	-	1.2	1.9	4.3	2.1	1.2	-	6.3

「その他」として、図表 1－49の内容が記載されていました。

図表 1－49 今後できそうな地域の助け合い（その他）

・「おたすけサポーターはなもも」活動中。 ・たのまれた事について。	・子育て支援センターでの行事の際に子どもの面倒をみる（託児）。
--	---

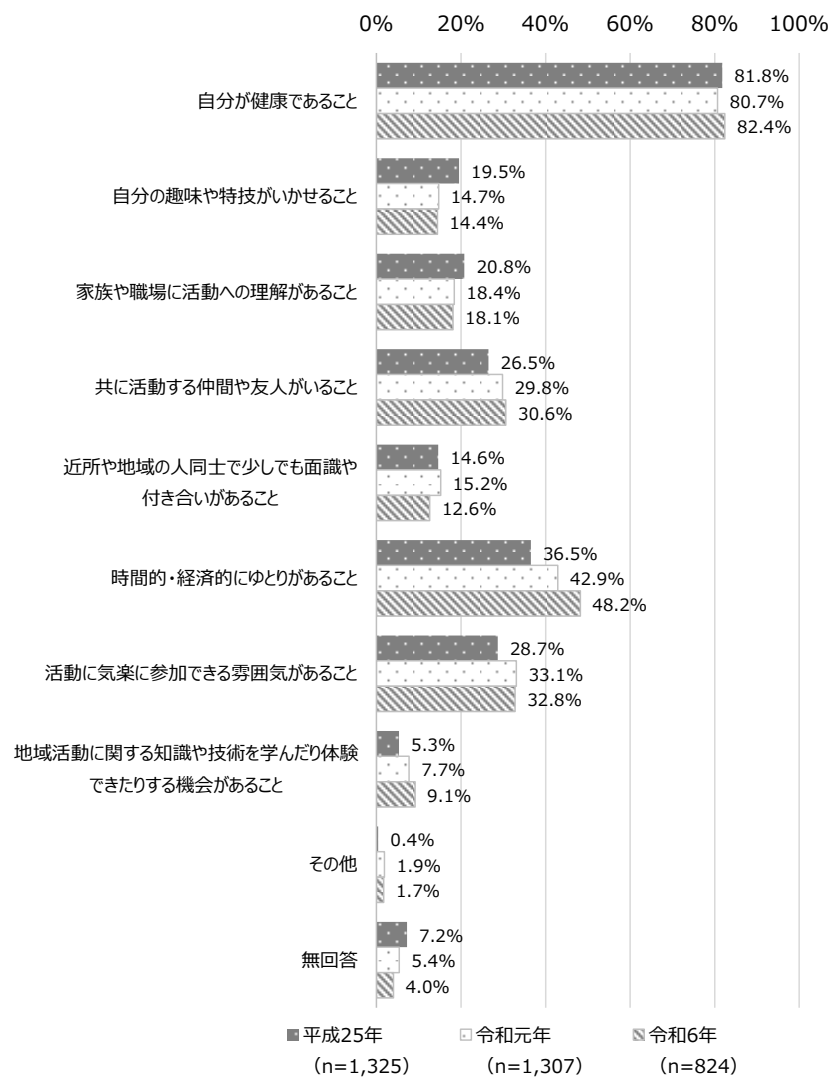
(5) ボランティア活動を進める上で必要な条件

ボランティア活動を進めていく上での必要な条件をたずねたところ、「自分が健康であること」が82.4%と最も高く、次いで「時間的・経済的にゆとりがあること（48.2%）」、「活動に気楽に参加できる雰囲気があること（32.8%）」、「共に活動する仲間や友人がいること（30.6%）」となっています。過去の調査に比べると、「自分が健康であること」「時間的・経済的にゆとりがあること」などが高くなっています（図表1－50）。

性別・年齢別・地区別でみると、10歳代を除き「自分が健康であること」が最も高くなっています。10歳代では「時間的・経済的にゆとりがあること」が最も高くなっています（図表1－51）。

「その他」として、図表1－52の内容が記載されていました。

図表1－50 ボランティア活動を進める上で必要な条件（複数回答、平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 51 ボランティア活動を進める上で必要な条件（複数回答、属性別）

単位：nは人、その他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271
自分が健康であること	82.2	82.5	75.0	16.7	56.3	76.9	69.4	80.5	86.0	90.8
自分の趣味や特技がいかせること	18.9	10.8	25.0	16.7	18.8	23.1	13.0	17.1	12.2	13.7
家族や職場に活動への理解があること	17.5	18.1	50.0	16.7	21.9	28.8	31.5	22.8	11.4	13.7
共に活動する仲間や友人がいること	29.0	31.9	25.0	16.7	25.0	21.2	14.8	24.4	39.3	35.1
近所や地域の人同士で少しでも面識や付き合いがあること	14.8	11.1	-	-	9.4	26.9	8.3	9.8	11.8	14.4
時間的・経済的にゆとりがあること	48.1	48.0	75.0	83.3	50.0	65.4	64.8	56.9	51.1	31.0
活動に気楽に参加できる雰囲気があること	33.3	32.5	25.0	50.0	31.3	26.9	30.6	29.3	33.6	35.4
地域活動に関する知識や技術を学んだり体験できたりする機会があること	6.6	11.3	-	-	12.5	3.8	7.4	9.8	13.1	7.0
その他	2.2	1.1	25.0	16.7	-	-	2.8	2.4	1.3	1.5
無回答	3.6	4.4	-	-	-	-	4.6	4.1	4.8	4.4

図表 1 - 52 ボランティア活動を進める上で必要な条件（その他）

・ボランティア活動はしない（参加したくない）（2人） ・現在は介護中で参加できない。 ・強制ボランティアは良くない。 ・ボランティアの名のもとで強制されないこと。 ・ひざが悪いから。 ・車がない事。 ・人間関係の構築（傾聴）。	・年齢的による。 ・社会にそういった役割、仕組みが理解されること。 ・やりたいと思える内容。 ・日常の活動拠点とボランティアの活動拠点が時間的に近いこと ・ボランティアに興味を持つこと ・わからない。
---	---

4 医療機関への受診について

(1) 受診状況

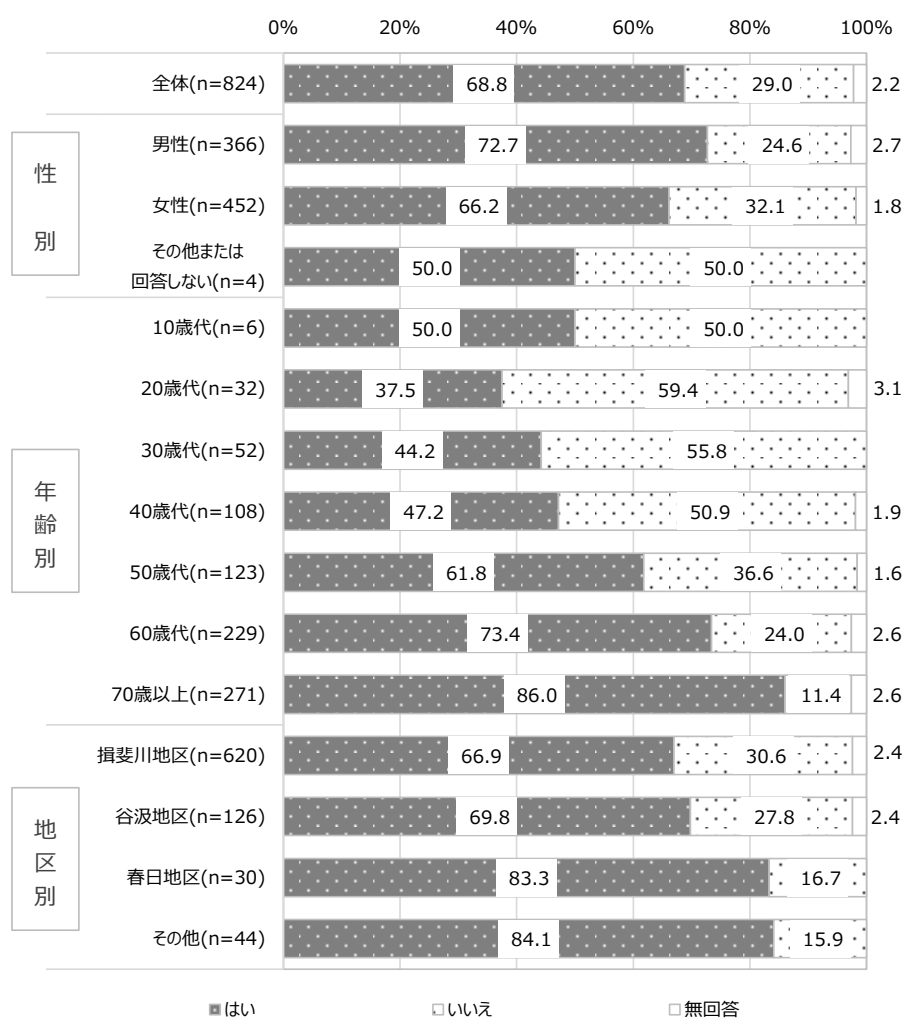
現在、定期的に医療機関（医科…内科、整形外科、眼科、精神科など）を受診している人は68.8%です。

性別でみると、受診率は男性（72.7%）が女性（66.2%）よりも6.5ポイント高くなっています。

年齢別にみると、20歳代から年齢が上がるにつれて受診率は高くなり、70歳以上では86.0%となっています。

地区別にみると、春日地区やその他の地区で80%を超えています。

図表 1 - 53 定期的に医療機関を受診しているか（属性別）



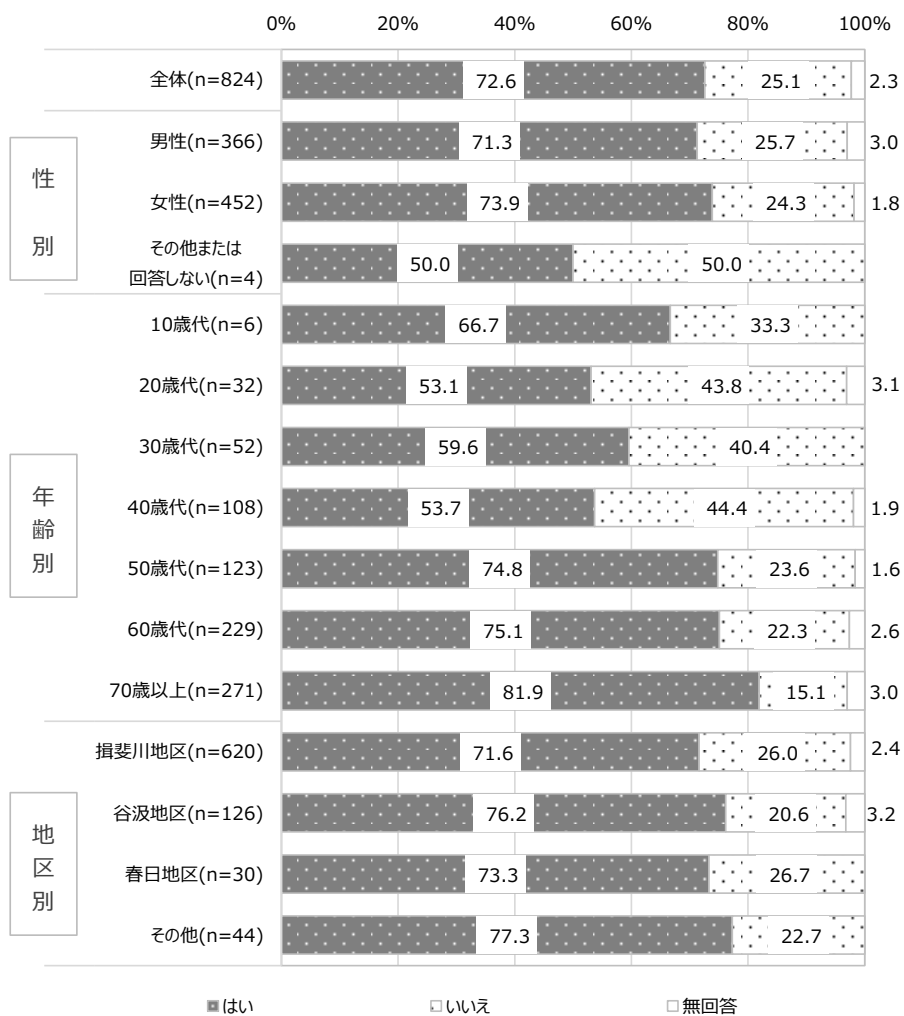
(2) かかりつけ医の有無

体調や健康のことなどを気軽に受診・相談することができる医師（かかりつけ医）がいるかたずねたところ、「はい（いる）」は72.6%となっています。

性別でみると、男性と女性で大きな差は見られず、年齢別では、40歳代以降では、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。

地区別では、大きな差はなく、いずれの地区も70%を超えています。

図表 1 - 54 かかりつけ医はいるか（属性別）



(3) 最初に受診する医療機関

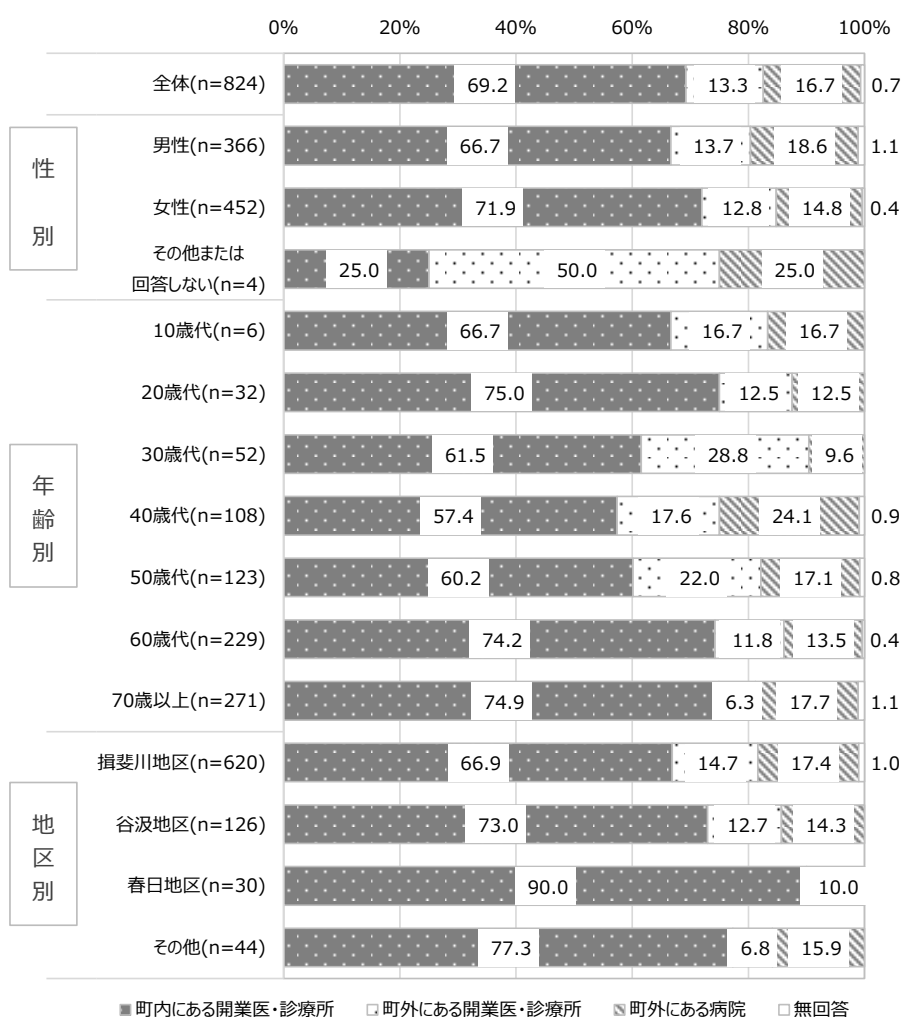
「あなたは、体調不良や健康面で心配なことがあるときに、最初にどの医療機関を受診しますか」という設問に対しては、「町内にある開業医・診療所」が69.2%を占めています。次いで「町外にある病院」が16.7%となっています。「町外にある開業医・診療所」「町外にある病院」を合わせた〈町外〉の医療機関を受診している人は、30.0%となります。

性別でみると、「町内にある開業医・診療所」を受診している人は、女性（71.9%）の方が男性（66.7%）よりも5.2ポイント高くなります。

年齢別でみると、20歳代、60歳代、70歳以上は〈町内〉が70%以上と高く、40歳代では〈町外〉が41.7%となり、他の年齢よりも〈町外〉での受診率が高くなっています。

地区別でみると、〈町内〉は、春日地区で90.0%と高くなっています。（図表1－55）。

図表1－55 最初に受診する医療機関（属性別）

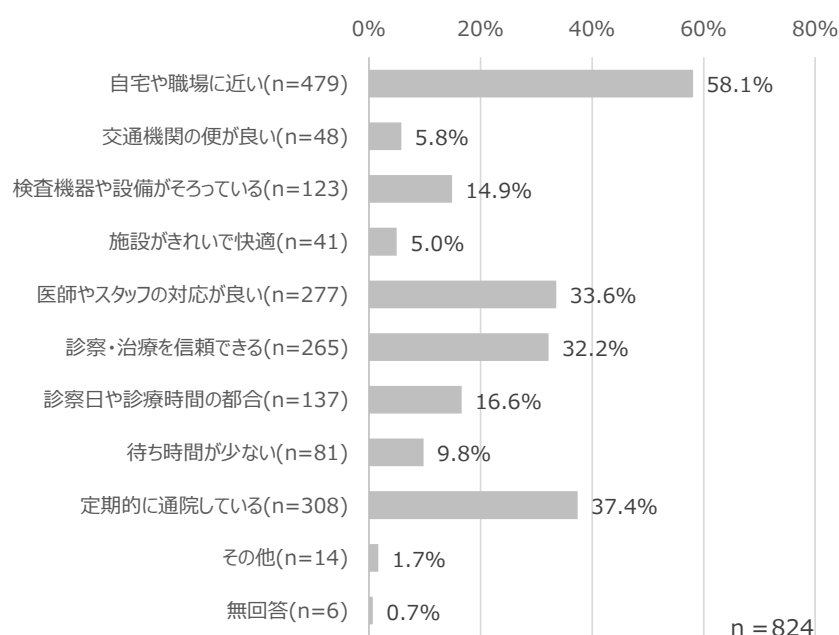


(4) 医療機関の選択理由

前項で選択した医療機関を選ぶ際、どのような理由で選ぶかをたずねたところ、「自宅や職場に近い」が58.1%と最も高く、「定期的に通院している」「医師やスタッフの対応が良い」「診察・治療を信頼できる」も30%以上の比較的高い割合です（図表 1－56）。

「その他」として、図表 1－57の内容が記載されていました。

図表 1－56 医療機関の選択理由（複数回答）



図表 1－57 医療機関の選択理由（その他）

・親が通院している。 ・定期的ではないが通院した事がある。 ・揖斐病院が大野町に移転した西濃厚生病院。 ・入院したことがあるため。 ・グループホームから近い。 ・家族（信頼できる人）が連れて行ってくれるところ。	・すでに有る。 ・町内になじみがなくわからない。 ・町内にない病院 1 件。 ・パート先が町外病院。
--	---

性別でみると、男女ともに「自宅や職場に近い」が最も高く、次いで「定期的に通院している」となっています。

年齢別でみると、10歳代～60歳代では、「自宅や職場に近い」が最も高くなっています。70歳以上では「自宅や職場に近い」「定期的に通院している」が同率で最も高くなっています（図表 1－58）。

図表 1－58 医療機関の選択理由（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または 回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271
自宅や職場に近い	57.4	59.1	50.0	83.3	75.0	57.7	58.3	56.9	60.3	55.0
交通機関の便が良い	6.6	5.3	-	-	3.1	11.5	7.4	5.7	3.9	6.3
検査機器や設備がそろっている	17.5	12.6	-	-	18.8	7.7	15.7	13.8	15.3	15.5
施設がきれいで快適	6.6	3.8	-	-	15.6	15.4	6.5	7.3	3.5	1.5
医師やスタッフの対応が良い	30.1	36.5	50.0	33.3	34.4	28.8	31.5	26.8	36.7	36.2
診察・治療を信頼できる	29.0	34.7	50.0	33.3	15.6	36.5	34.3	29.3	33.6	32.5
診察日や診療時間の都合	15.6	17.5	-	16.7	37.5	25.0	25.9	22.0	15.3	7.4
待ち時間が少ない	10.7	8.8	50.0	-	6.3	13.5	7.4	11.4	9.6	10.3
定期的に通院している	38.5	36.7	25.0	-	15.6	17.3	18.5	28.5	39.3	55.0
その他	0.5	2.7	-	-	3.1	1.9	-	1.6	2.2	1.8
無回答	0.8	0.7	-	-	-	-	0.9	0.8	0.4	1.1

地区別でみると、いずれの地区も「自宅や職場に近い」が最も高くなっています。

最初に受診する医療機関別でみると、町内にある開業医・診療所と答えた人は、「自宅や職場に近い」、町外にある開業医・診療所と答えた人は、「診察・治療を信頼できる」、町外にある病院と答えた人は「定期的に通院している」が最も高くなっています（図表 1－59）。

図表 1－59 医療機関の選択理由（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	地区別				最初に受診する医療機関		
	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他	町内にある開業医・診療所	町外にある開業医・診療所	町外にある病院
n	620	126	30	44	570	110	138
自宅や職場に近い	57.1	63.5	56.7	61.4	72.8	34.5	18.8
交通機関の便が良い	6.0	4.0	13.3	4.5	6.0	7.3	4.3
検査機器や設備がそろっている	15.5	8.7	13.3	20.5	6.3	19.1	47.8
施設がきれいで快適	5.6	2.4	-	6.8	2.5	12.7	9.4
医師やスタッフの対応が良い	33.4	30.2	53.3	36.4	36.7	37.3	18.1
診察・治療を信頼できる	32.7	35.7	16.7	25.0	29.5	41.8	35.5
診察日や診療時間の都合	16.8	11.9	20.0	25.0	17.2	25.5	8.0
待ち時間が少ない	9.4	9.5	10.0	15.9	10.4	10.9	7.2
定期的に通院している	37.9	34.1	50.0	31.8	35.4	30.0	51.4
その他	1.3	2.4	-	4.5	1.2	1.8	3.6
無回答	1.0	-	-	-	-	-	1.4

(5) 医療機関への交通手段

最初に受診する医療機関への主な交通手段としては、「自家用車（自分で運転）」が84.7%を占めています。次いで、「自家用車（家族が運転）（7.9%）」、「自転車（2.5%）」、「徒歩（2.1%）」の順となりましたが、「自家用車（自分で運転）」以外の選択肢では、大きな差は見られません。

性別でみると、男女ともに、「自家用車（自分で運転）」が最も高くなり、その他の交通手段でも大きな差は見られません。

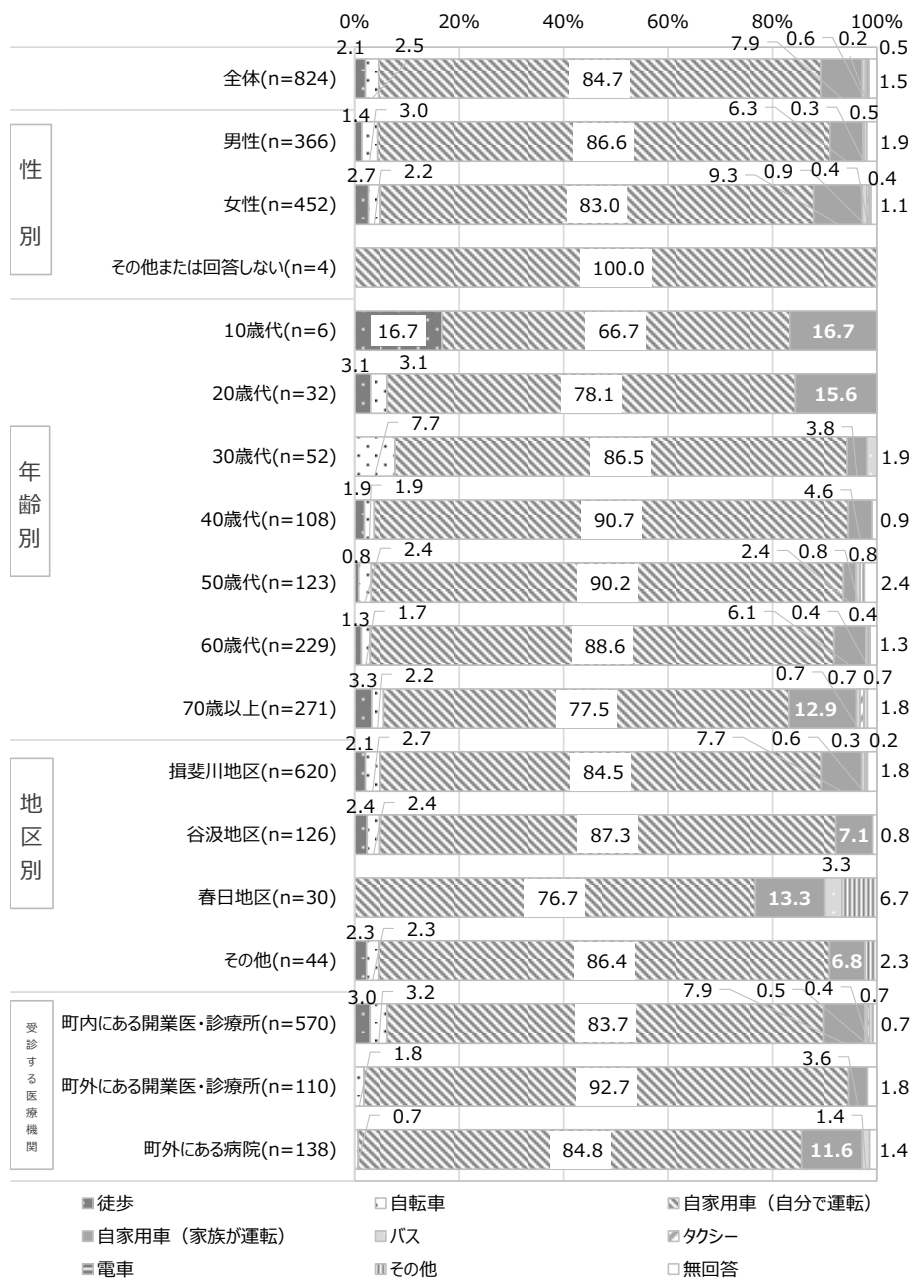
年齢別にみると、いずれの年齢でも「自家用車（自分で運転）」が最も高くなっています。10歳代・20歳代・70歳以上では、他の年齢に比べて「自家用車（家族が運転）」が高く、10%以上となっています。

地区別にみると、揖斐川地区、谷汲地区、その他の地区では「自家用車（自分で運転）」が80%以上となっていますが、春日地区では76.7%となり、他の地区に比べると低くなっています。春日地区は他地区に比べて「自家用車（家族が運転）」が高くなっています。

最初に受診する医療機関別でみると、いずれも「自家用車（自分で運転）」が最も高くなっています。町外にある病院と答えた人は、町内にある開業医・診療所もしくは町外にある開業医・診療所を選んだ人に比べて、「自家用車（家族が運転）」が高くなっています。（図表 1 - 60）

なお、いずれも「電車」を選んだ人はいませんでした。

図表 1 – 60 医療機関への交通手段（属性別）



「その他」として、図表 1 – 61の内容が記載されていました。

図表 1 – 61 医療機関への交通手段（その他）

・デマンドバス（3人）	・在宅医療
-------------	-------

5 医療機関を受診する際に困っていること

医療機関を受診する際に困っていることとして、次の内容が記載されていました。

図表 1－62 医療機関を受診する際に困っていること

【待ち時間・予約について】

- ・待ち時間が長い（13人）
- ・待ち時間が長く、仕事を休みにくい。
- ・待ち時間が長い。今は自家用車ですが、将来病院には足腰悪く、歩行ができず困る事になると思います。
- ・時間がかかりすぎる。
- ・熱が出たときコロナやないのに、コロナの手順を踏むこと、予約制が嫌い。
- ・仕事が終わってから受診するので帰りが遅くなる。
- ・予約できない為、待ち時間が長い（子どもを預けていかないと行きづらい）。予約時間まで車で待機させて欲しい。
- ・予約時間が決まっているのに、必ず40分～60分以上遅れる。
- ・遠い。待ち時間の長さ。
- ・待ち時間が長い。遠距離である。
- ・6月より薬のみの診療がむずかしくなり、こんでいる病院だと待ち時間にいらつきます。前の状態にもどしてほしい。前は2ヶ月は薬のみが可能だった。
- ・予約でいっても待ち時間が長い。
- ・車で40分かかること。待ち時間が長いこと。
- ・遠い。
- ・病院が遠い。

【診療時間・休診日】

- ・受診のための時間調整
- ・近隣の病院の休診日が重なってしまう場合がある。
- ・診療時間内に間に合わないことが、多い。
- ・時間内に行けない。
- ・医療機関の診療時間が間に合わない
- ・開業時間に仕事上間に合わない事がある。夜の診療時間など延長してもらえると助かる。
- ・開業医の休診日が以前より増えてるように思う。診察時間が短くなっているようにも思う。
- ・休日診療
- ・土曜日 or 平日遅い時間しか行けないため。
- ・緊急時24時間受診を受け入れてくれる病院が町内にあることを望みます。
- ・日曜の時の診療するところに行った時の不安（初めてだから）。
- ・時間帯
- ・受診したい日が休日（休診日）だったりする。子供が急に体調が悪くなった時、予約してからだと待ちがあるため、すぐにみてもらえない。
- ・夜間、定休日での受診。
- ・診療時間が短い。
- ・近くに診療所があっても、全く受診したことがない。診療時間内に行くことが不可能だから。その為、自家用車で行くことになる。自宅から離れた病院へ。
- ・休日など突然の事態にどうするとよいかわ迷うことがある。
- ・夜間診療。
- ・受診時間（仕事をしていると専門医でなくても開いているところへ行くしかない）。車で移動するのなら良いが、公共交通機関はないため。
- ・緊急時、休業日が重なっていること。診療科毎に休業曜日が違うことを望みます。
- ・祝日は常に休診。
- ・日、祭日等休む機関が多い。

【専門医】

- ・近くに専門医がないこと。
- ・専門医がない。
- ・近くに内科以外の専門科の医療機関がない。
- ・専門外の時の受診機関の選択。
- ・専門医が少ない。
- ・専門ではない病気を看てもらうのに不便。

【医療機関の減少・不足】

- ・揖斐厚生病院が大野に移転して遠くなったこと。
- ・総合病院がなくなった事。
- ・揖斐厚生病院がなくなり西濃厚生病院まで行かなくてはいけなくなった。バスの本数が少なくほぼ車でしか行けない交通の便が悪い場所だし時間的にも時間がかかる。子どもの月々の診療を行うのに、移動と診療時間含め、今までの揖斐と比べてかかる時間は4倍になった。また、地元のかかりつけ医で受けたとしても、精密検査するときは結局西濃厚生病院か大垣市民病院などに行かなくてはいけない。近くに病院がなくなり非常に不便になったし、揖斐川町としてに活気もなくなった。
- ・定期的に通院している揖斐川町の揖斐厚生病院が大野町に移転し遠くなってしまった事。自動車が運転できない時に近くの診療所にしなればと思っているが診察日が少ないので無理をして自動車を運転し町内の小林医院へ行き受診した事があった。
- ・身近に医療機関がないこと。
- ・総合病院が遠くなった事。
- ・遠い。
- ・自宅近くで受診した事のある婦人科がなくなり、新たに開業医を選ばなくてはならない。
- ・町内には医療機関が少ないこと。大きい病院が大野町に移ってしまったこと。
- ・近くに専門の医療機関、或いは総合病院がないこと。
- ・町外へ行かないと眼科、皮フ科等がない。
- ・内科が少ない（揖斐川町内）。
- ・専門医の整っている所が遠くにある事。
- ・自分は困っていないが、揖斐川町にあった病院が大野町へ移転して、通院／入院するとなると、高齢の方や小さい子どもさんは困る方がおられるだろうと思う（藤橋、春日、久瀬方面の方など）。
- ・健康診断できる病院が少ない。
- ・総合病院が遠い。
- ・小児科や皮フ科がない。
- ・病院が少ない。
- ・揖斐厚生病院がなくなった。
- ・揖斐病院がなくなったため、大きい病院まで時間がかかる。
- ・厚生病院がなくなって不便。総合病院とまでは言わないが、同じ場所で色々診察できる所がほしい。
- ・家からすぐ近くであって歩いて通えたのに、近年距離が10倍になってしまい、家族みんなとても不便になった。

【医師・看護師等の対応】

- ・高齢者優先の医療機関は困る。歳に関係なく医療は平等にして欲しい。
- ・適切な診療治療が受けられるかどうか？信頼できる機関であるかどうかの検索。
- ・持病のために薬をいただきに行くが、もっとも自宅に近い所には主となる医師がいなく、研修医などでいつも顔ぶれがちがう。1人～2人は常設してもらい頼れる医療であってほしい。
- ・休日や夜間の医療体制がとても心配。西濃厚生病院が中途半端で全く期待できない。

【交通の便】

- ・交通手段の便数が少ない
- ・自動車の運転が出来なくなった時に交通手段が少ない。
- ・遠い為自分で運転できなくなった時にどうするか

- ・公共交通機関がない 有ってもはなもバスしかない
- ・今のところ問題はないが今後運転できなくなった時が心配
- ・車で行かないと病院でみてもらえない。
- ・交通手段
- ・今は自分で運転できますが、老後が心配。
- ・現在は車で通院していますが、運転できなくなった時不安です。デマンドバスでは行きは予約ができますが、帰りは薬等の点で予定が分からず予約が困難です。
- ・交通の不便さ。
- ・町外の医療機関を受診する際に、家族が運転できず、自分も運転できない場合の対応がこれから困るのではないかと思います。
- ・町内にある診療所だが、自分で車を運転して行けなくなった場合、交通手段がタクシーに限られてしまうので、交通費がかかので将来心配である。
- ・自家用車が使えない時、救急車がすぐたのめるか少し不安。
- ・車の運転が出来無くなった時の病院までの交通手段。
- ・自分で運転して行ける時はよいが、運転が無理な時に困る。
- ・自分で運転できなくなった時。
- ・バスの本数が少ない（往来共に）。又、小銭を用意しなくてはいけないが、事前に回数券の購入ができないだろうか。
- ・年をとって車に乗れなくなると、どうして医者に行くか？交通のバスの本数が少ない。
- ・交通の便が悪い。
- ・病院⇄損じ駅（広神戸でもOK）直通本数（特にPM）を増やす。養鉄利用：但し養鉄の本数が少ない時は、バスの本数を増やすなど。PMの検査、診療の時に利用できていない為。
- ・免許を返納した時はどうするか。
- ・自家用車で通うのが遠い。職場からは近いが、体調不良の時困る。
- ・やがて自分で運転できない時が来るんですが、現在のデマンドタクシーが損斐川町以外の町に行ってもらえるよう要請した時可能であるなら嬉しい。例えば大野町の医院や池田町、神戸町の医院へ…希望！！
- ・今のところは無いが、車に乗れなくなった時、きんきゅう時にデマンドバスはダメだし、年をとると年金が少なくタクシーもあまり利用できないと思う。不便な町だと思う。
- ・検査によって運転できないときがある。30分歩かないとバス停まで行けない（大野バス停まで行く手段が）。
- ・病院に行く交通手段。
- ・受診する際はほぼ家族の運転なので、大変な事の一つです。
- ・自分で運転が出来ないぐらい体調が悪い時に受診出来ない。交通手段がない。

【施設・設備】

- ・診察、治療に不安を感じることがある。高度先進医療が受けづらい。

【医療費】

- ・医療費（薬代含む）が高い。
- ・医療費の出費（2ヶ月に10,000円程度）。
- ・お金
- ・医療費。

【医療レベル】

- ・信頼できるかかりつけ医がない

【その他】

- ・医師の高齢化（2人）
- ・医師の高齢化に伴う後任医師の確保が心配です。
- ・次々と受診手続きが変化していること
- ・内科がかかりつけ医で月1回受診しているが、特定の科や総合病院を受診した時どこを選ぶか迷う。

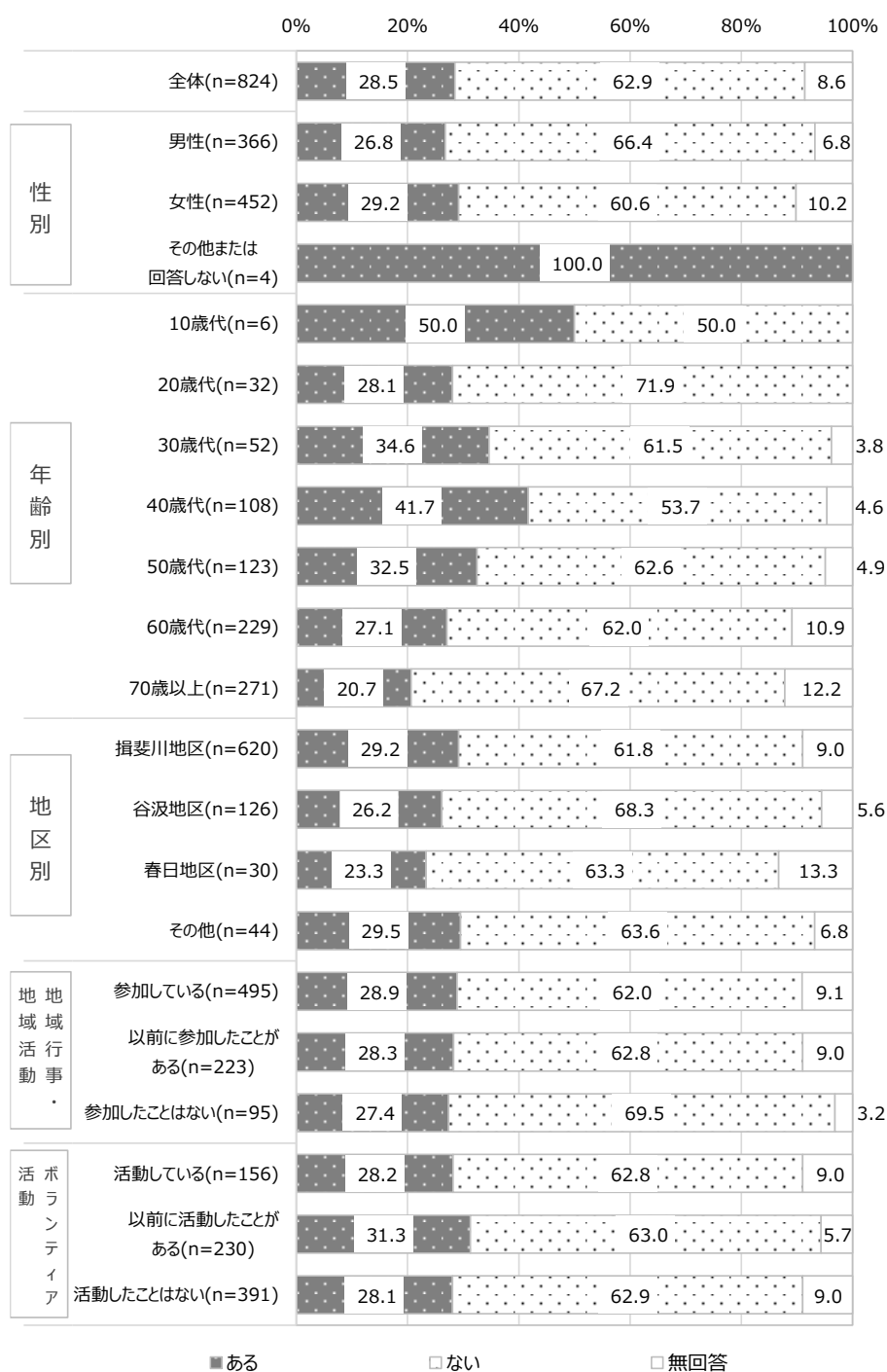
- ・目が見えにくいので、すべてのことにお手伝いが必要なこと。
- ・相談しにくいときに女医さんを探しますが、少ないことが難点です。
- ・現在すぐに困っているわけではないが、将来のためかかりつけ医をみつけないと思うが、決められないこと。
- ・内科診療した時、薬の量が多く（家族も頂く薬が多く飲んでいる）、すぐ薬を出したがる。
- ・揖斐病院が遠くに新しく出来たので、近くの医院へ変わりたい。D r にデーター移行を言いにくい。
- ・自分が体調不良の時は子供が留守番しなければいけないこと。
- ・月一回の受診は大変である（くすりをもらうだけなので）。
- ・人に会うこと。知り合いにあうこと。
- ・考え方の古い地元業者との関係で、町外の業者を入れない。行政の担当者および町長などの体質を変えないと町の発展はないと思うから。
- ・コロナが流行している為、ワクチンを無償化で接種してほしい。
- ・マイナンバーカードを提示した時、情報漏れがあるのではないか不安。保険証で受診できるようにして欲しい。
- ・引っ越してきたばかりで、どこに受診していいのかわからない。
- ・子どもの面倒を誰がみるか考えなければいけないこと。
- ・西濃厚生病院になり、遠くなった事。何年後かは「いびがわ診療科」に替わらないといけないかなと考えています。
- ・特にない（今は特にない、ない等）（12人）

6 障がい者差別について

(1) 障がい者に対する差別や偏見

障がい者に対する差別や偏見があると感じたことがあるかたずねたところ、「ある」は28.5%となっています。「ある」が高いのは、年齢別の10歳代・40歳代で、40%を上回っています。（図表 1－63）

図表 1－63 障がい者に対する差別や偏見を感じたことがあるか（属性別）



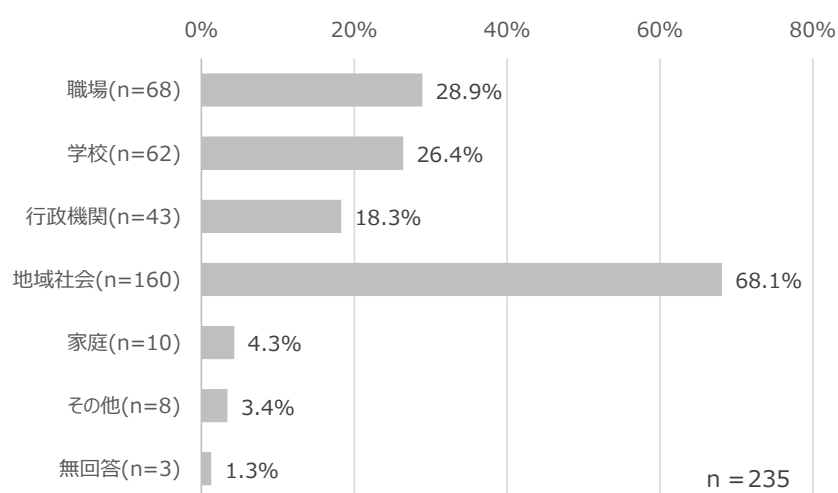
(2) 差別や偏見があると感じた場面

前項で「ある」と回答した人に、差別や偏見があると感じた場面をたずねたところ、「地域社会」が68.1%と突出しています。「職場」「学校」も20%以上となっています（図表1－64）。

性別、年齢別、地区別、地域行事・地域活動の参加状況別、ボランティア活動の参加状況別では、10歳代を除き、いずれも「地域社会」が最も高くなっています。10歳代では「地域社会」と同率で、「学校」も高くなっています。（図表1－65）

「その他」として、図表1－66の内容が記載されていました。

図表1－64 差別や偏見があると感じた場面（複数回答）



図表 1 - 65 差別や偏見があると感じた場面（属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	98	132	4	3	9	18	45	40	62	56
職場	30.6	27.3	50.0	-	11.1	38.9	22.2	37.5	37.1	21.4
学校	22.4	28.8	25.0	66.7	44.4	16.7	46.7	30.0	22.6	8.9
行政機関	19.4	17.4	25.0	-	-	11.1	20.0	20.0	22.6	17.9
地域社会	70.4	66.7	75.0	66.7	55.6	61.1	73.3	57.5	69.4	75.0
家庭	3.1	5.3	-	-	-	-	8.9	2.5	3.2	3.6
その他	4.1	2.3	25.0	33.3	-	11.1	-	2.5	3.2	3.6
無回答	2.0	0.8	-	-	-	-	-	5.0	1.6	-

区分	地区別				地域行事・地域活動			ボランティア活動		
	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他	参加している	以前に参加したことがある	参加したことはない	活動している	以前に活動したことがある	活動したことはない
n	181	33	7	13	143	63	26	44	72	110
職場	31.5	27.3	14.3	7.7	28.0	30.2	23.1	31.8	29.2	28.2
学校	28.2	21.2	14.3	15.4	21.0	36.5	34.6	25.0	30.6	23.6
行政機関	19.9	21.2	-	-	18.2	20.6	15.4	13.6	16.7	20.9
地域社会	68.5	60.6	85.7	76.9	66.4	73.0	73.1	68.2	65.3	70.0
家庭	3.9	3.0	-	15.4	5.6	1.6	3.8	2.3	6.9	2.7
その他	3.3	6.1	-	-	4.2	1.6	3.8	2.3	5.6	2.7
無回答	1.7	-	-	-	1.4	1.6	-	-	-	1.8

図表 1 - 66 差別や偏見があると感じた場面（その他）

・ないとは言えない。 ・世間一般。 ・インターネット上 ・自分自身に偏見があることを否認しない。	・報道 ・障がい者用トイレの不足。車イスの用意など。 ・商業施設 ・SNSでの意見をみて。
---	--

7 揖斐川町の福祉について

(1) 福祉サービスに関する情報の入手方法

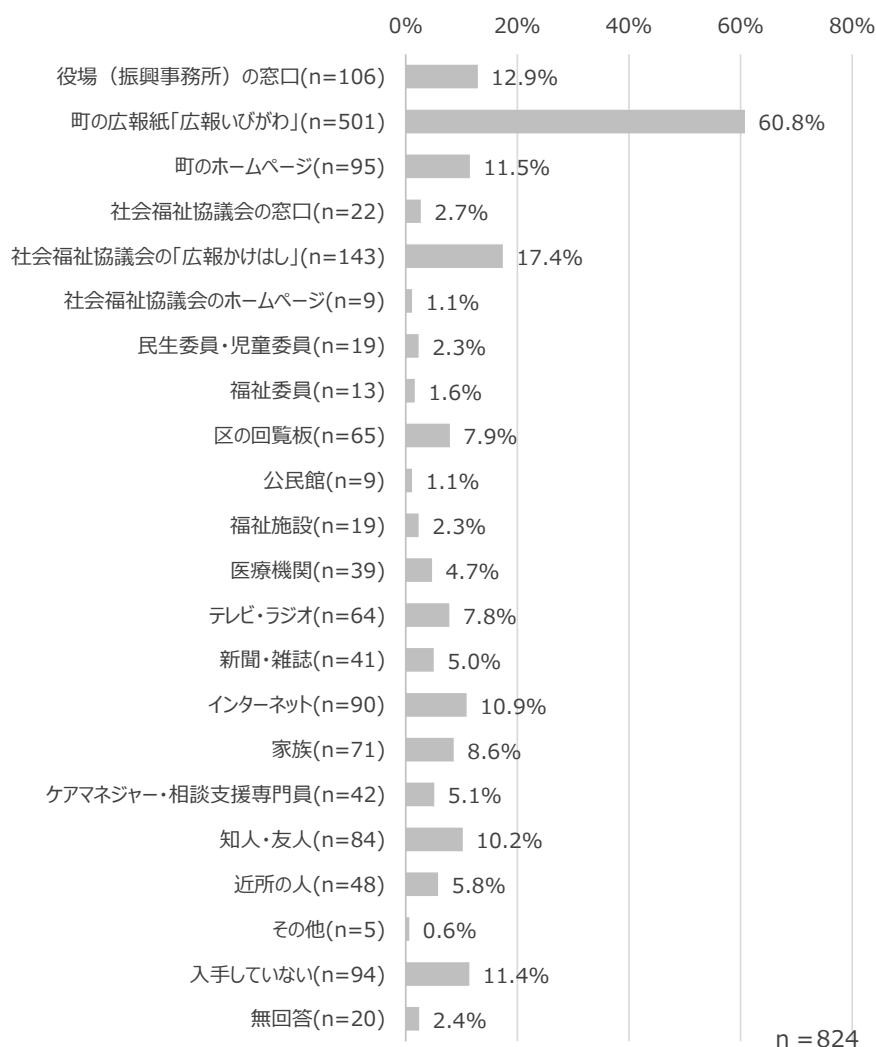
福祉サービスに関する情報をどこから入手しているかたずねたところ、「町の広報紙『広報いびがわ』」が60.8%と最も高くなっています。次いで「社会福祉協議会の『広報かけはし』」が17.4%となっています。（図表 1 – 67）

性別と地区別でみると、いずれも「町の広報紙『広報いびがわ』」が最も高く、次いで「社会福祉協議会の『広報かけはし』」の順となっています。

年齢別でみると、30歳代～70歳以上では「町の広報紙『広報いびがわ』」が最も高くなっていますが、10歳代では「インターネット」、20歳代では「入手していない」が最も高くなっています。（図表 1 – 68）

「その他」として、図表 1 – 69の内容が記載されていました。

図表 1 – 67 福祉サービスに関する情報の入手方法（複数回答）



図表 1 - 68福祉サービスに関する情報の入手方法（複数回答、属性別）

単位：nは人、他は%

区分	性別			年齢別							地区別			
	男性	女性	その他または回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271	620	126	30	44
役場（振興事務所）の窓口	12.0	13.5	-	-	6.3	21.2	8.3	13.0	11.8	14.8	12.1	14.3	13.3	18.2
町の広報紙「広報いびがわ」	61.5	60.6	25.0	-	18.8	51.9	59.3	55.3	65.9	67.9	60.5	59.5	53.3	77.3
町のホームページ	15.3	8.4	-	-	3.1	17.3	10.2	22.0	12.2	6.6	11.5	10.3	6.7	18.2
社会福祉協議会の窓口	2.5	2.9	-	-	-	1.9	-	0.8	3.5	4.4	2.6	4.8	-	-
社会福祉協議会の「広報かけはし」	17.8	17.3	-	-	-	7.7	9.3	8.1	22.3	25.1	15.5	21.4	26.7	27.3
社会福祉協議会のホームページ	1.6	0.7	-	-	-	-	1.9	-	1.7	1.1	0.8	1.6	3.3	2.3
民生委員・児童委員	3.3	1.5	-	-	3.1	-	-	0.8	3.1	3.7	1.9	1.6	10.0	4.5
福祉委員	0.8	2.2	-	-	-	1.9	-	0.8	2.2	2.2	1.0	0.8	6.7	9.1
区の回覧板	10.4	6.0	-	-	-	3.8	3.7	7.3	7.9	11.8	8.9	5.6	6.7	2.3
公民館	1.4	0.9	-	-	-	-	-	-	1.7	1.8	1.5	-	-	-
福祉施設	1.4	3.1	-	16.7	-	-	1.9	2.4	3.9	1.5	2.6	1.6	3.3	-
医療機関	4.4	4.9	25.0	-	-	1.9	5.6	6.5	5.2	4.4	4.5	4.8	10.0	4.5
テレビ・ラジオ	6.3	8.8	25.0	-	15.6	5.8	15.7	5.7	9.6	3.7	7.1	7.9	20.0	9.1
新聞・雑誌	3.8	5.8	25.0	-	3.1	-	4.6	2.4	6.6	6.3	4.8	6.3	3.3	4.5
インターネット	9.8	11.5	25.0	50.0	28.1	28.8	24.1	14.6	5.7	1.8	11.9	8.7	3.3	6.8
家族	6.8	10.2	-	16.7	15.6	15.4	12.0	8.1	7.0	6.6	8.9	9.5	6.7	4.5
ケアマネジャー・相談支援専門員	4.6	5.5	-	-	-	3.8	0.9	2.4	7.4	6.6	5.3	5.6	3.3	2.3
知人・友人	7.9	11.7	50.0	-	3.1	11.5	11.1	11.4	10.9	9.2	10.5	9.5	3.3	11.4
近所の人	5.7	5.8	25.0	-	-	-	1.9	4.9	7.0	8.9	4.8	9.5	10.0	6.8
その他	0.8	0.4	-	-	-	-	0.9	1.6	-	0.7	0.5	-	3.3	-
入手していない	14.5	8.8	25.0	33.3	40.6	17.3	13.0	13.8	7.4	8.1	11.5	15.1	13.3	-
無回答	2.2	2.7	-	-	-	-	0.9	0.8	3.9	3.3	2.7	-	3.3	2.3

図表 1 - 69福祉サービスに関する情報の入手方法（その他）

・職場 ・施設の人	・訪問看護師 ・わからない。
--	---

(2) 地域の民生委員・児童委員の認知度

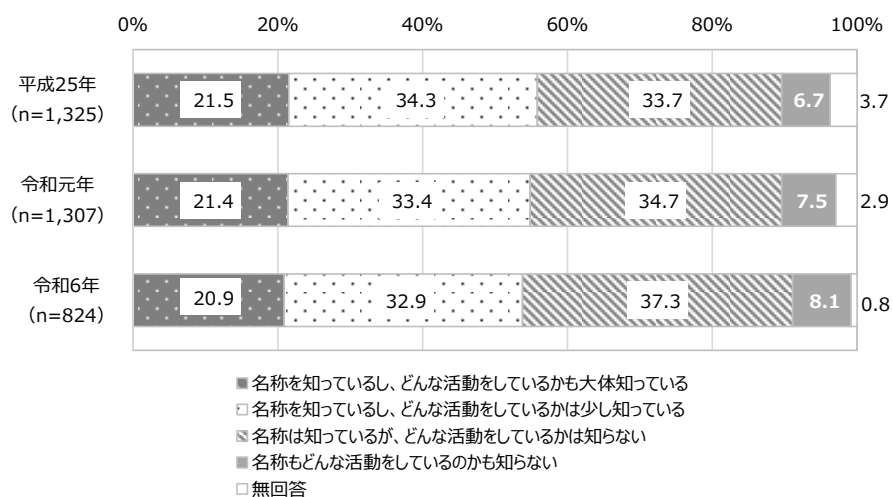
民生委員・児童委員の制度の認知度については、「名称は知っているが、どんな活動をしているかは知らない（37.3%）」と「名称を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている（32.9%）」が30%以上と、高くなっています。これに「名称を知っているし、どんな活動をしているかも大体知っている（20.9%）」を加えた＜名称の認知度＞は91.1%です。過去の調査とほぼ同様の結果です（図表1－70）。

性別にみると大きな差はなく、年齢別では年齢が上がるほど＜名称の認知度＞は高くなる傾向にあります。

地区別でみると、その他の地区で「名称を知っているし、どんな活動をしているかも大体知っている」が45.5%と他地区よりも高くなっています。

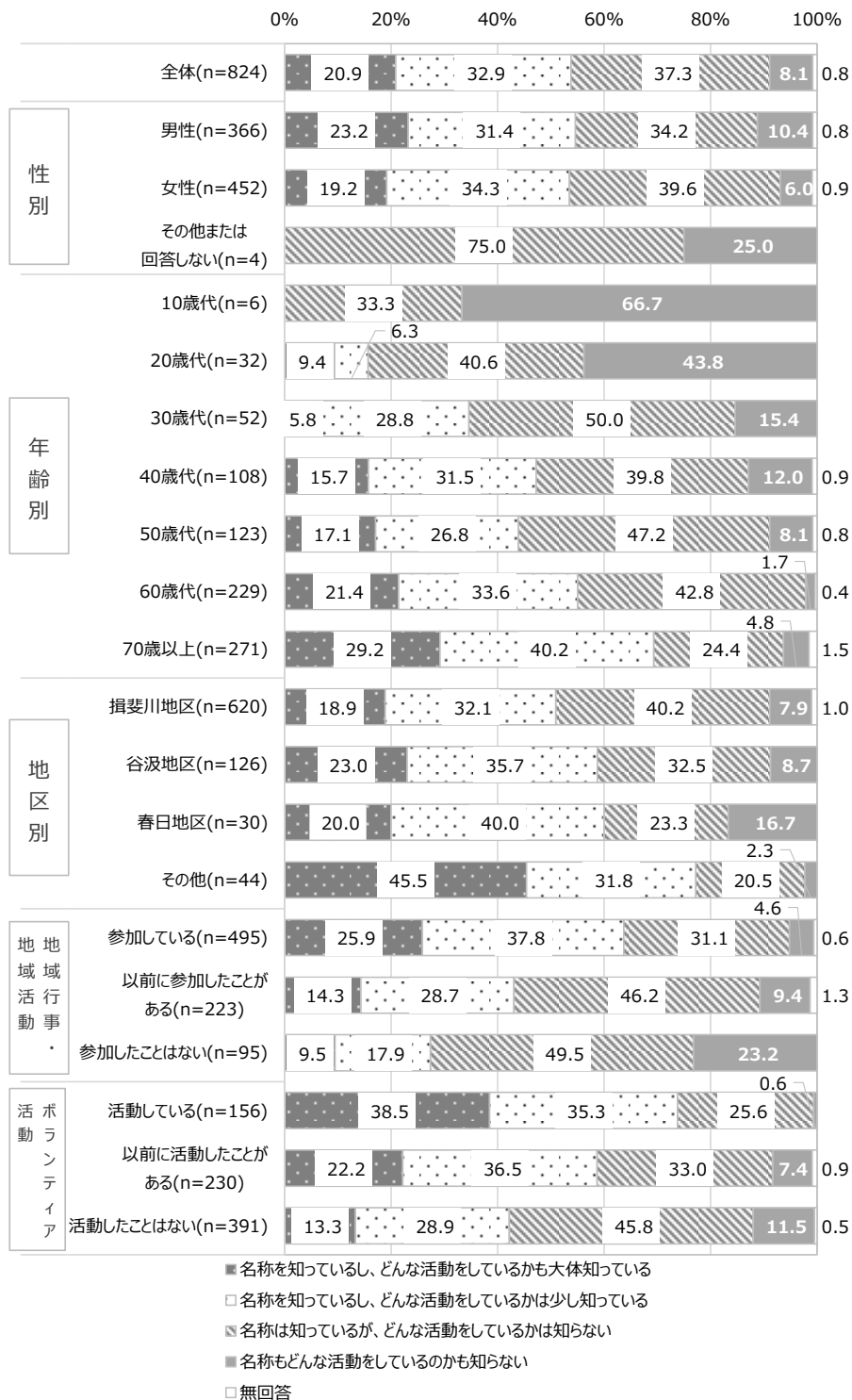
地域行事・地域活動の参加状況別でみると「参加している」を選択した人、ボランティア活動の参加状況別でみると「活動している」を選択した人で、「名称を知っているし、どんな活動をしているかも大体知っている」が高くなっています（図表1－71）。

図表1－70 民生委員・児童委員の認知度の推移（平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 71 民生委員・児童委員の認知度（性別・年齢別・地区別・「地域行事・地域活動」・ボランティア活動）

単位：nは人、他は%



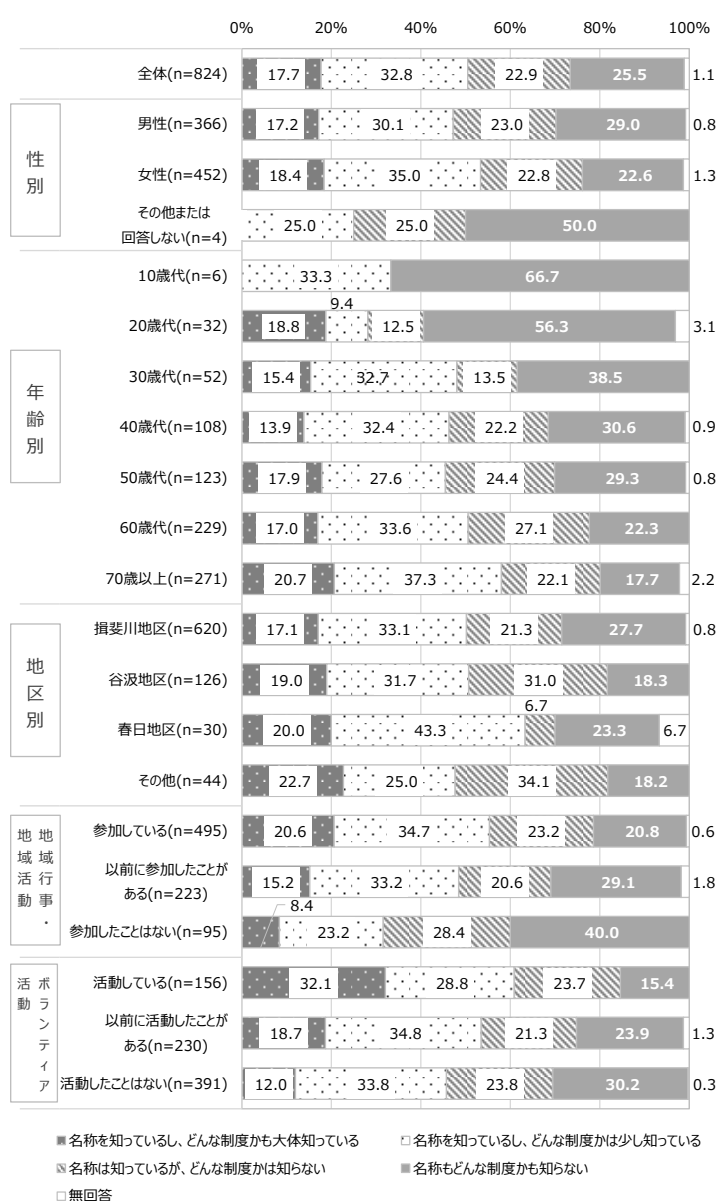
(3)成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度についてたずねたところ、「名称を知っているし、どんな制度かは少し知っている（32.8%）」が最も高くなっています。これに、「名称を知っているし、どんな制度かも大体知っている（17.7%）」と「名称は知っているが、どんな制度かは知らない（22.9%）」を加えたく名称の認知度＞は73.4%です。

「名称を知っているし、どんな制度かも大体知っている」が高いのは、年齢では70歳以上、地区ではその他の地区、地域行事・地域活動の参加状況別では「参加している」を選択した人、ボランティア活動の参加状況別では「活動している」を選択した人です。なお、性別では大きな差はみられません。

図表 1－72 成年後見制度の認知度の推移

(性別・年齢別・地区別・「地域行事・地域活動」・ボランティア活動)



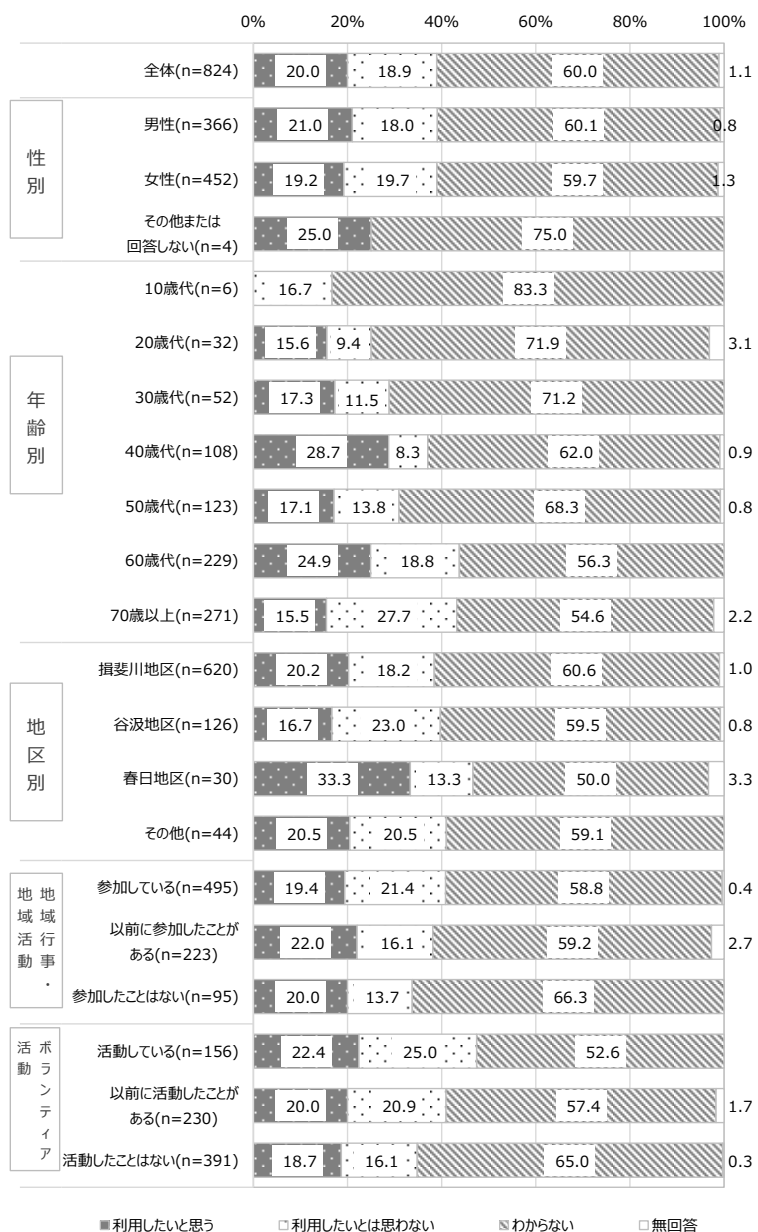
(4)成年後見制度を利用したいか

自身の判断が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと思うかたずねたところ、「利用したい」が20.0%、「利用したいとは思わない」が18.9%と、「したい」と「したくない」は、ほぼ同率となっています。最も多かったのは「わからない」の60.0%でした。

「利用したい」が多かったのは、年齢別では40歳代、地区別では春日地区となっています。一方で、「利用したくない」が多かったのは、年齢別の70歳以上です。（図表 1－73）

図表 1－73 成年後見制度を利用したいか

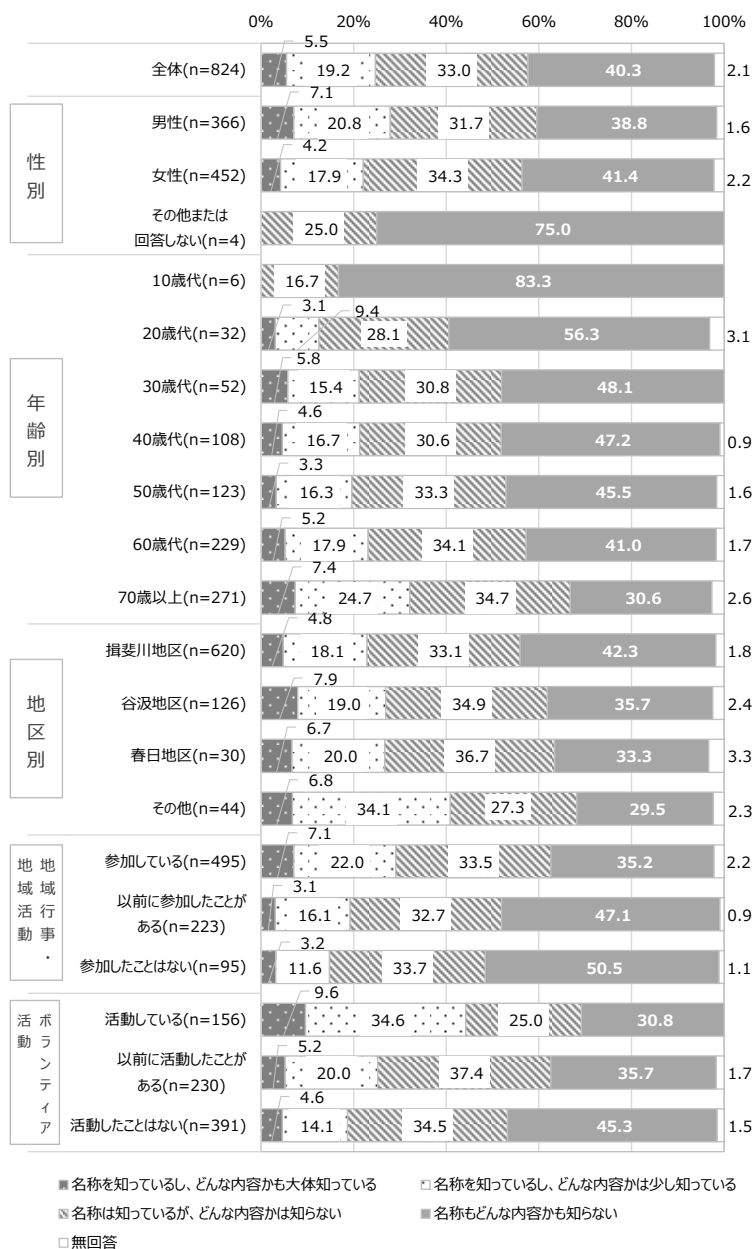
（性別・年齢別・地区別・「地域行事・地域活動」・ボランティア活動）



(5)再犯防止推進法の認知度

再犯防止推進法の認知度についてたずねたところ、「名称もどんな内容かも知らない」が40.3%と最も高くなっています。「名称は知っているが、どんな内容かは知らない（33.0%）」、「名称を知っているし、どんな内容かは少し知っている（19.2%）」と「名称を知っているし、どんな内容かも大体知っている（5.5%）」を加えた＜名称の認知度＞は57.7%に留まっています。＜名称の認知度＞を年齢別でみると、年齢が上がるにつれて、認知度も高くなる傾向にあります。また、地区別ではその他の地区、地域行事・地域活動の参加状況別の「参加している」、ボランティア活動の参加状況別では「活動している」とした人です。（図表1－74）

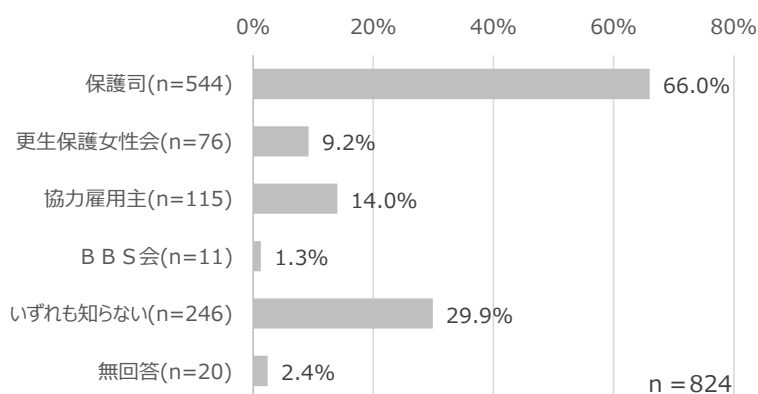
図表1－74 再犯防止推進法の認知度（属性別）



(6)再犯防止に協力する民間協力者

再犯防止に協力する民間協力者である「保護司」「更生保護女性会」「協力雇用主」「BBS会」について、知っているかたずねたところ、「保護司」が最も高く、66.0%となります。一方で、「いずれも知らない」とした人も、30%近くあります。（図表1－75）

図表1－75 再犯防止に協力する民間協力者の認知度（複数回答）



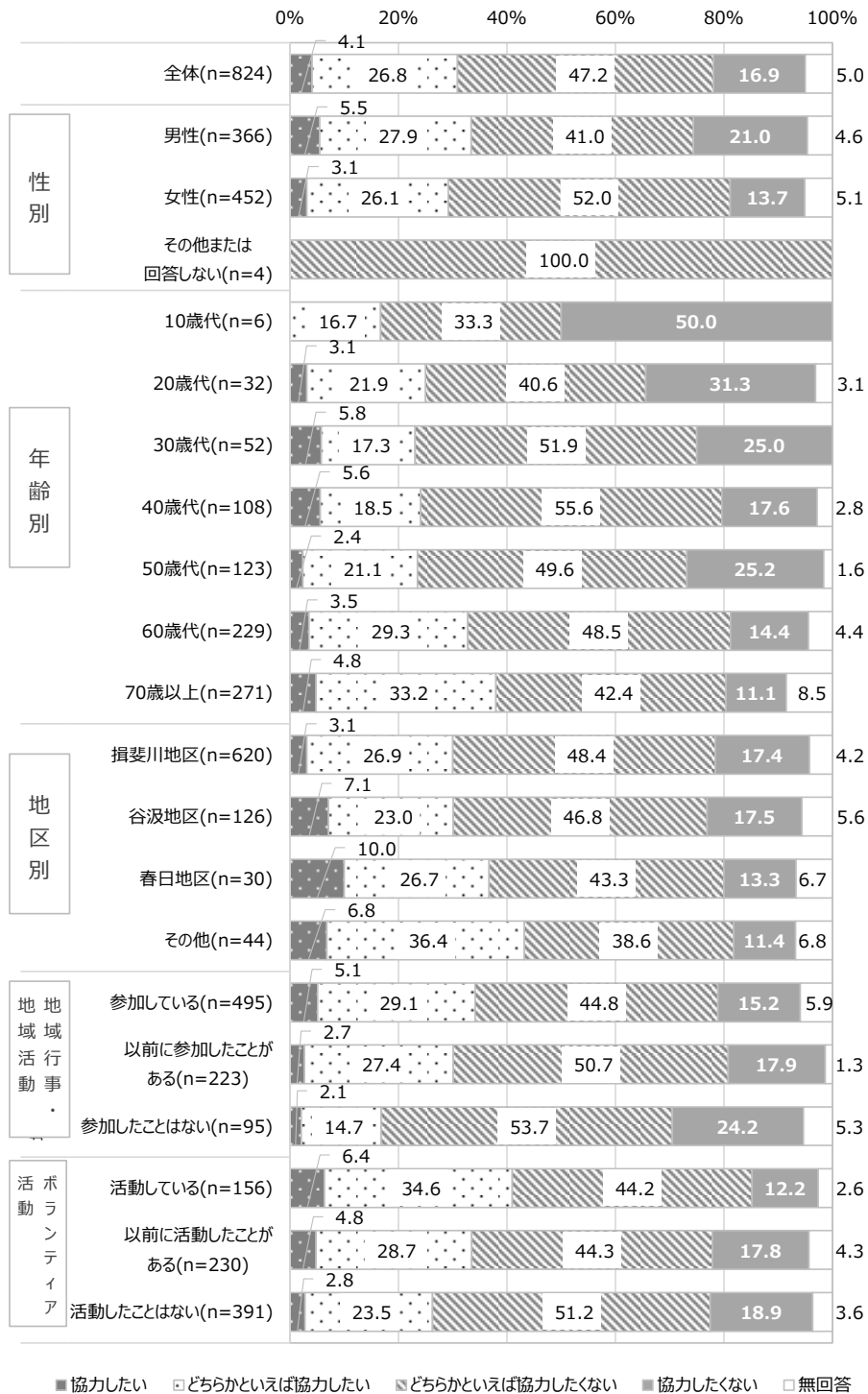
(7)犯罪をした者の立ち直り支援への協力

犯罪をした者の立ち直り支援に協力したいと思うかたずねたところ、「協力したい（4.1%）」と「どちらかといえば協力したい（26.8%）」を合わせた＜協力する意向がある＞は30.9%です。一方で「どちらかといえば協力したくない（47.2%）」と「協力したくない（16.9%）」を合わせた＜協力する意向はない＞は64.1%となり、過半数を超えました。＜協力する意向はない＞は＜協力する意向がある＞よりも33.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれて、＜協力する意向がある＞が高くなる傾向があります。

＜協力する意向がある＞が高いのは、地区別ではその他の地区で、地域行事・地域活動の参加状況別では「参加している」、ボランティア活動の参加状況別では「活動している」とした人です。（図表1－76）

図表 1 - 76 犯罪をした者の立ち直り支援に協力したいか



(8) 揖斐川町は住みやすいか

揖斐川町は福祉の面からみて“住みやすいまち”だと思うかたずねたところ、「どちらかといえばそう思う」が30.6%と最も高く、これに「そう思う（4.0%）」を加えた＜そう思う＞は34.6%です。一方で、「どちらかといえばそう思わない（17.6%）」と「そう思わない（11.4%）」を合計した＜そう思わない＞は29.0%となっており、＜そう思う＞が＜そう思わない＞を5.6ポイント上回っています。

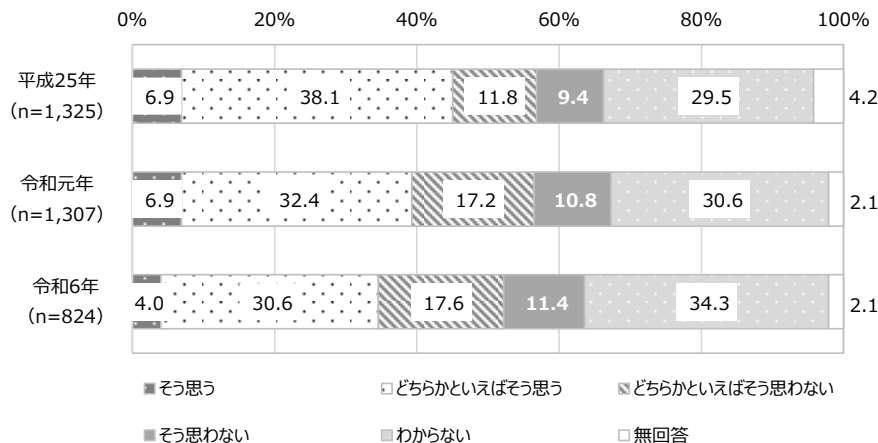
過去の調査と比べると、＜そう思う＞は減少傾向にあり、＜そう思わない＞は増加傾向にあります（図表1-77）。

＜そう思う＞が高いのは、性別では女性、年齢別では70歳以上です。20歳代は「わからない」が40%を超えています。

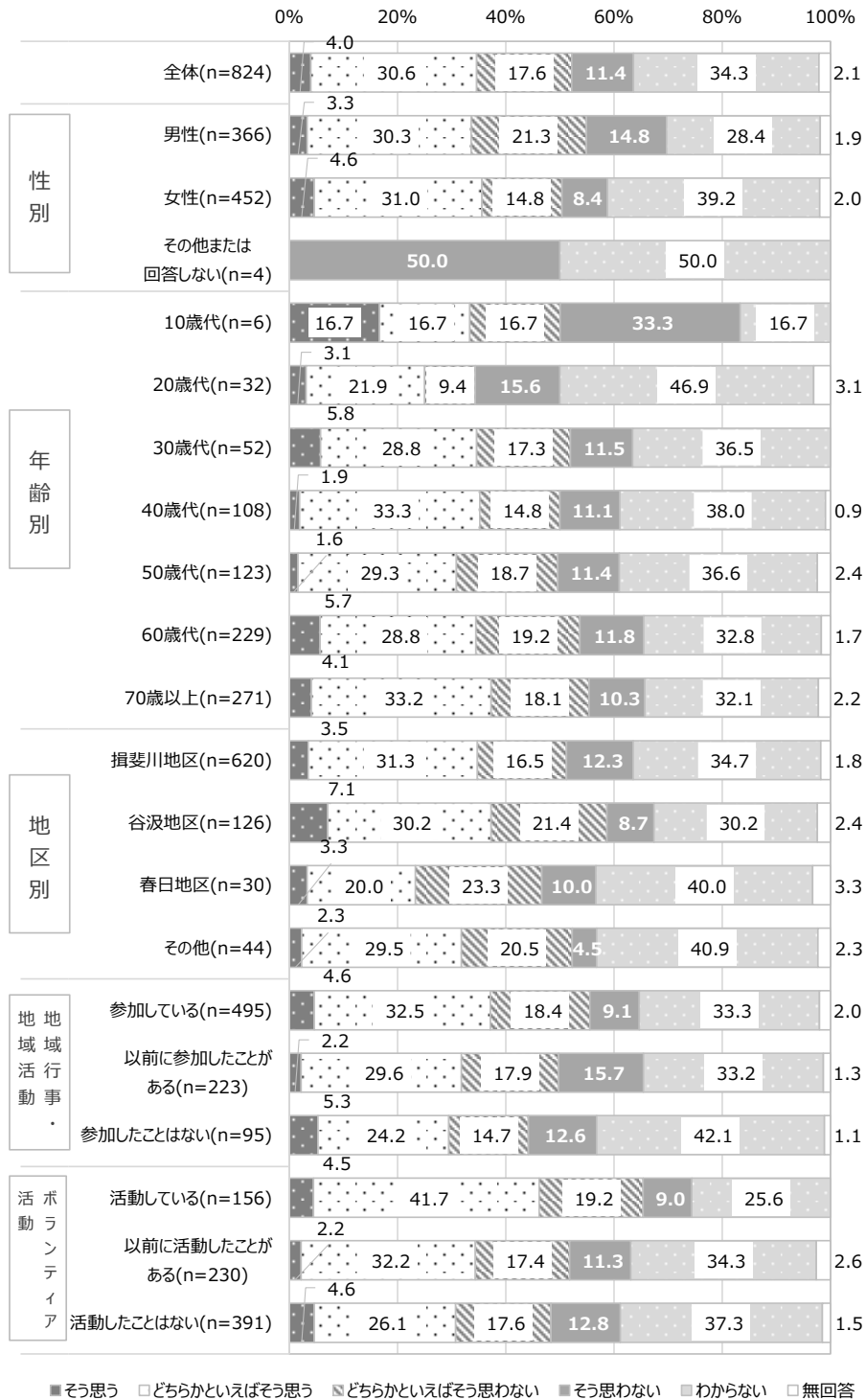
地区別にみると、＜そう思う＞は谷汲地区が37.3%と最も高く、春日地区が23.3%と最も低くなっています。

地域行事・地域活動の参加状況別にみると、＜そう思う＞は「参加している」が高く、ボランティア活動の参加状況別にみると、「活動している」が高くなっています（図表1-78）。

図表1-77 福祉の面からみて、揖斐川町は住みやすいか（平成25年・令和元年調査と比較）



図表 1 - 78 福祉の面からみて、揖斐川町は住みやすいか

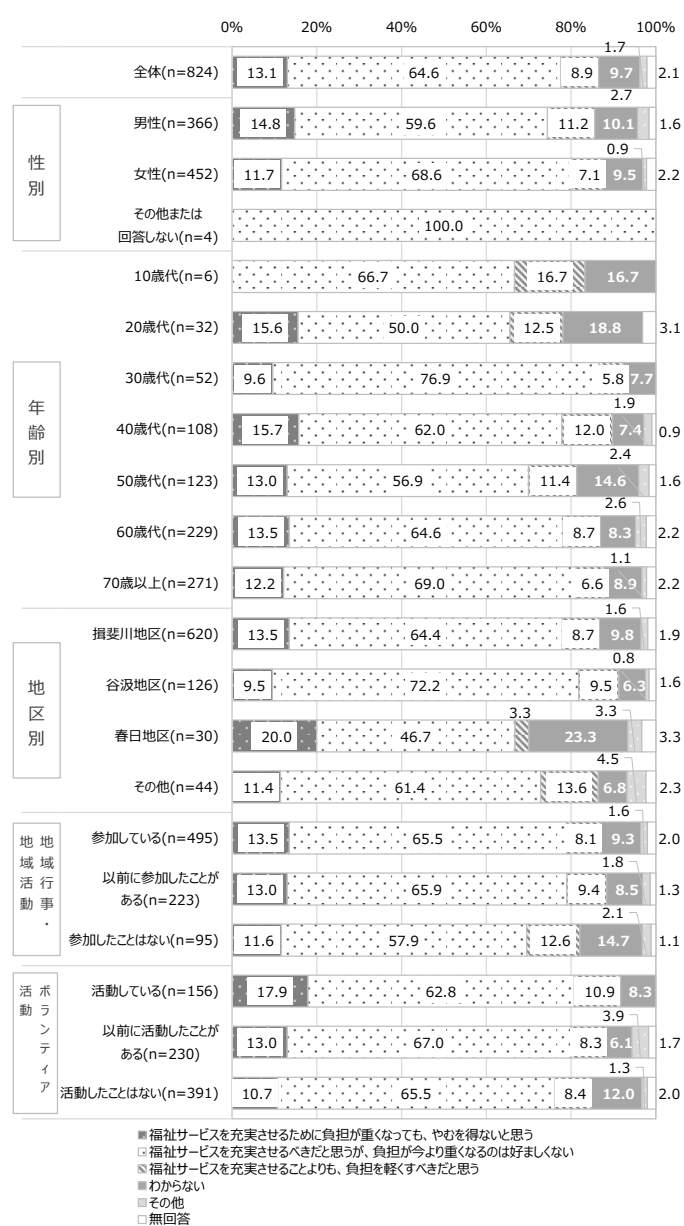


(9) 福祉サービスの充実と税金負担についての考え方

「福祉サービスを充実させることと、その財源となる税金などの負担に関して、あなたのお考えに近いものを選んでください」という設問については、「福祉サービスを充実させるべきだと思うが、負担が今より重くなるのは好ましくない」が過半数の64.6%を占めています。「福祉サービスの充実のために負担が重くなってもやむを得ない」（高福祉高負担）は13.1%、「福祉サービスを充実させることよりも、負担を軽くすべきだと思う（低福祉低負担）」は8.9%となっています。

高福祉高負担が高いのは、年齢別の20歳代・40歳代、地区別の春日地区、ボランティア活動別では「活動している」で、そのいずれも15%以上となっています（図表1－79）。

図表1－79 福祉サービスの充実と税金負担についての考え方



「その他」として、図表 1－80の内容が記載されていました。

図表 1－80 福祉サービスの充実と税金負担についての考え方（その他）

・福祉サービスと税のバランスが重要。 ・老いても働くようにし自己責任でやる。 ・全て町の財源でまかなう。 ・もっと子どもの支援、若い夫婦への支援には協力したい。 ・財政状況が分からないので、何とも言えない。 ・低福祉、低負担、森林事業に対する助成大（新設備の導入）を。 ・ちゃんとした税金の使い道をして下さい。議員さん遊んでますよね？ 仕事してますか？ 老後のたくわえですか？ と思います！！ 議員に高い報酬渡すなら、その分、子供、老人考えて下さい！！	・国が地域活性の責任、負担を負うべき問題。人口集中を真剣に考える必要が有る。 ・何をもって福祉サービスとするのか？ ・負担が重くなっても、それに伴いサービスが本当に充実すれば納得する。 ・現状もわからないので良い悪いの判断ができない ・必要なサービスなら負担増はやむ得ない 内容次第 ・部署によって仕事の差ある役場職員、町会議員の数をへらす。町民が減っているのに町会議員を減らさないのはおかしい。あと変なことばかり予算使っているのを減らせば増税しなくてよいのでは？
--	--

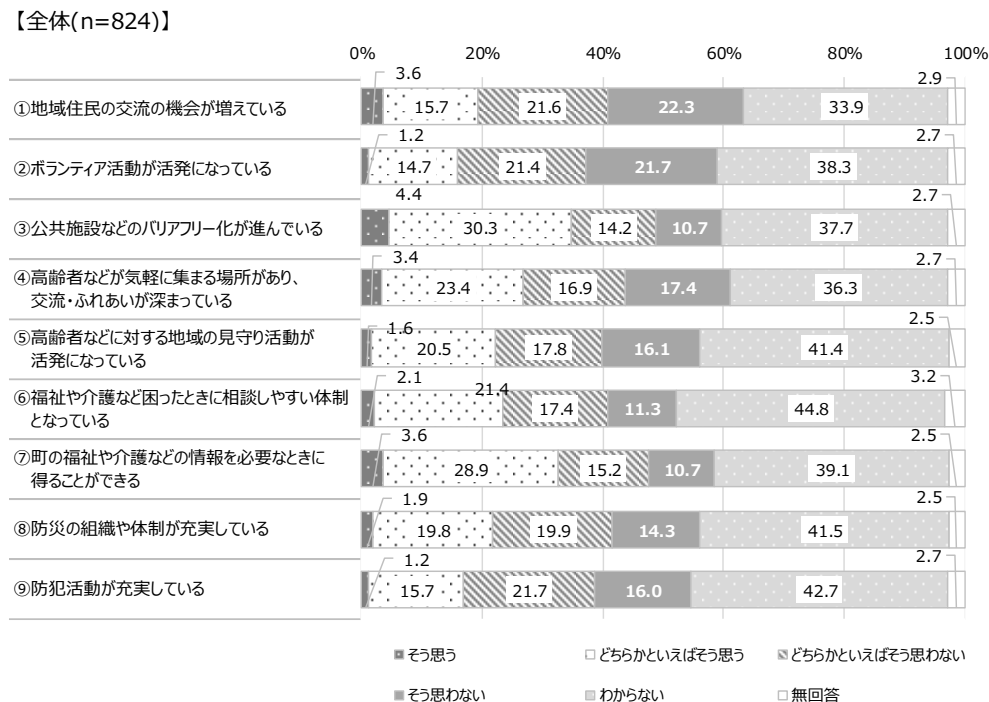
(10) 地域福祉計画の評価

図表 1－81は、「第3期揖斐川町地域福祉計画」を策定した令和2年当時と現在を比較して、次の9項目の取り組みについての印象をたずねた結果です。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計した＜そう思う＞が高いのは、「③公共施設などのバリアフリー化が進んでいる（34.7%）」、「⑦町の福祉や介護などの情報が必要なときに得ることができる（32.5%）」です。

「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合計した＜そう思わない＞が高いのは、「①地域住民の交流の機会が増えている（43.9%）」、「②ボランティア活動が活発になっている（43.1%）」です。

図表 1－81 地域福祉計画の評価（令和2年と現在を比較した印象）



8 社会福祉協議会について

(1) 社会福祉協議会の認知度

揖斐川町社会福祉協議会の認知度については、「名称は知っているが、どんな活動をしているかは知らない」が36.0%と最も高くなっています。「名称を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている（29.5%）」、「名称を知っているし、どんな活動をしているかも大体知っている（17.5%）」を合わせたある程度活動を知っている＜活動の認知度＞は47.0%という結果です。3つを合計した＜名称の認知度＞は83.0%です。

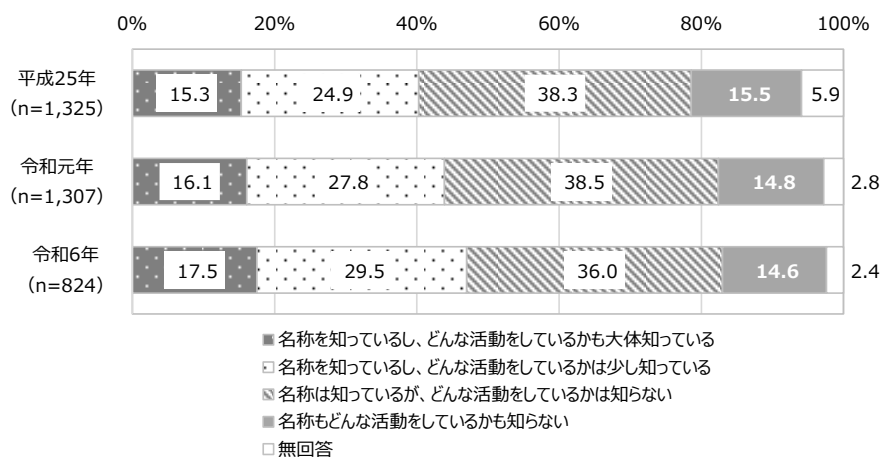
過去の調査と比べると、＜活動の認知度＞は令和元年から3.1ポイント高くなっており、平成25年から、わずかですが、増加傾向にあります（図表1－82）。

＜活動の認知度＞が高いのは、性別では女性、年齢別では20歳代から年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。地区別では、その他の地区が68.2%と非常に高くなっています。

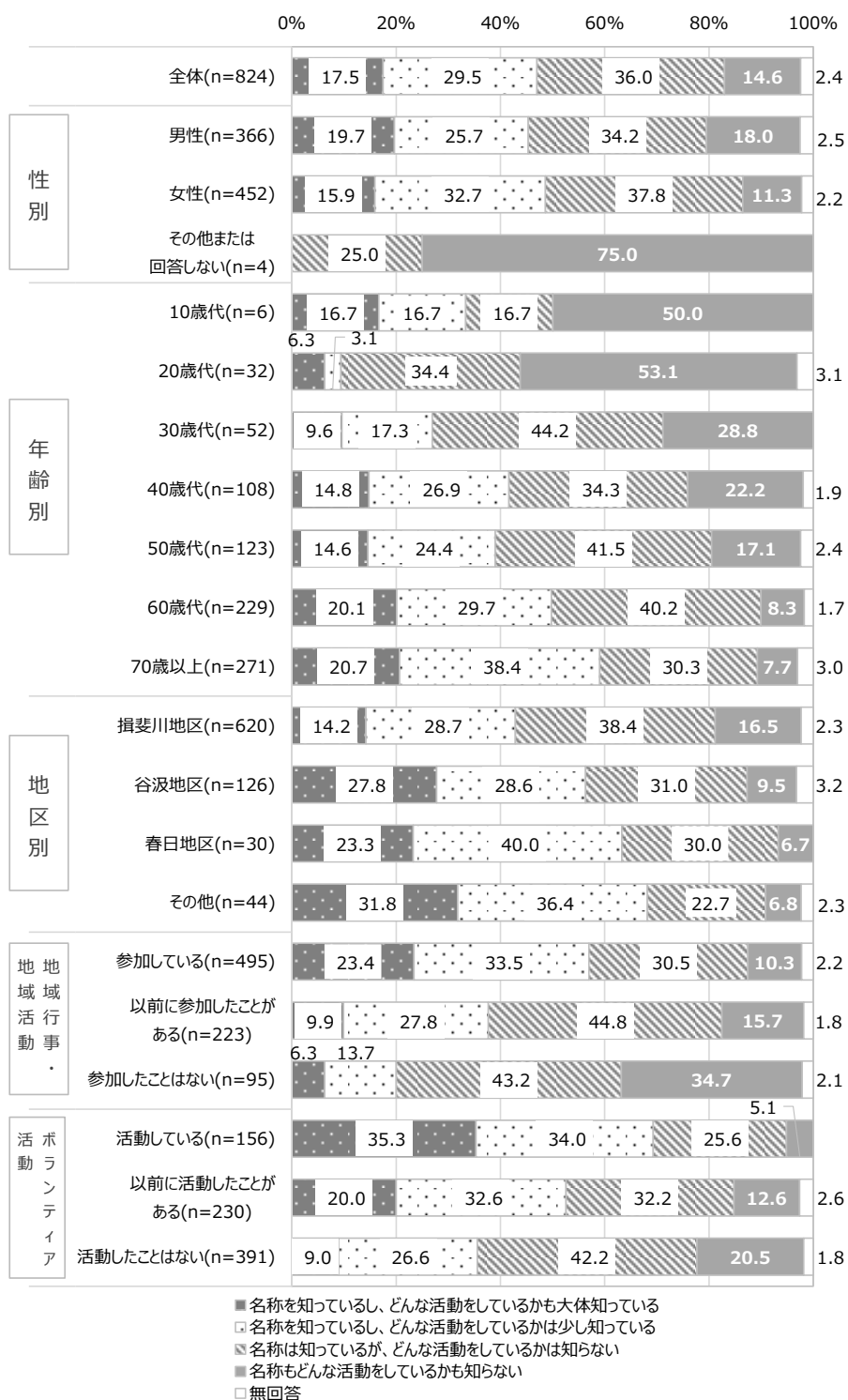
地域行事・地域活動の参加状況別でみると、＜活動の認知度＞は「参加している」とした人が高く、「参加したことはない」とした人は、「名称もどんな活動をしているかも知らない」が高くなっています。

ボランティア活動の参加状況別でみると、＜活動の認知度＞は「活動している」が69.3%と非常に高くなっています（図表1－83）。

図表1－82 揖斐川町社会福祉協議会の認知度の推移（平成25年、令和元年調査と比較）



図表 1 - 83 揖斐川町社会福祉協議会の認知度



(2) 福祉委員の認知度

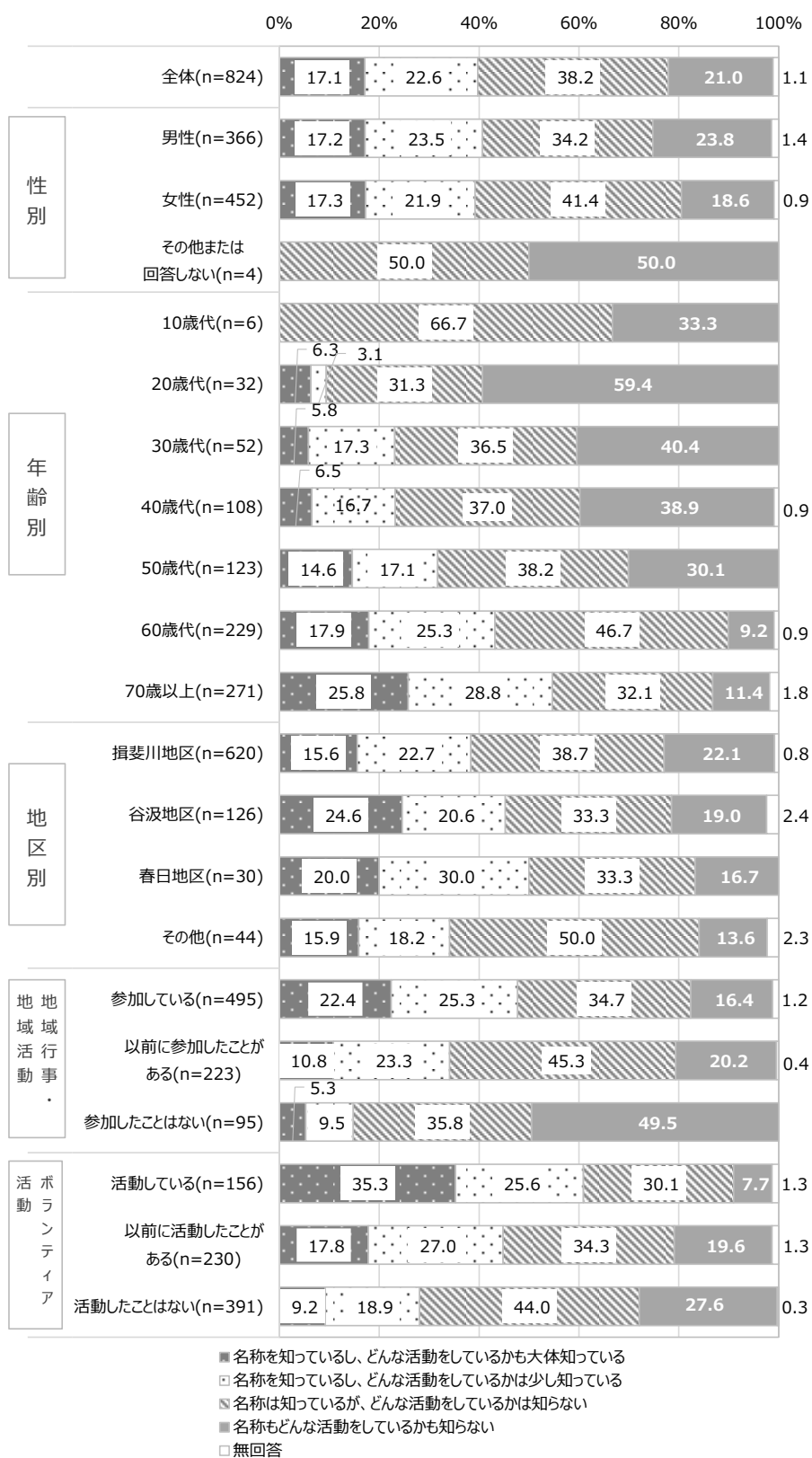
福祉委員の認知度については、「名称は知っているが、どんな活動をしているかは知らない」が38.2%と最も高くなっています。「名称を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている（22.6%）」、「名称を知っているし、どんな活動をしているかも大体知っている（17.1%）」を合わせた、ある程度活動を知っている〈活動の認知度〉は39.7%という結果です。3つを合計した〈名称の認知度〉は77.9%です。

〈活動の認知度〉は、性別による違いはほとんどなく、年齢別では20歳代から、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。地区別では、春日地区が高くなっています。

地域行事・地域活動の参加状況別にみると、〈活動の認知度〉は「参加している」とした人が高く、「参加したことはない」とした人は「名称もどんな活動をしているかも知らない」が高くなっています。

ボランティア活動の参加状況別にみると、〈活動の認知度〉は「活動している」とした人が高くなっています（図表1-84）。

図表 1 - 84 福祉委員の制度の認知度(属性別)



(3) 「おたすけサポーターはなもも」の認知度

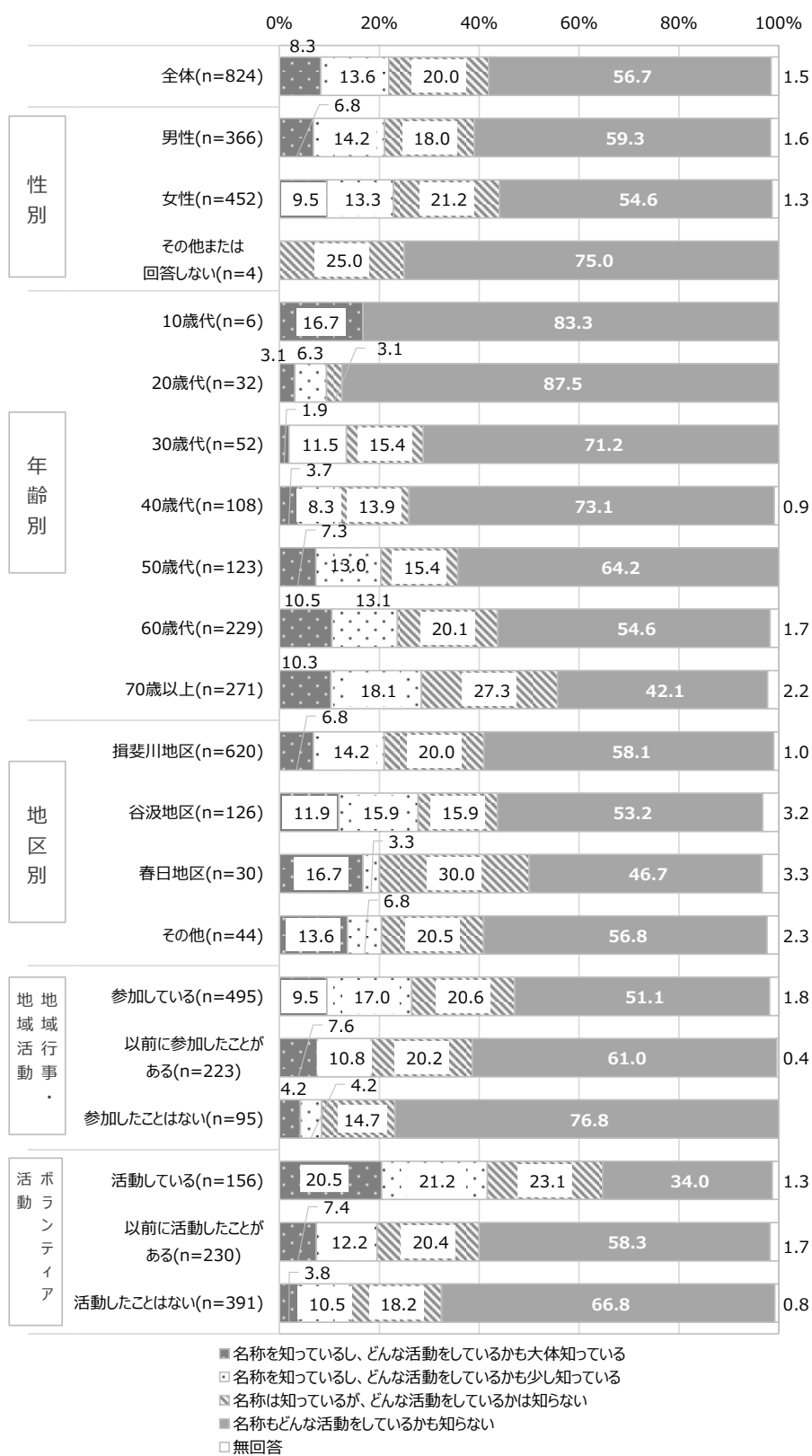
揖斐川町には暮らしの中のちょっとした困りごとをお手伝いする生活支援サービス「おたすけサポーターはなもも」があります。この「おたすけサポーターはなもも」を知っているかをたずねたところ、「名称もどんな活動をしているかも知らない」が最も高く、過半数の56.7%となっています。「名称を知っているし、どんな活動をしているかも知っている（8.3%）」、「名称を知っているし、どんな活動をしているかも知っている（13.6%）」を合わせた＜活動の認知度＞は21.9%に留まり、これに、「名称は知っているが、どんな活動をしているかは知らない（20.0%）」を合わせた＜名称の認知度＞は41.9%となります。

＜活動の認知度＞は、性別による違いはなく、年齢別では20歳代から、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。地区別では、春日地区が高くなっています。

地域行事・地域活動の参加状況別にみると、＜活動の認知度＞は「参加している」とした人が高く、「参加したことはない」とした人は「名称もどんな活動をしているかも知らない」が76.8%と非常に高くなっています。

ボランティア活動の参加状況別にみると、＜活動の認知度＞は「活動している」とした人が高くなっています。（図表 1 - 85）

図表 1 - 85 「おたすけサポーターはなもも」の認知度（属性別）



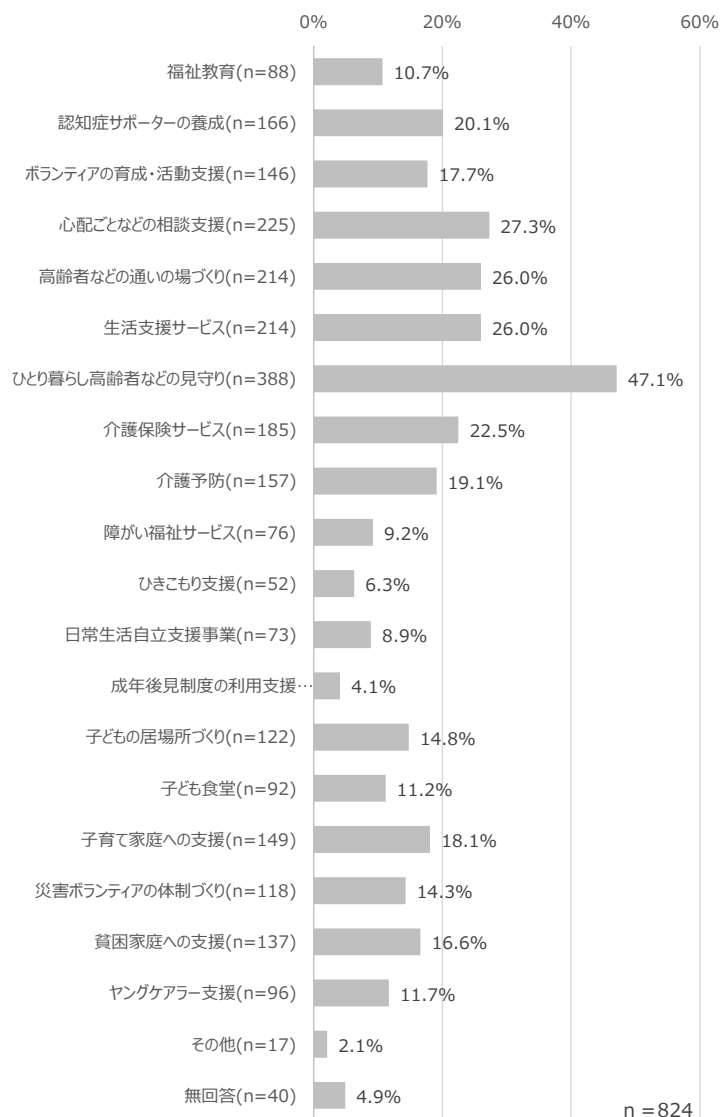
(4) 揖斐川町社会福祉協議会に望む事業

揖斐川町社会福祉協議会に望む事業としては、「ひとり暮らし高齢者などの見守り」が47.1%と最も高くなっています。「心配ごとなどの相談支援（27.3%）」「高齢者などの通いの場づくり（26.0%）」「生活支援サービス（26.0%）」も25%を超えており、比較的高い割合です（図表1-86）。

性別でみると、男女ともに「ひとり暮らし高齢者などの見守り」が最も高くなっています。

年齢別でみると、30歳代以上では「ひとり暮らし高齢者などの見守り」が最も高くなっています。10歳代では「ひきこもり支援」と「ヤングケアラー支援」が同率で高く、20歳代では「子育て家庭への支援」が最も高くなっています。（図表1-87）

図表1-86 揖斐川町社会福祉協議会に望む事業（複数回答）



図表 1 - 87 揖斐川町社会福祉協議会に望む事業（複数回答、属性別）

単位：nは人、その他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または 回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271
福祉教育	12.8	8.8	-	-	15.6	11.5	12.0	10.6	10.5	9.6
認知症サポーターの養成	19.7	20.6	25.0	16.7	12.5	9.6	16.7	23.6	21.8	21.8
ボランティアの育成・活動支援	17.2	18.1	25.0	-	9.4	11.5	7.4	16.3	23.1	20.7
心配ごとなどの相談支援	25.4	28.3	75.0	16.7	18.8	11.5	21.3	26.0	26.6	35.1
高齢者などの通いの場づくり	21.3	29.6	25.0	-	9.4	19.2	20.4	25.2	30.6	28.4
生活支援サービス	27.0	25.2	-	-	21.9	15.4	25.9	31.7	29.3	23.6
ひとり暮らし高齢者などの見守り	46.2	48.2	25.0	16.7	28.1	51.9	43.5	52.0	47.6	48.3
介護保険サービス	26.2	19.2	25.0	16.7	21.9	13.5	20.4	19.5	24.9	24.4
介護予防	16.7	20.8	25.0	16.7	9.4	13.5	16.7	18.7	23.6	18.5
障がい福祉サービス	12.6	6.6	-	16.7	3.1	15.4	12.0	13.8	6.6	7.7
ひきこもり支援	6.6	6.2	-	50.0	3.1	3.8	9.3	5.7	4.4	7.0
日常生活自立支援事業	7.1	10.4	-	-	3.1	11.5	11.1	1.6	11.4	9.6
成年後見制度の利用支援 （法人後見）	3.8	4.4	-	-	6.3	3.8	2.8	5.7	5.2	3.0
子どもの居場所づくり	13.7	15.5	50.0	33.3	18.8	42.3	26.9	13.8	10.9	7.7
子ども食堂	10.1	11.5	75.0	33.3	28.1	28.8	18.5	13.0	7.0	5.2
子育て家庭への支援	20.8	15.7	50.0	16.7	40.6	46.2	29.6	17.9	11.4	11.4
災害ボランティアの体制づくり	13.9	14.8	-	-	6.3	15.4	10.2	13.8	14.8	17.0
貧困家庭への支援	19.1	14.4	50.0	33.3	15.6	15.4	18.5	15.4	16.2	17.0
ヤングケアラー支援	11.2	11.7	50.0	50.0	12.5	9.6	18.5	13.0	14.0	5.9
その他	3.3	0.9	-	-	-	-	1.9	3.3	1.7	2.2
無回答	5.2	4.6	-	-	-	3.8	4.6	2.4	3.9	7.4

地区別およびボランティア活動の参加状況別でみると、いずれも「ひとり暮らし高齢者などの見守り」が最も高くなっています。（図表 1－88）。

図表 1－88 揖斐川町社会福祉協議会に望む事業（複数回答、地区別、ボランティア活動別）

単位：nは人、その他は%

区分	地区別				ボランティア活動		
	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他	活動している	以前に活動したことがある	活動したことはない
n	620	126	30	44	156	230	391
福祉教育	10.6	9.5	10.0	13.6	16.0	10.9	8.2
認知症サポーターの養成	19.7	23.8	16.7	20.5	22.4	19.1	19.2
ボランティアの育成・活動支援	17.7	15.9	13.3	27.3	23.1	19.6	15.3
心配ごとなどの相談支援	27.1	27.0	33.3	27.3	25.6	26.1	28.9
高齢者などの通いの場づくり	25.3	27.0	26.7	31.8	29.5	32.6	21.5
生活支援サービス	25.6	28.6	33.3	18.2	28.2	25.2	26.9
ひとり暮らし高齢者などの見守り	46.9	42.9	53.3	61.4	41.0	47.0	50.4
介護保険サービス	22.6	19.8	20.0	29.5	17.9	18.3	25.6
介護予防	18.9	18.3	20.0	22.7	26.3	16.5	18.7
障がい福祉サービス	9.2	12.7	3.3	4.5	10.9	9.6	8.7
ひきこもり支援	7.3	4.0	3.3	2.3	1.9	9.6	5.9
日常生活自立支援事業	8.5	7.9	23.3	6.8	9.0	9.1	9.0
成年後見制度の利用支援 （法人後見）	4.7	2.4	3.3	2.3	2.6	5.7	3.6
子どもの居場所づくり	16.3	14.3	6.7	2.3	16.7	17.8	12.5
子ども食堂	11.5	12.7	6.7	6.8	12.8	11.7	10.5
子育て家庭への支援	19.4	16.7	10.0	11.4	14.7	18.7	19.2
災害ボランティアの体制づくり	12.9	19.8	13.3	20.5	14.7	15.7	13.8
貧困家庭への支援	16.6	20.6	3.3	15.9	16.0	16.5	17.6
ヤングケアラー支援	12.4	11.9	3.3	6.8	8.3	15.2	11.5
その他	2.1	0.8	3.3	-	1.9	2.6	1.5
無回答	5.0	4.8	3.3	2.3	3.8	3.5	4.3

「その他」として、図表 1－89の内容が記載されていました。

図表 1－89 揖斐川町社会福祉協議会に望む事業（その他）

・運動サークル等の公民館サークル活動支援。 ・老人の住みやすい地域を。 ・認定が下りていない人でも緊急ＳＳなどの受入れへの手続きの手助け。 ・一般市民への社協の制度、活動の啓発。 ・事務所の人数削減。 ・役をなくしてほしい。	・何をしているか知らない。 ・期待していない。 ・望まれている事を理解出来ていない為、回答不可。 ・わからない（５人） ・特にない（２人）
--	---

9 これからの揖斐川町について

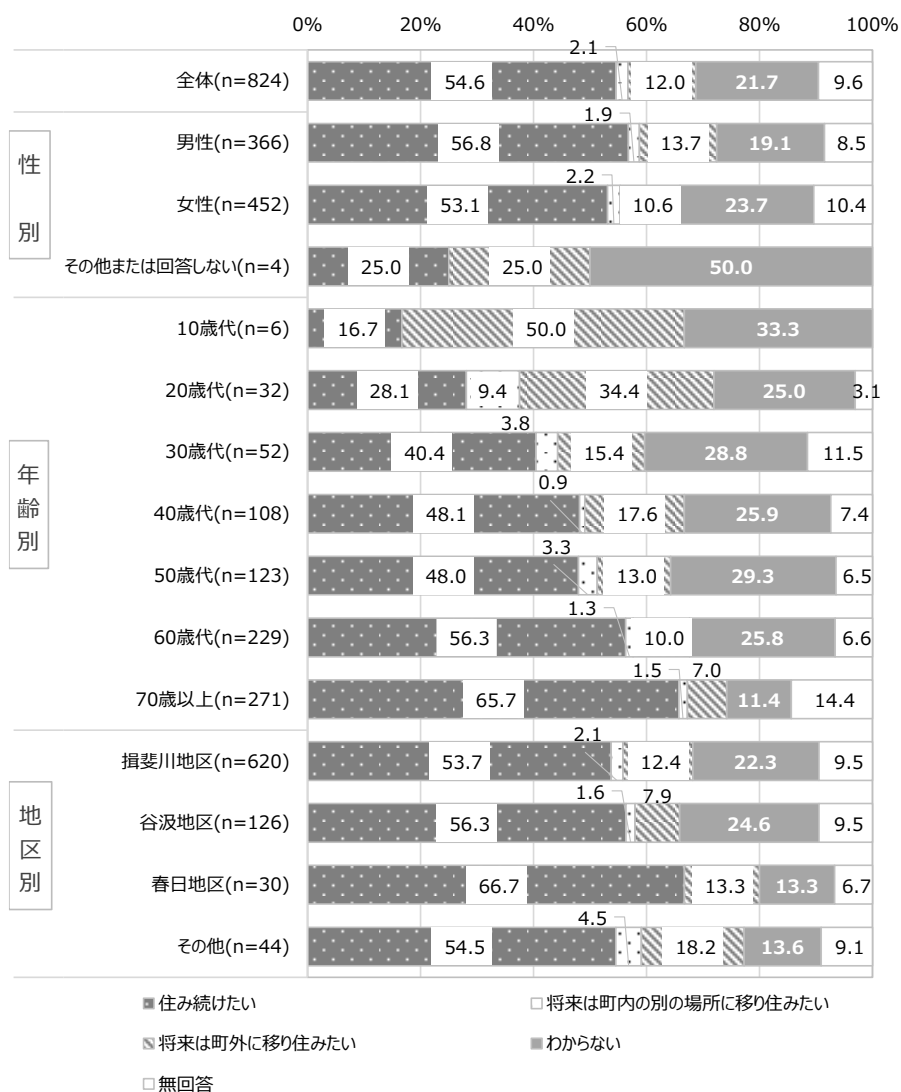
(1) 将来も現在の居住地に住み続けたいか

「あなたは現在お住まいのところに将来も住み続けたいですか」という設問に対しては、「住み続けたい」が約半数の54.6%となっています。「将来は町外に移り住みたい」は12.0%です。

「住み続けたい」が高いのは、性別では男性、年齢別では年齢が上がるほど高くなる傾向にあります。地区別では春日地区が65%を超えています。

「将来は町外に移り住みたい」は、10歳代や20歳代で高くなっています。(図表 1－90)

図表 1－90 将来も現在の居住地に住み続けたいか（属性別）



(2) 将来、町内の別の場所・町外に移り住みたい理由

図表 1－91は、前項で「将来は町内の別の場所に移り住みたい」「将来は町外に移り住みたい」と答えた人にその理由をたずねた結果です。

図表 1－91 将来、町内の別の場所・町外に移り住みたい理由

【交通の便】

- ・交通の便が悪い（交通が不便、交通の利便性等）（４人）
- ・田舎で、車がないと困る環境
- ・車の返納後の生活の不安 ふれあいバスの運用のズサン
- ・公共交通機関が少なすぎる（タクシーを呼んでも時間がかかる）。
- ・公共交通機関がなく、とても不便だから。
- ・車がないと不便です。年をとったら…と考えると…。
- ・交通の不便！！今は車にのれるが、この先のなくなった時等、不便。デマンドも警報の時などは出ないし！！仕事する場所もない！！どのみち町においていかないと何もなし。スーパーもホームセンターも、この先もずっと不便になると思う！！
- ・交通の便が悪い。スーパーが近くにないので、車なしの生活は難しいから。
- ・交通の便がよい所。
- ・交通の便の悪さ。地区役まわりの頻度（空家多い為）。買物、医療に困る。けもの、害虫の多さ。
- ・やっぱり交通の「便」が不便。
- ・あまりに交通が不便です。いつまで車の運転ができるかわからないので！
- ・交通不便。税が高い。
- ・年をとった時、交通の利便性を重視したい。
- ・車がないと買い物や病院等に行けないから。町内バスの本数も少ないし不便だと思うから。
- ・交通便が良い所。商業施設の充実している所。
- ・老後、車の運転できなくなると、電車、バスの交通手段を使う為、便がよい所に行きたい。
- ・公共交通機関の不足。買物難民のおそれ。
- ・交通の不便。娯楽。「よそ者」どこから来たの？
- ・交通アクセスの確保。
- ・若者の雇用場所がなく、定住は生活上不安が多く、仕事場までの移動きょ離に時間が多にかかっている。土地がら、それほどの食物などの栽培が出来ないので、農業は出来ていかない。動物なども多く出てきて不安。交通もとても将来は不便。
- ・交通（道路と鉄道）が不便である。揖斐厚生病院が町内がなくなり、医療水準が低下した。美化ディー等の行事が多すぎる。

【利便性】

- ・不便
- ・日常生活全てにおいて不便。
- ・日常生活に不便を感じているからと消滅町村にここが載っていても期待ができないから
- ・何をするにも不便。唯一便利だった病院がなくなり、買い物も教育も医療も時間的な損失が大きい。自然豊かと思うが、周辺市町でも十分自然はあるため移住して便利な環境下になったほうが良い。
- ・スーパーにしてもコンビニにしても気軽に行ける距離では無いから
- ・車がない時に、不便である。以前は歩ける場所に買い物等や交流できる施設があったが、今は閉鎖的な地域交流となっている。また、人口減るにつれ税金の負担は増えるとは思ひ、町の利便性が今よりも悪くなっていると想定される
- ・持ち家なので現実的には移り住むことは不可能であるが、将来的に人も少なくなり不便になると思うから
- ・移動手段がなく、日常生活が不便になる。
- ・人口減少に伴う町の消滅への心配、不便だから。子どもに上記のような町に住まわせたくないから。
- ・車がのれなくなると、病院、買い物等生活することが難しいと思うため。
- ・町内から身の回りの買物、病院、その他の所用で近隣の町外への交通機関の移動、連絡がスムーズに出来ればと思います。

- ・レストランなど車で行かなければならないので。
- ・自分がこの町へ移り住む以前に住んでいた所の方が、全ての面で便利で、高齢者も住み易いよう生活を支えるサービスが充実している。また子育てもしやすく、満足度が大きいと思う。老後、安心して住めない。
- ・車の運転が出来なくなった時、買物、医療に通う事を考えた時。
- ・買物など不便。
- ・利便性を最優先。
- ・高齢になったら生活が不便になりそう。若いうちは子育てなど町内で生活することは都会よりもののびのびできそうで良いと思う。
- ・買い物など歩いていける場所。医者、病院がかよえる所。
- ・生活に不便。
- ・暑い。なにもない。不便。楽しくない。
- ・車がないと不便。高齢化が進み、町民の協力を強要しないでほしい。とくに夏の美化ＤＡＹは熱中症が心配。
- ・不便なところがある。買物、交通など。
- ・何かにつけて不便だから。

【医療機関】

- ・総合病院がない。
- ・急病の時に病院が遠い。

【スーパー・商業施設等】

- ・交通の便が悪く、スーパー等の小売販売店も充実していない。住み続けるメリットは無い。
- ・スーパーが遠い。
- ・スーパー等が限定され、安価な物が入手できない。
- ・これからは施設がすぐそばにあるといい思い３（※）にしました。今住んでいる場所には色々な施設がないため。
※「３ 将来は町外に移り住みたい」
- ・車に乗れなくなった時不便。生活ができない為。
- ・交通、買い物、子供の教育・環境が悪い。老後の不便さ（不安）。
- ・買い物等生活するのに徒歩圏内に何も無い。
- ・買物が不便。温水プールがない。魅力のある飲食店がない。
- ・店がどんどんなくなって不便になった。病院が移転、そこまで行く交通の便がわるい。なんとなくさみしい町になってゆく。

【地域活動・地域行事】

- ・町内行事が多くわずらわしい。リサイクルの分別や清そう活動に年に何度も出なくてはならないのが負担。そういう田舎の人づき合いのわずらわしさをなくさないで若い人は来ない。来てもすぐ出ていってしまうと思う。とにかく住民に色々やらせようとすぐ〇〇委員とかつくてやらせるのはやめて欲しい。
- ・いびまつりがあるから。
- ・町民の閉鎖的な考え方が嫌（決まりだからやれというような）。消防団への寄付が続いている。町に訴えても改善しない。町も町民にもあきれる。
- ・町の行事が多い。

【財政面】

- ・他市町村に比べ税が高い。働く場所がなく、他市町村へ出勤している。
- ・４０年以上住んでいますが、揖斐川町に住んでよかったと思う事は一度もありません。定期バスも無くなり年寄りには住みにくい町です。やさしくない町です。税金ばかり高いのに何もしてくれません。
- ・住みにくい。メリットがない。税金高い。
- ・なにものもないのに税金ばかりたかいから。高所得だからおかねをとる、高所得だから障がい者の母などの子などのもらえるお金もらえない町はむりだから。

【人間関係】

- ・村のつき合いが大変。

- ・近所付き合いが難しく、高齢者ばかりで話の合う人がいない。

【揖斐川町の魅力・活気】

- ・揖斐川町の伸びしろ全く無い、魅力なし、人口減少ヤムなし。将来と言わず近々でも移りたい。道路事情、交通機関等、他町（大野、池田）に劣る。
- ・町のこれから先の発展に不安があるから。
- ・工事業者の町外からの参入をして、古い体質を変えて欲しい。このままでは、町の発展はない！
- ・若い人が少なく、高齢者が多くなるのはどうしても活気がなくなるので、魅力としては薄くなると思います。

【家族】

- ・子供の近くに住む。
- ・家族が町外に住んでいる為。
- ・子供達が遠方であり、1人になったらもっと便利な所へ移住したい。
- ・身内のそばに、子供達のそばでいたい。少し便利が悪い。

【その他】

- ・必要な介護サービスが受けられない。行政に町民の声が反映されない。情報公開が少なすぎる。
- ・高齢になった時の一人暮らしが不安なため。
- ・人口減少、高齢化で町内の役があたる方が多くなる。車に乗らなくなったり1人になった時の生活が不安です
- ・過疎地だから 発展しないから
- ・キャリアアップのため
- ・引っ越してきたけど馴染めない。
- ・他に住みたい場所があるから
- ・将来的に存続不可能な地域だと考える
- ・雪どけと、木や草をきってくれないから
同じ国土交通省の管轄の地区、森前4区でもやってもらえるところはずっとやってもらえる。うちは全くやってもらえない。ジャングルになっていて動物が出るから危険で住みたくない。揖斐に來たことを後悔
- ・現状の地区に愛着が無いので、住宅の築年数が経過した際に、移住する可能性が高い。
- ・鳥獣害対策がなされないの、不安。(気を付けてだけでは、どうしたら回避できるのか具体的な対応が提示されない)災害に対するリスクマネジメントがなされてない。山が多い為、土砂崩れの不安がある。
- ・最近、「女性防火」「保健推進委員」が廃止され、ほっとしています。男性、女性も仕事で働いてその上の役職。地区での役も何年もやる。だれも帰ってきませんよ。人口の多い地域といっしょにしないほしい。私は20年前実家に戻りましたが、みどりに囲まれ静かに暮らしたいと思ったからです。
- ・地域の役（消防、青少年、体育）等をやりたくない。
- ・職場に近い所がよい。
- ・職場から遠いため。病院や子の習い事等、選択肢が少ない為。
- ・老人に対してのいたわりの心が無い。役場の人間にもっと電話にやさしく出なさい！と言いたい。ダメ！
- ・人口減でやっていけるのか不安。
- ・町内から身の回りの買物、病院、その他の所用で近隣の町外への交通機関の移動、連絡がスムーズに出来ればと思います。
- ・行政のコンプライアンスの欠如、排他性、情報の不開示性、施策の検証と報告のなさなど。
- ・町とか区の代表者の考え方、自分の回り、親近者、友人を優先して考えないで、本当にこまっている人々のことを考え、町と区の全体を見て下さい。
- ・都会育ちだから。
- ・県外から移住している為、できる事であれば地元で生涯を終えたい。
- ・職の充実。交通、設備の充実度が、町外の方が魅力的だから。
- ・人口が減り続けているにもかかわらず、揖斐祭を5町でいつまでも昔と同じ方法でやっていて無理がある。若い人で祭りがある為、他地域にすみたい人が沢山いる。一部の人に負担がかかりすぎる。交通の便が悪く、買い物する所も少ない。医療機関も少ない。将来自分が自由に動けなくなった時に不安がある。
- ・住みやすい町にいきたいから。

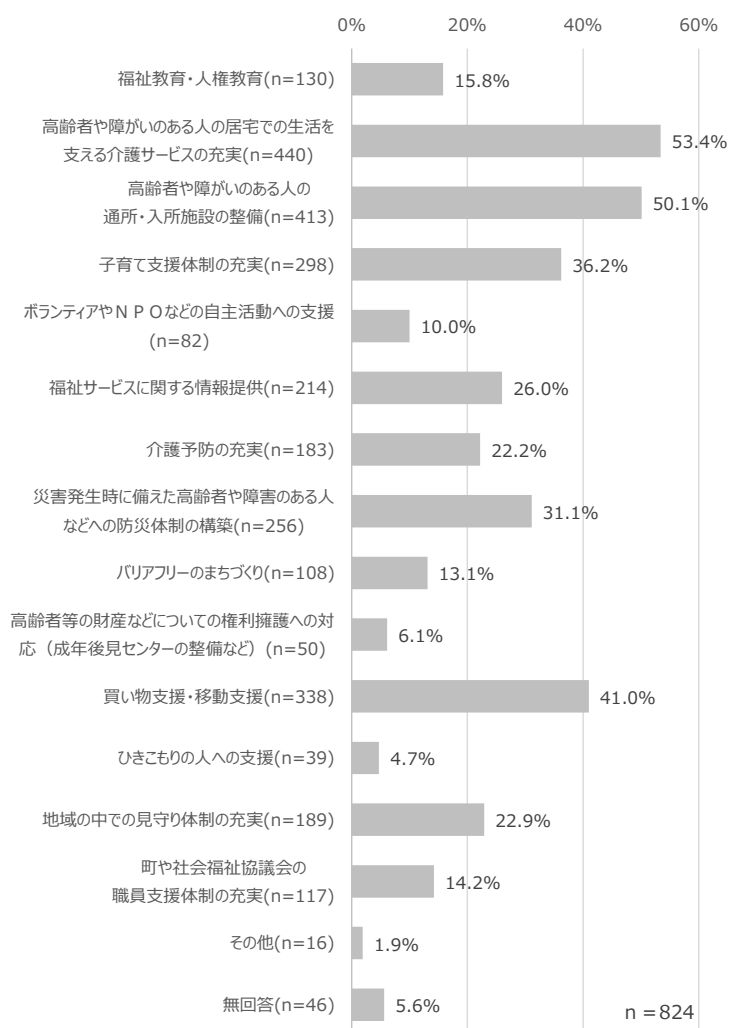
10 これからの揖斐川町の福祉で大切なこと

これからの揖斐川町の福祉において大切だと思われることとしては、「高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実（以下「居宅介護サービスの充実」）」が53.4%と最も高く、次いで「高齢者や障がいのある人の通所・入所施設の整備（以下「通所・入所施設の整備」）」が50.1%となっています。（図表1-92）。

性別でみると、男女ともに「高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実」が最も高くなっています。

年齢別でみると、10～40歳代は「子育て支援体制の充実」が最も高く、50歳代・60歳代は「高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実」が最も高くなっています。70歳代では「高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実」「高齢者や障がいのある人の通所・入所施設の整備」が同率で高くなっています。（図表1-93）

図表1-92 これからの揖斐川町の福祉で大切なこと（複数回答）



図表 1－93 揖斐川町の福祉で大切なこと（複数回答、属性別）

単位：nは人、その他は%

区分	性別			年齢別						
	男性	女性	その他または 回答しない	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
n	366	452	4	6	32	52	108	123	229	271
福祉教育・人権教育	15.6	15.9	-	16.7	18.8	19.2	19.4	14.6	13.5	15.5
高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実	53.6	53.5	25.0	33.3	34.4	42.3	39.8	54.5	57.6	59.4
高齢者や障がいのある人の通所・入所施設の整備	49.7	50.9	25.0	33.3	18.8	36.5	38.9	48.0	53.7	59.4
子育て支援体制の充実	41.8	31.2	75.0	50.0	53.1	75.0	45.4	34.1	33.2	26.2
ボランティアやNPOなどの自主活動への支援	12.0	8.4	-	-	3.1	9.6	2.8	11.4	12.7	11.1
福祉サービスに関する情報提供	21.3	29.9	-	-	6.3	15.4	23.1	19.5	28.4	32.8
介護予防の充実	21.0	23.0	25.0	16.7	3.1	17.3	20.4	23.6	23.1	24.4
災害発生時に備えた高齢者や障害のある人などへの防災体制の構築	30.3	31.9	25.0	-	21.9	34.6	27.8	29.3	34.5	31.7
バリアフリーのまちづくり	13.9	11.9	50.0	16.7	12.5	7.7	14.8	13.0	12.7	13.7
高齢者等の財産などについての権利擁護への対応（成年後見センターの整備など）	6.3	6.0	-	-	6.3	1.9	4.6	9.8	4.4	7.4
買い物支援・移動支援	36.1	45.1	25.0	16.7	31.3	26.9	41.7	46.3	42.4	41.3
ひきこもりの人への支援	5.2	4.4	-	16.7	3.1	3.8	6.5	3.3	3.9	5.5
地域の中での見守り体制の充実	21.6	24.1	25.0	-	18.8	21.2	21.3	19.5	20.1	28.8
町や社会福祉協議会の職員支援体制の充実	17.5	11.7	-	33.3	12.5	9.6	11.1	6.5	17.0	17.3
その他	2.5	1.5	-	-	3.1	1.9	4.6	3.3	1.3	0.7
無回答	6.3	4.9	25.0	16.7	3.1	5.8	6.5	4.9	5.7	5.5

地区別、地域行事・地域活動の参加状況別（参加したことはないを除く）、ボランティア活動の参加状況別でみると、「高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実」もしくは「高齢者や障がいのある人の通所・入所施設の整備」が最も高くなっています。地域行事・地域活動の参加状況別で参加したことはないとした人は、「高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実」と「買い物支援・移動支援」が同率で高くなっています。（図表 1－94）

図表 1－94 揖斐川町の福祉で大切なこと（複数回答、属性別）

単位：nは人、その他は%

区分	地区別				地域行事・地域活動			ボランティア活動		
	揖斐川地区	谷汲地区	春日地区	その他	参加している	以前に参加したことがある	参加したことはない	活動している	以前に活動したことがある	活動したことはない
n	620	126	30	44	495	223	95	156	230	391
福祉教育・人権教育	16.6	16.7	6.7	6.8	17.0	15.7	11.6	16.0	18.3	13.8
高齢者や障がいのある人の居宅での生活を支える介護サービスの充実	51.5	55.6	73.3	61.4	55.8	52.0	44.2	53.8	51.3	54.7
高齢者や障がいのある人の通所・入所施設の整備	48.7	50.0	60.0	65.9	52.9	48.0	43.2	58.3	47.0	49.6
子育て支援体制の充実	37.7	39.7	13.3	20.5	37.6	35.0	33.7	38.5	36.5	36.6
ボランティアやNPOなどの自主活動への支援	10.3	8.7	6.7	11.4	11.7	8.5	2.1	12.2	13.9	6.6
福祉サービスに関する情報提供	25.5	27.8	30.0	25.0	25.9	28.3	21.1	27.6	25.2	23.5
介護予防の充実	22.1	22.2	20.0	22.7	23.4	22.0	17.9	26.9	22.2	20.7
災害発生時に備えた高齢者や障害のある人などへの防災体制の構築	29.7	38.1	30.0	34.1	31.5	30.9	30.5	32.7	31.3	29.9
バリアフリーのまちづくり	13.2	11.9	16.7	11.4	12.3	15.2	11.6	9.0	11.7	15.6
高齢者等の財産などについての権利擁護への対応（成年後見センターの整備など）	5.6	7.1	6.7	9.1	5.5	8.1	2.1	4.5	6.5	5.9
買い物支援・移動支援	38.4	48.4	40.0	56.8	40.0	42.2	44.2	37.2	40.4	44.0
ひきこもりの人への支援	5.8	0.8	3.3	2.3	4.8	4.9	4.2	1.9	5.2	5.4
地域の中での見守り体制の充実	22.4	24.6	30.0	22.7	24.4	20.2	22.1	25.6	22.2	22.5
町や社会福祉協議会の職員支援体制の充実	13.9	13.5	23.3	15.9	15.8	10.3	13.7	21.2	14.8	11.3
その他	1.9	1.6	6.7	-	1.6	2.2	3.2	1.3	1.7	2.3
無回答	6.1	2.4	-	9.1	5.1	4.5	10.5	2.6	4.8	6.4

「その他」として、図表 1－95の内容が記載されていました。

図表 1－95 揖斐川町の福祉で大切なこと（その他）

・気楽に参加できる事。 ・交通が不便。 ・移動手段の構築（免許返納後の不安）。 ・就労支援、結婚支援 ・働き手の確保。 ・人口を増やす。 ・あまり、お金がかからなくてすむ、町民の意識UP。 ・防犯カメラ設置。	・文化財保護 ・お金 ・少子化対策 ・福祉に関連する人材へあらゆる面での教育 ・施設でクラスターが発生した時、自宅で見てくれと言われても対応できず別に対応できる場所。 ・わからない（2人）
---	---

1 1 揖斐川町のまちづくりについて

揖斐川町の行政施策32項目について、それぞれ「現状の満足度」と「今後の重要度」を5段階でたずね、施策項目ごとに評価得点をつけて評価を行いました。評価得点は、それぞれの選択肢に対して次に示す点数をつけて算出しました。また、算出に当たっては、以下の式を使用しています。

【満足度の各選択肢に対する得点】

選択肢番号	満足度	得点
5	満足している	2
4	やや満足している	1
3	どちらともいえない	0
2	やや不満である	-1
1	不満である	-2

【重要度の各選択肢に対する得点】

選択肢番号	満足度	得点
5	重要である	2
4	やや重要である	1
3	どちらともいえない	0
2	あまり重要でない	-1
1	重要でない	-2

【評価得点の算出式】

$$\text{満足度} = \frac{(\text{「満足」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + (\text{「どちらともいえない」} \times 0 \text{点}) + (\text{「やや不満」} \times -1 \text{点}) + (\text{「不満」} \times -2 \text{点})}{\text{回答者数 (「無回答」を除く)}}$$

$$\text{重要度} = \frac{(\text{「重要」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや重要」} \times 1 \text{点}) + (\text{「どちらともいえない」} \times 0 \text{点}) + (\text{「あまり重要でない」} \times -1 \text{点}) + (\text{「重要でない」} \times -2 \text{点})}{\text{回答者数 (「無回答」を除く)}}$$

図表 1－96では、各施策における満足度、重要度、ギャップ値（「重要度」－「満足度」）について、ポイントおよび順位を一覧にしました。各々の上位 5 項目を太字（網掛け）で、下位 5 項目を白太字（背景黒）で表示しています。

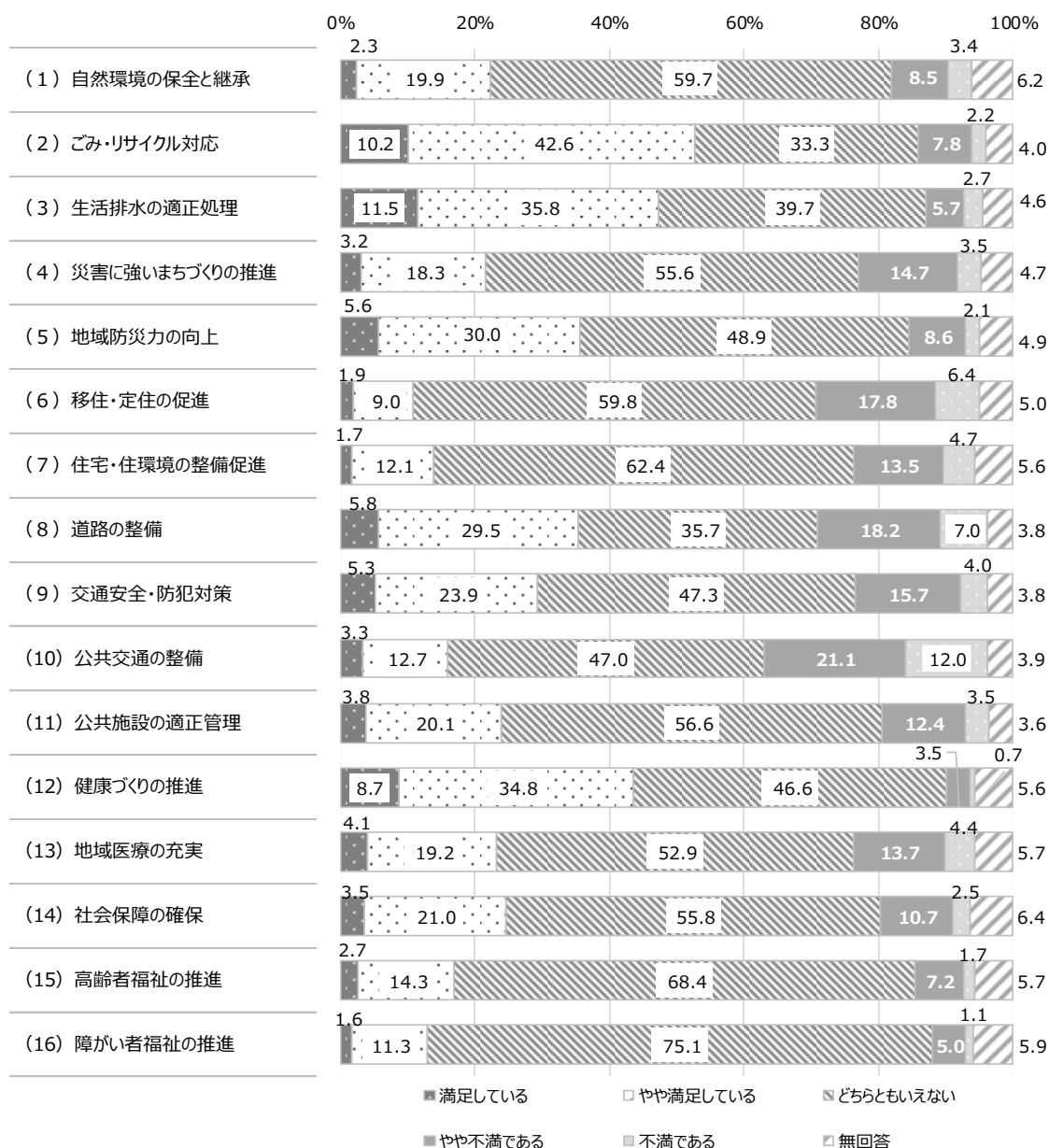
図表 1－96 行政施策の満足度・重要度・ギャップ値

施策		満足度		重要度		ギャップ値	
		ポイント	順位	ポイント	順位	ポイント	順位
都市基盤・生活基盤	(1) 自然環境の保全と継承	0.10	12	0.85	20	0.75	23
	(2) ごみ・リサイクル対応	0.53	1	1.20	2	0.67	24
	(3) 生活排水の適正処理	0.50	3	1.10	7	0.60	26
	(4) 災害に強いまちづくりの推進	0.03	21	1.27	1	1.24	3
	(5) 地域防災力の向上	0.30	4	1.16	4	0.87	16
	(6) 移住・定住の促進	-0.19	30	0.74	23	0.93	13
	(7) 住宅・住環境の整備促進	-0.08	23	0.70	24	0.78	21
	(8) 道路の整備	0.09	14	1.08	10	0.99	9
	(9) 交通安全・防犯対策	0.11	10	1.13	6	1.02	7
	(10) 公共交通の整備	-0.27	31	1.14	5	1.41	1
	(11) 公共施設の適正管理	0.09	15	1.08	11	0.99	8
健康・福祉・医療	(12) 健康づくりの推進	0.50	2	0.93	17	0.43	29
	(13) 地域医療の充実	0.05	19	1.19	3	1.14	4
	(14) 社会保障の確保	0.13	8	1.09	8	0.96	10
	(15) 高齢者福祉の推進	0.10	13	1.04	12	0.94	12
	(16) 障がい者福祉の推進	0.08	17	0.89	19	0.81	19
	(17) 少子化対策・子育て支援の充実	0.14	7	1.09	9	0.95	11
教育・文化・交流	(18) 学校教育の質の向上	0.08	16	0.93	16	0.85	17
	(19) 教育環境の整備・充実	0.10	11	0.94	15	0.84	18
	(20) 生涯学習・生涯スポーツの推進	0.23	5	0.68	25	0.45	28
	(21) 地域文化の保存・継承	0.18	6	0.51	30	0.33	31
	(22) 多様な交流の創出	0.12	9	0.39	32	0.27	32
	(23) 男女共同参画の推進	0.03	20	0.51	29	0.48	27
	(24) 人権の尊重・多文化共生の推進	0.07	18	0.48	31	0.42	30
環境・産業振興	(25) 観光交流の活性化	-0.14	28	0.64	27	0.78	22
	(26) タウンプロモーションの展開	-0.13	27	0.67	26	0.81	20
	(27) 農林業の振興	-0.19	29	0.93	18	1.11	5
	(28) 森林資源の活用	-0.09	25	0.78	22	0.88	15
	(29) 商工業の振興	0.00	22	0.63	28	0.63	25
	(30) 労働環境の向上と雇用の確保・拡大	-0.28	32	0.98	13	1.26	2
計画推進	(31) まちづくりの推進	-0.08	24	0.81	21	0.89	14
	(32) 適正な行財政運営	-0.13	26	0.98	13	1.10	6

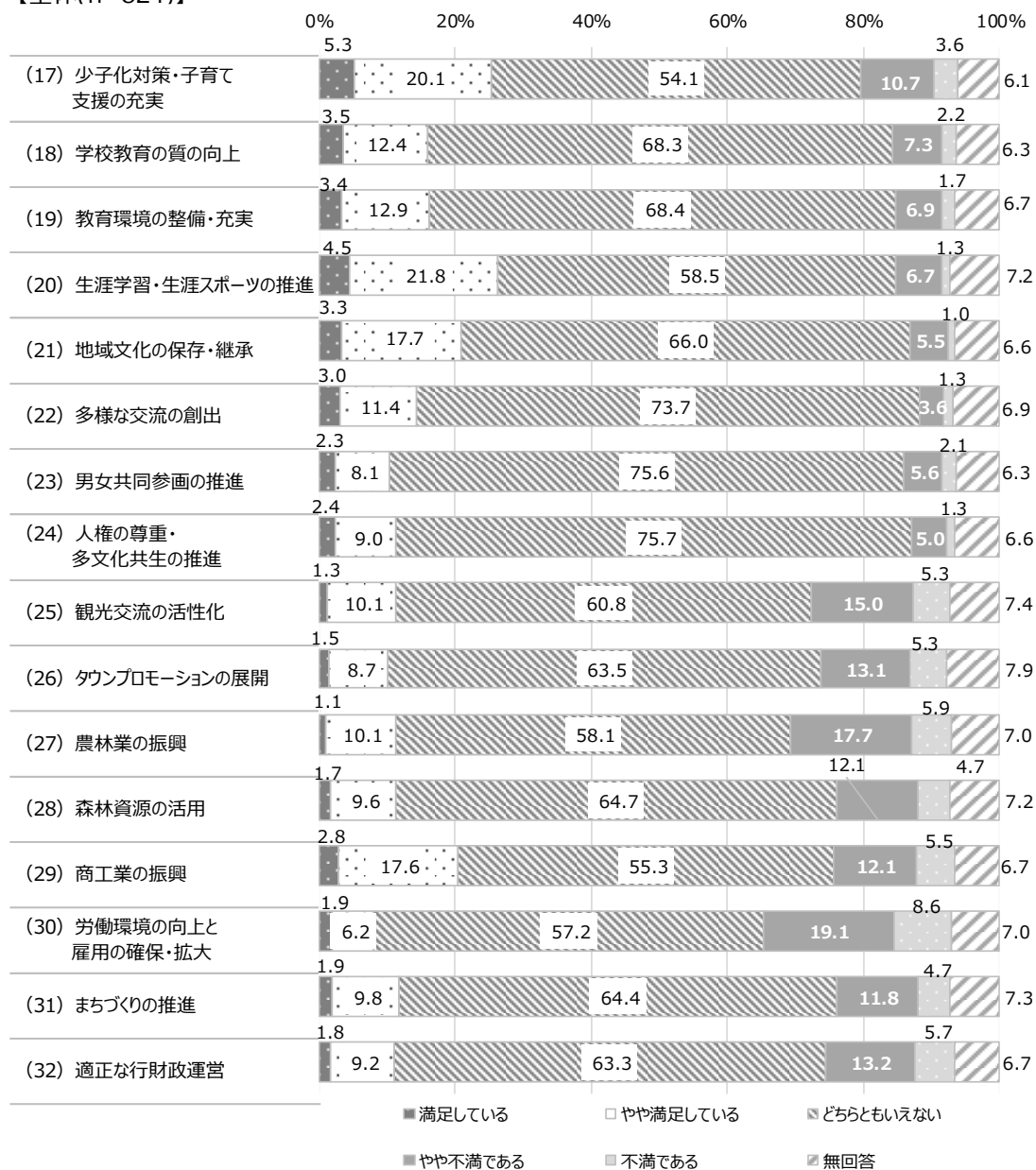
各施策ごとの満足度についてみていくと、ポイントが高い上位5項目は、「（２）ごみ・リサイクル対応」「（１２）健康づくりの推進」「（３）生活排水の適正処理」「（５）地域防災力の向上」「（２０）生涯学習・生涯スポーツの推進」となっています。（図表１－９７）

図表１－９７ 行政施策の満足度

【全体(n=824)】



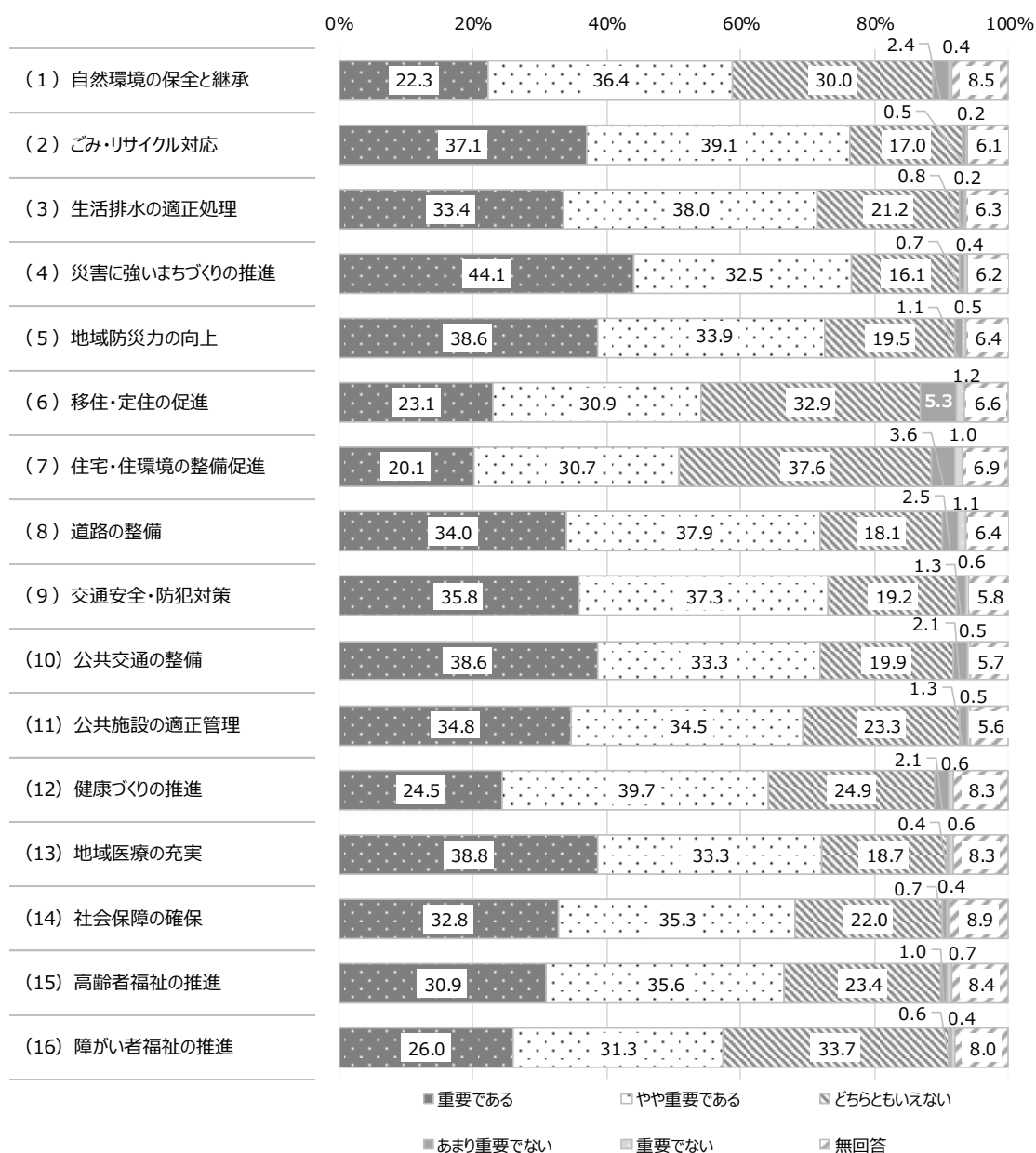
【全体(n=824)】



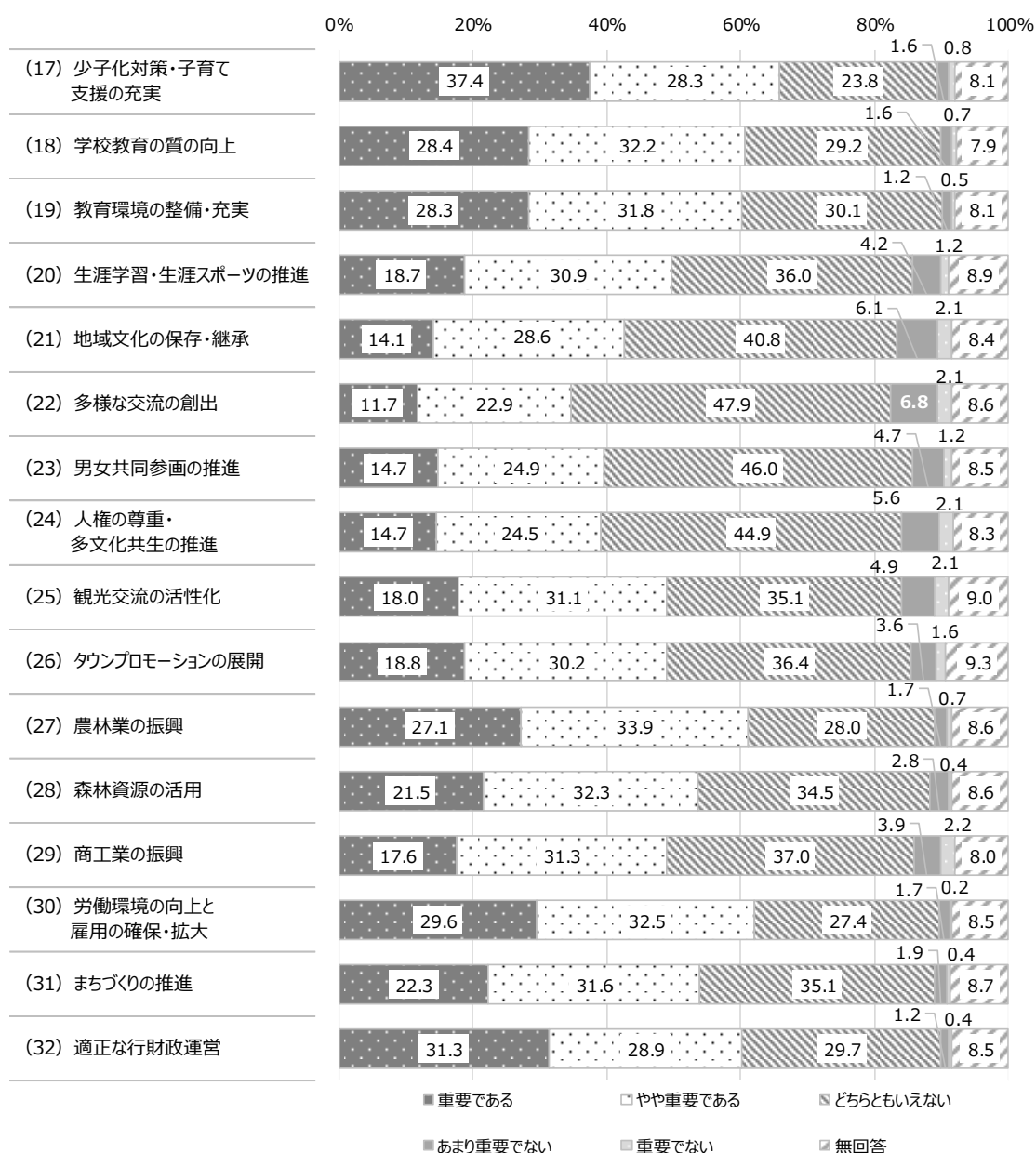
次に、各施策ごとの重要度の評価ポイントをみていくと、ポイントが高い上位5項目は、「（４）災害に強いまちづくりの推進」「（２）ごみ・リサイクル対応」「（１３）地域医療の充実」「（５）地域防災力の向上」「（１０）公共交通の整備」となっています。（図表１－９８）

図表１－９８ 行政施策の重要度

【全体(n=824)】



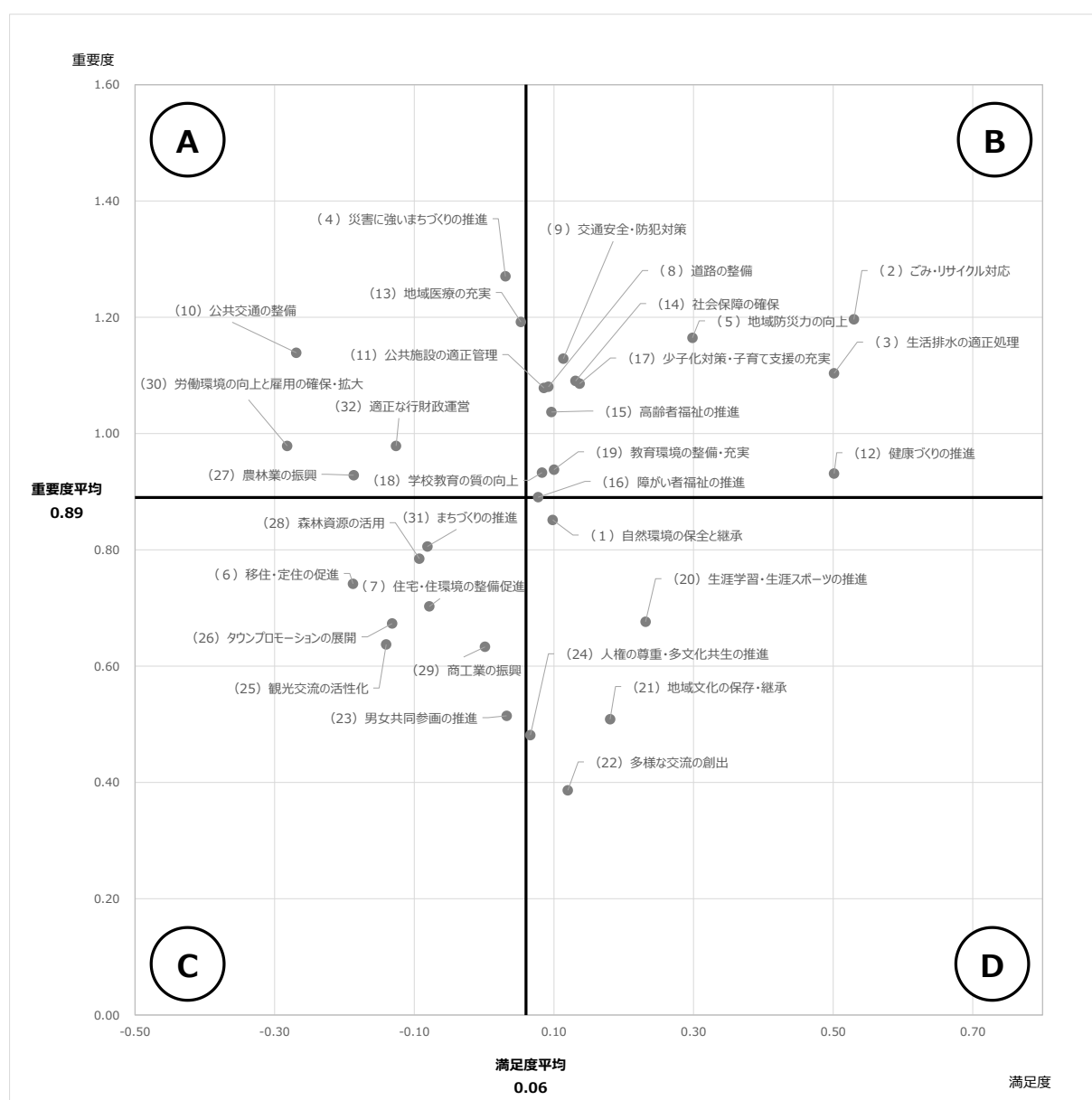
【全体(n=824)】



図表 1 - 99では、施策ごとの相対的位置づけが分かるように、満足度、重要度の高低により4つの領域に分けました。各施策ごとの位置づけによって図表 1 - 100のような対応が求められると考えられます。ただし、今回の結果だけでなく、将来性や緊急性も考慮したうえで対応していく必要があります。

図表 1 - 99の平均値の補助線から左上（Aの領域）にある項目は、重要度が高いにも関わらず満足度が低い施策であり、住民ニーズに応えられていない分野と考えられます。詳しくは、図表 1 - 101をご覧ください。

図表 1 - 99 揖斐川町のまちづくりについての満足度および重要度（散布図）



図表 1 - 100 図表 1 - 99の見方

高い↑ 重要度	A 重要課題 ニーズ対応策の検討 (重要度：高い、満足度：低い)	B 維持領域 低コスト化・満足度維持 (重要度：高い、満足度：高い)
	C 見直し領域 関心度の引き上げ、廃止検討 (重要度：低い、満足度：低い)	D 縮小領域 規模縮小 (重要度：低い、満足度：高い)
低い		満足度 →高い

図表 1 - 101 領域ごとの項目

高い↑ 重要度	Aに属する項目 (4) 災害に強いまちづくりの推進 (10) 公共交通の整備 (13) 地域医療の充実 (27) 農林業の振興 (30) 労働環境の向上と雇用の確保・拡大 (32) 適正な行財政運営	Bに属する項目 (2) ごみ・リサイクル対応 (3) 生活排水の適正処理 (5) 地域防災力の向上 (8) 道路の整備 (9) 交通安全・防犯対策 (11) 公共施設の適正管理 (12) 健康づくりの推進 (14) 社会保障の確保 (15) 高齢者福祉の推進 (17) 少子化対策・子育て支援の充実 (18) 学校教育の質の向上 (19) 教育環境の整備・充実
	Cに属する項目 (6) 移住・定住の促進 (7) 住宅・住環境の整備促進 (23) 男女共同参画の推進 (25) 観光交流の活性化 (26) タウンプロモーションの展開 (28) 森林資源の活用 (29) 商工業の振興 (31) まちづくりの推進	Dに属する項目 (1) 自然環境の保全と継承 (20) 生涯学習・生涯スポーツの推進 (21) 地域文化の保存・継承 (22) 多様な交流の創出 (24) 人権の尊重・多文化共生の推進
低い		満足度 →高い

※「(16) 障がい者福祉の推進」に関しては、重要度が平均と同じ0.89ポイントであったため、図表 1 - 101には記載しておりません。

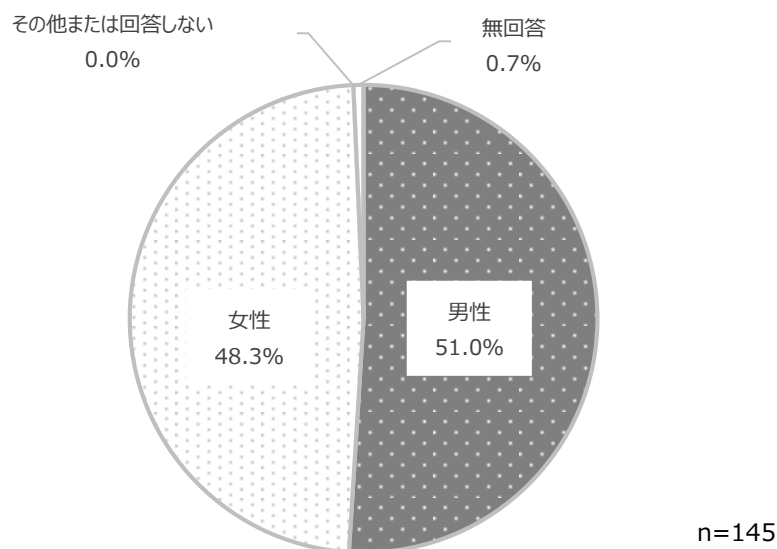
第2章 中学生調査

1 基本属性

(1) 性 別

回答した生徒の性別は、男性が51.0%、女性が48.3%と、男性が女性よりも2.7ポイント高くなっています（図表2－1）。

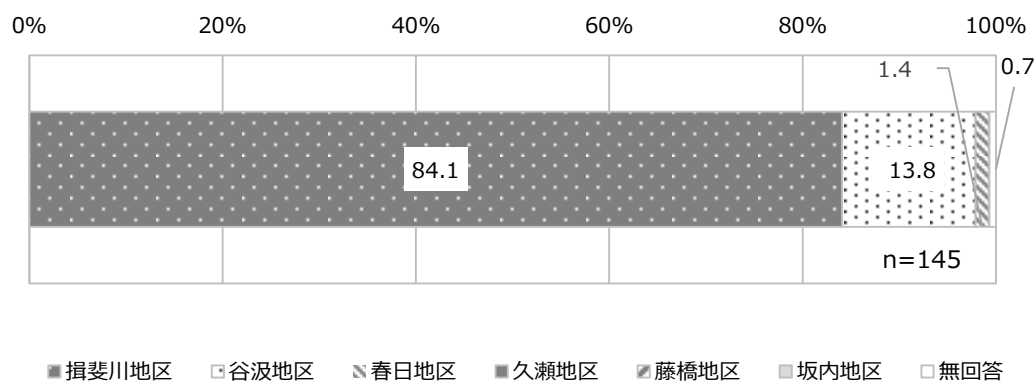
図表2－1 性 別



(2) 居住地区

回答者の居住する地区は、「揖斐川地区」が84.1%を占め、「谷汲地区」が13.8%、「春日地区」が1.4%、となっています。なお、本項以降について、地区別にみる場合には、揖斐川地区以外を合わせて「その他の地区」としています（図表2－2）。

図表2－2 居住地域

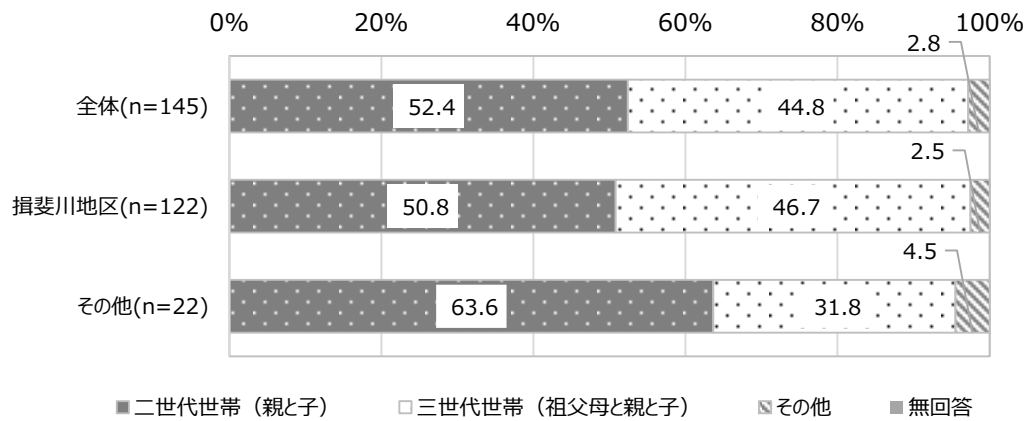


（注）「久瀬地区」「藤橋地区」「坂内地区」の選択肢については該当がありませんでした。

(3) 世 帯

親・子の「二世帯世帯」が52.4%、祖父母・親・子の「三世帯世帯」が44.8%、となっています。「その他」として「四世代世帯」（3人）、「伯父」という回答がありました（図表2－3）。

図表2－3 世 帯

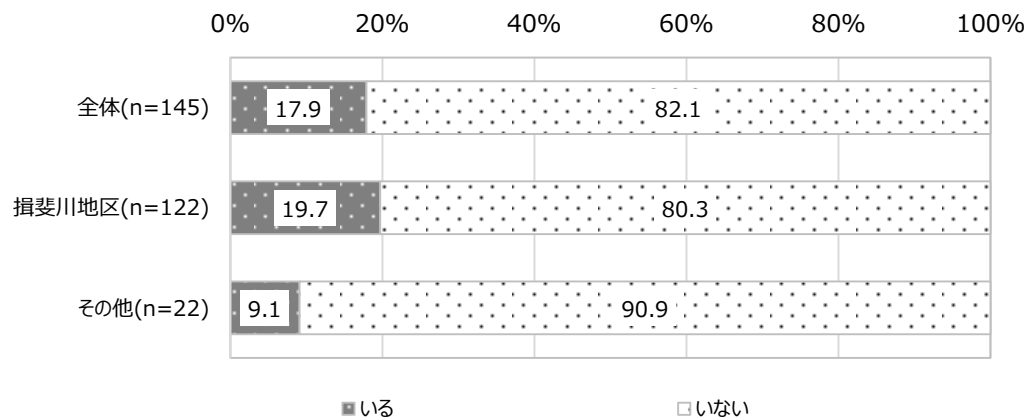


（注）「全体」には、地区無回答者を含んでいます。以下同じ。

(4) 障がい者・要介護者の有無

自分を含め、家族に障がいのある人や介護の必要な人がいるかたずねたところ、「いる」は17.9%です。地区別でみると、その他の地区の「いる」は9.1%と低くなっています（図表2－4）。

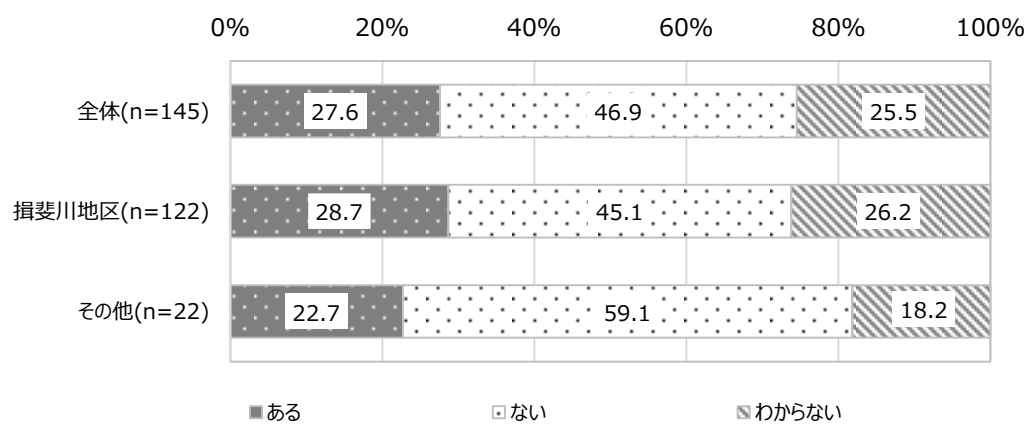
図表2－4 家族に障がい者・要介護者はいるか



(5) 転入経験

他市町村から揖斐川町内へ移り住んだ経験があるかたずねたところ、「ある」は27.6%となっています（図表2－5）。

図表2－5 他市町村からの転入経験はあるか



2 日常生活について

(1) うれしかったことや楽しかったこと

最近のうれしかったことや楽しかったこととしては、「友達のこと」「趣味のこと」が50%以上と、高くなっています（図表2－6）。

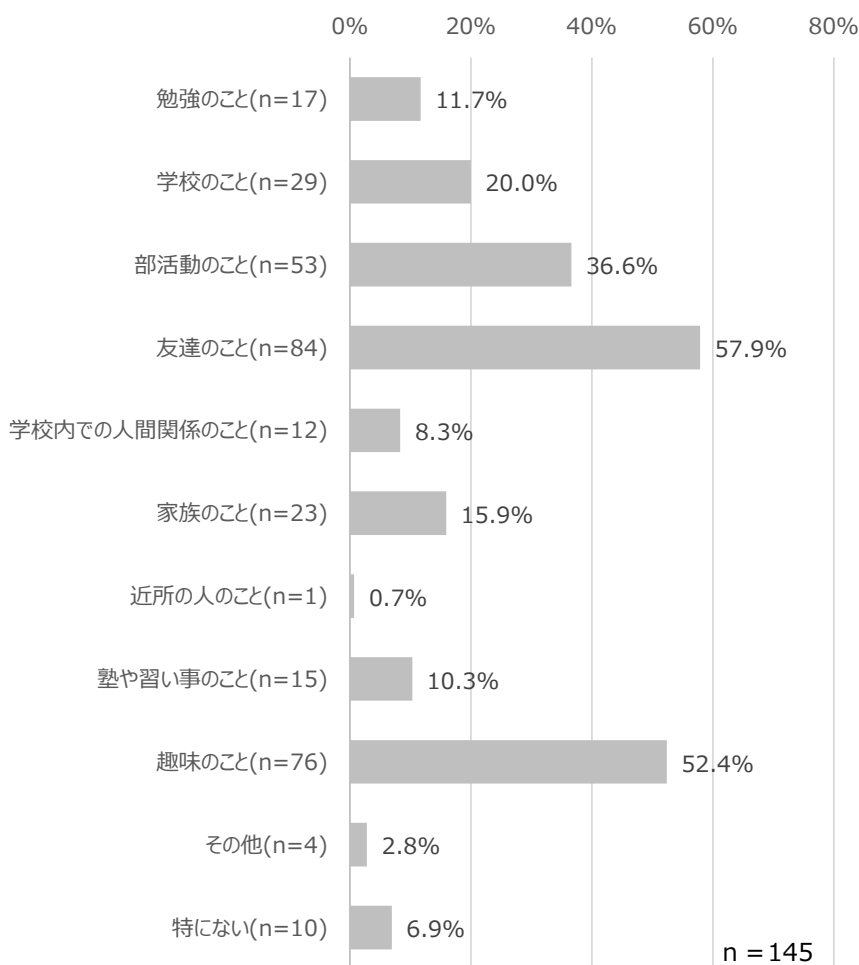
性別でみると、男性、女性ともに「友達のこと」が最も高くなっています。

世帯の類型別でみると、二世帯世帯、三世帯世帯は「友達のこと」が最も高く、その他の世帯は「趣味のこと」が高くなっています。

地区別でみると、揖斐川地区、その他の地区ともに、「友達のこと」が最も高くなっています（図表2－7）。

「その他」として、「野菜が育った」「家」「ボーイズのこと」が記載されていました。「全部」という回答もありました。

図表2－6 最近のうれしかったことや楽しかったこと（複数回答）



図表 2 - 7 最近のうれしかったことや楽しかったこと（複数回答、性別・世帯別・地区別）

単位：nは人、他は%

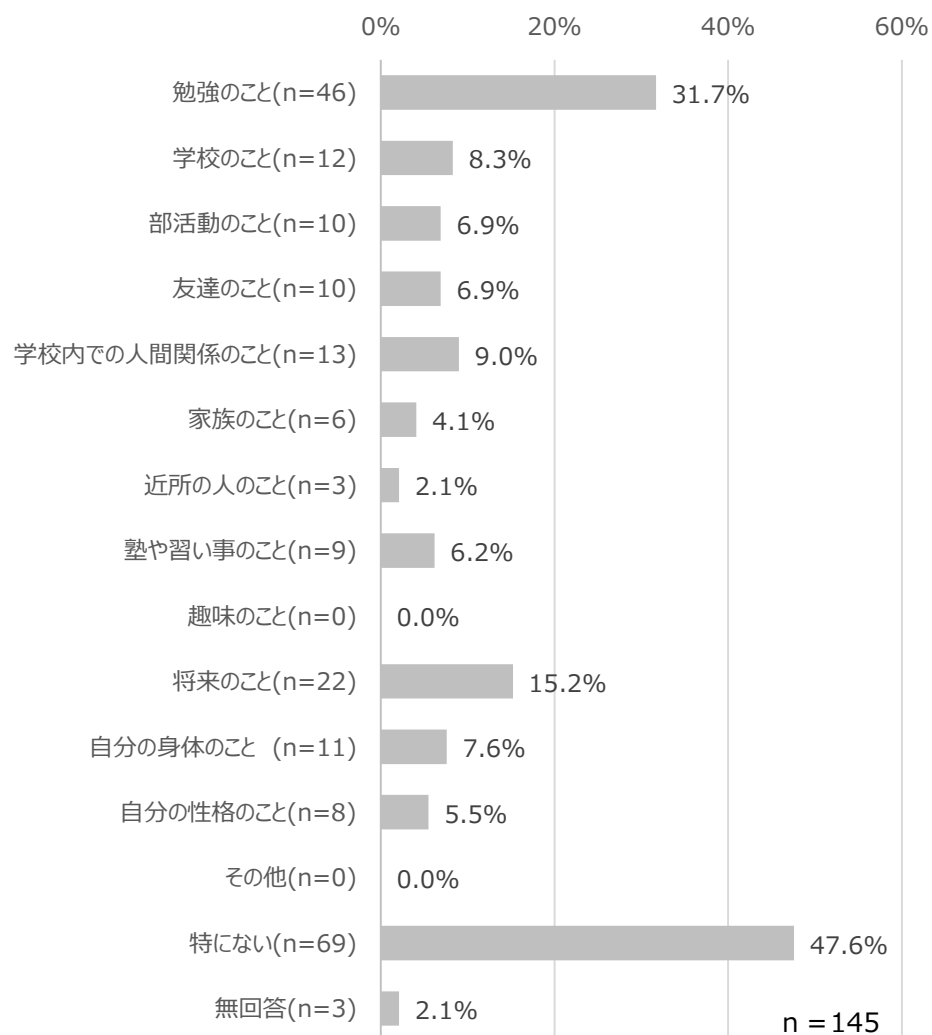
区分	性別		世帯別			地区別	
	男性	女性	二世世代世帯	三世世代世帯	その他	揖斐川地区	その他
n	74	70	76	65	4	122	22
勉強のこと	13.5	10.0	6.6	16.9	25.0	13.1	4.5
学校のこと	18.9	20.0	14.5	27.7	-	22.1	9.1
部活動のこと	40.5	32.9	39.5	33.8	25.0	37.7	27.3
友達のこと	50.0	65.7	64.5	52.3	25.0	59.8	50.0
学校内での人間関係のこと	8.1	8.6	10.5	6.2	-	7.4	13.6
家族のこと	13.5	18.6	18.4	12.3	25.0	15.6	18.2
近所の人のこと	-	1.4	1.3	-	-	0.8	-
塾や習い事のこと	12.2	8.6	10.5	10.8	-	12.3	-
趣味のこと	48.6	55.7	53.9	50.8	50.0	55.7	36.4
その他	2.7	2.9	2.6	3.1	-	1.6	9.1
特にない	10.8	2.9	2.6	10.8	25.0	4.9	18.2

(2) 悩みや嫌なこと

最近の悩みや嫌なことをたずねたところ、「特にない」が47.6%と最も高くなっています。次いで「勉強のこと」31.7%、「将来のこと」15.2%と続きました（図表2－8）。

性別・地区別でも、「特にない」が最も高くなり、世帯の類型別では二世帯世帯、三世帯世帯では「特にない」が最も高くなり、その他の世帯では、「特にない」「自分の身体のこと」が最も高くなっています（図表2－9）。

図表2－8 最近の悩みや嫌なこと（複数回答）



図表 2 - 9 最近の悩みや嫌なこと（複数回答、性別・世帯別・地区別）

単位：nは人、他は%

区分	性別		世帯別			地区別	
	男性	女性	二世世代世帯	三世世代世帯	その他	揖斐川地区	その他
n	74	70	76	65	4	122	22
勉強のこと	29.7	32.9	32.9	32.3	-	30.3	36.4
学校のこと	1.4	15.7	6.6	10.8	-	9.0	4.5
部活動のこと	5.4	8.6	6.6	7.7	-	8.2	-
友達のこと	4.1	10.0	7.9	6.2	-	7.4	4.5
学校内での人間関係のこと	6.8	11.4	9.2	7.7	25.0	9.0	9.1
家族のこと	2.7	5.7	2.6	6.2	-	4.1	4.5
近所の人のこと	2.7	1.4	1.3	3.1	-	2.5	-
塾や習い事のこと	8.1	4.3	7.9	4.6	-	5.7	9.1
趣味のこと	-	-	-	-	-	-	-
将来のこと	14.9	15.7	10.5	20.0	25.0	13.9	22.7
自分の身体のこと	10.8	4.3	7.9	4.6	50.0	9.0	-
自分の性格のこと	5.4	5.7	7.9	3.1	-	4.1	13.6
その他	-	-	-	-	-	-	-
特にない	51.4	44.3	50.0	44.6	50.0	48.4	45.5
無回答	2.7	1.4	1.3	3.1	-	2.5	-

(3) 相談相手

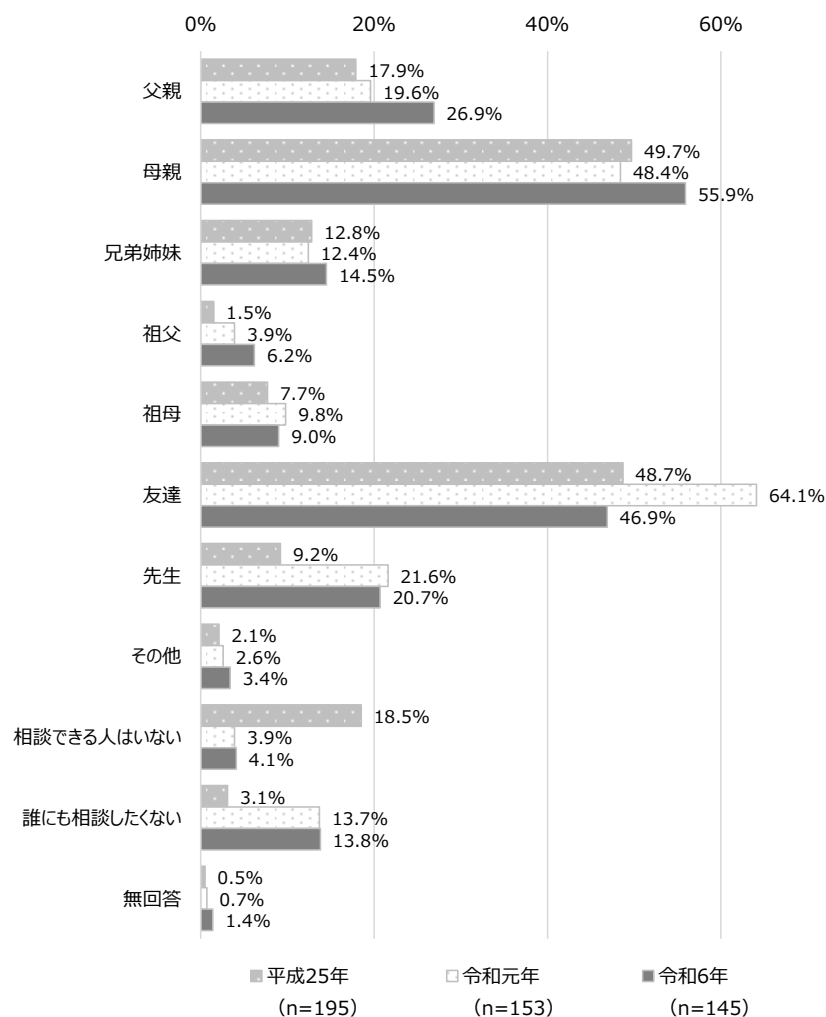
悩んだり困ったりしたときの相談相手は、「母親」が55.9%と最も高く、次いで「友達」（46.9%）、「父親」（26.9%）、「先生」（20.7%）の順となっています。一方で、「相談できる人はいない」が4.1%（6人）、「誰にも相談したくない」が13.8%（20人）あります。

令和元年の調査と比較すると、「友達」が17.2ポイント減少し、平成25年調査時とほぼ同水準となりました。一方で、「父親」が7.3ポイント増加、「母親」が7.5ポイント増加し、平成25年調査時からみると、＜親＞が上昇傾向にあります（図表2－10）。

性別でみると、男女ともに「母親」が最も高くなっています。「男性」が「女性」に比べて高いのは、「父親」「祖父」「祖母」などで、「女性」が高いのは「母親」「友達」となっています。世帯の類型別では、二世帯世帯およびその他の世帯では「母親」で、三世帯世帯では「友達」が高くなっています。地区別では、揖斐川地区、その他の地区ともに、「母親」次いで「友達」が高くなっています（図表2－11）。

また、「その他」として、「カウンセラーの先生」、「親戚」（2人）、「相談しない（してない）」（2人）がありました。

図表2－10 相談相手（複数回答、平成25年、令和元年調査と比較）



図表 2 - 11 相談相手（複数回答、性別・世帯別・地区別）

単位：nは人、他は%

区分	性別		世帯別			地区別	
	男性	女性	二世帯世帯	三世帯世帯	その他	揖斐川地区	その他
n	74	70	76	65	4	122	22
父親	33.8	20.0	27.6	24.6	50.0	26.2	31.8
母親	52.7	60.0	64.5	44.6	75.0	56.6	54.5
兄弟姉妹	16.2	12.9	11.8	18.5	-	14.8	13.6
祖父	12.2	-	5.3	7.7	-	6.6	4.5
祖母	14.9	2.9	5.3	12.3	25.0	9.0	9.1
友達	45.9	47.1	43.4	52.3	25.0	46.7	45.5
先生	24.3	17.1	22.4	18.5	25.0	21.3	18.2
その他	4.1	2.9	2.6	4.6	-	4.1	-
相談できる人はない	6.8	1.4	2.6	6.2	-	3.3	9.1
誰にも相談したくない	14.9	12.9	11.8	16.9	-	11.5	27.3
無回答	2.7	-	1.3	-	25.0	0.8	4.5

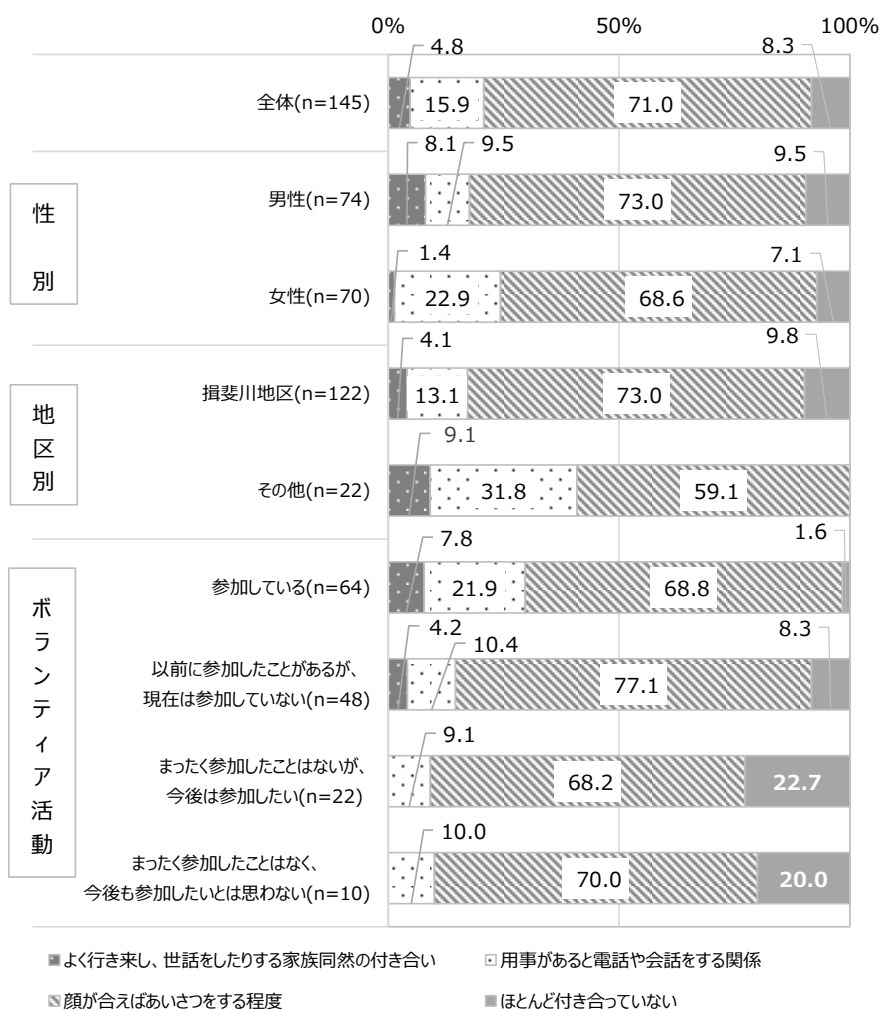
3 地域での生活について

(1) 近所づきあい

近所づきあいの程度については、「顔が合えばあいさつをする程度」が71.0%を占めています。

性別でみると、「よく行き来し、世話をしたりする家族同然の付き合い」「用事があると電話や会話をする関係」を合わせた比較的親密な付き合いをする割合が、男性（17.6%）よりも女性（24.3%）の方が高くなっています。地区別に見ると、同割合は、揖斐川地区（17.2%）に比べてその他の地区では、40.9%と高くなっています。ボランティア活動状況別では、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の＜ボランティア活動の経験がない＞と答えた人ほど「ほとんど付き合っていない」の回答割合が高い傾向にありました（図表2-12）。

図表2-12 近所づきあいの程度（性別・地区別・ボランティア活動）

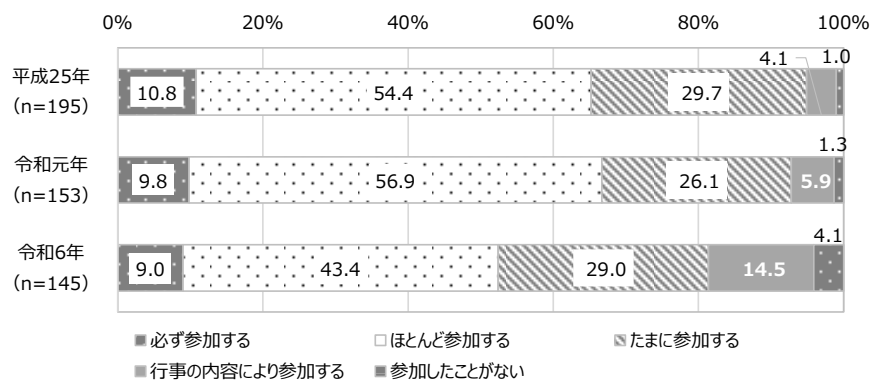


(2) 地域行事・地域活動の参加状況

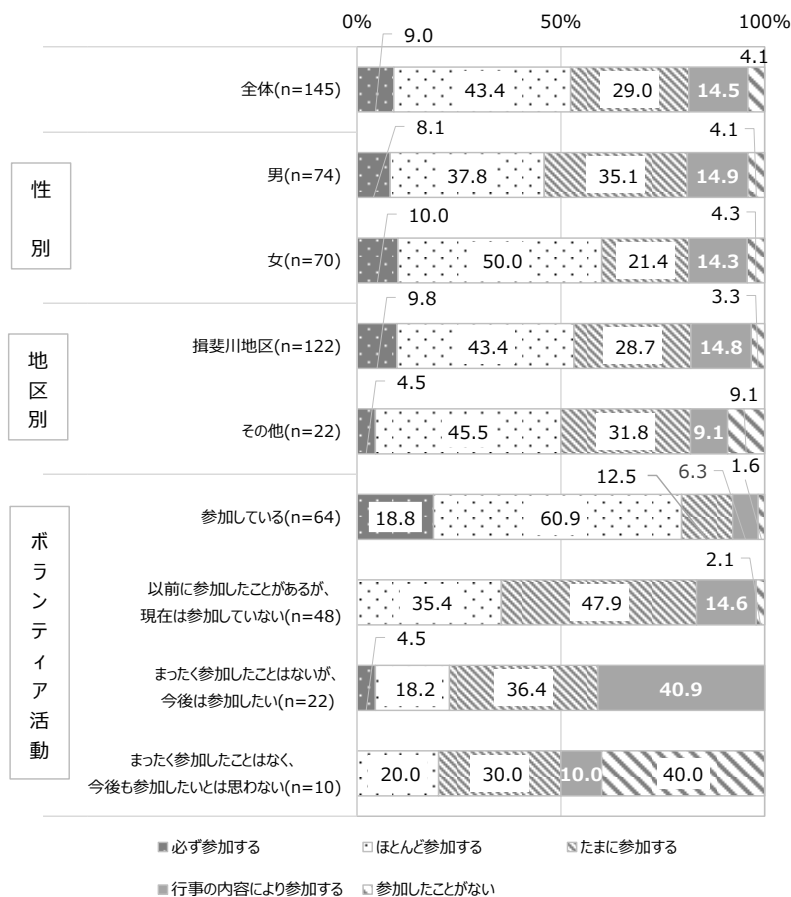
地域行事や地域活動については、「ほとんど参加する」が43.4%と最も高くなっています。これに「必ず参加する」を加えた＜参加する＞は52.4%、「たまに参加する」「行事の内容により参加する」を合計した＜一部参加＞は43.5%です。過去の調査に比べると、「必ず参加する」は低下傾向にあります（図表2-13）。

＜参加する＞が高いのは、性別では女性、地区別では揖斐川地区、ボランティアの活動状況別では「参加している」とした人です（図表2-14）。

図表2-13 地域行事・地域活動の参加状況の推移（平成25年、令和元年調査と比較）



図表2-14 地域行事・地域活動の参加状況（性別・地区別・ボランティア活動）



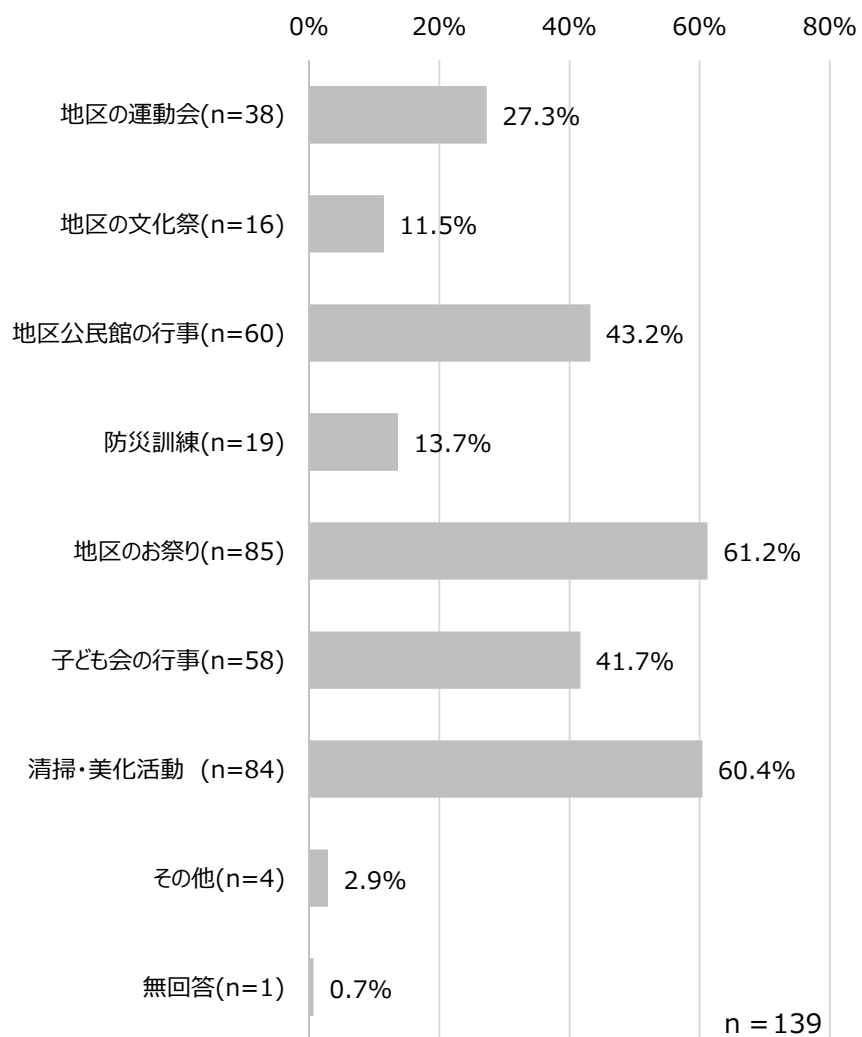
(3) 参加している地域行事

前項で「必ず参加する」「ほとんど参加する」「たまに参加する」「行事の内容により参加する」と答えた人に参加している地域行事をたずねたところ、「地区のお祭り」61.2%、「清掃・美化活動」60.4%が高い傾向にあります。「地区公民館の行事」「子ども会の行事」も40.0%以上となっています（図表 2 - 15）。

性別では、男性が「清掃・美化活動」（57.7%）、女性が「地区のお祭り」（67.2%）が最も高くなっています。女性に比べると男性は「地区の運動会」などが高くなっており、男性に比べると女性は「地区のお祭り」「地区公民館の行事」などが高くなっています。地区別、ボランティア活動状況別でも、「地区のお祭り」もしくは「清掃・美化活動」が最も高くなっています（図表 2 - 16）。

また、「その他」として、「水路に生息している生物を捕獲して調査、観察する」「MSJリーダーズ」（2人）がありました。

図表 2 - 15 地域行事の参加内容（複数回答）



図表 2 - 16 参加している地域行事（複数回答、性別・地区別・ボランティア活動別）

単位：nは人、他は%

区分	性別		地区別		ボランティア活動			
	男性	女性	揖斐川地区	その他	参加している	以前に参加したことがあるが、現在は参加していない	まったく参加したことはないが、今後は参加したい	まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない
n	71	67	118	20	63	47	22	6
地区の運動会	28.2	25.4	26.3	35.0	28.6	21.3	36.4	33.3
地区の文化祭	8.5	14.9	9.3	25.0	12.7	8.5	18.2	-
地区公民館の行事	36.6	49.3	42.4	50.0	49.2	44.7	27.3	33.3
防災訓練	14.1	13.4	12.7	20.0	12.7	21.3	4.5	-
地区のお祭り	54.9	67.2	62.7	55.0	71.4	57.4	40.9	50.0
子ども会の行事	39.4	43.3	44.1	30.0	47.6	38.3	36.4	16.7
清掃・美化活動	57.7	64.2	63.6	40.0	73.0	55.3	45.5	33.3
その他	5.6	-	2.5	5.0	3.2	2.1	4.5	-
無回答	1.4	-	-	5.0	-	-	-	16.7

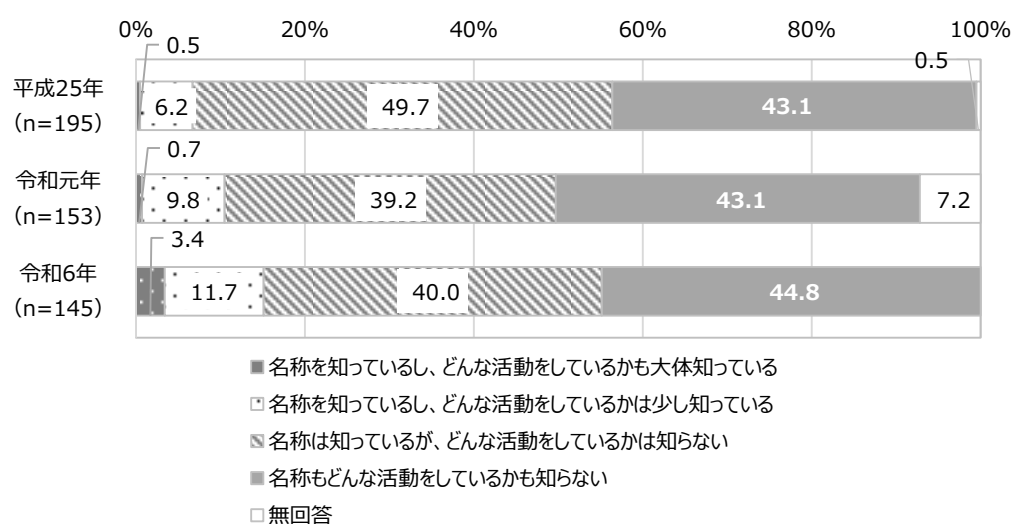
4 福祉教育などについて

(1) 社会福祉協議会の認知度

社会福祉協議会の認知度については、「名称もどんな活動をしているかも知らない」が44.8%と最も高くなっています。「名称を知っているし、どんな活動をしているかも大体知っている」「名称を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている」を合計した＜活動内容の認知度＞は15.1%です。これに「名称は知っているが、どんな活動をしているかは知らない」を加えた＜名称の認知度＞は55.1%です。

過去の調査に比べると、＜活動内容の認知度＞は高くなり、＜名称の認知度＞はほぼ同水準となっています（図表2-17）。

図表2-17 社会福祉協議会の認知度の推移（平成25、令和元年調査と比較）

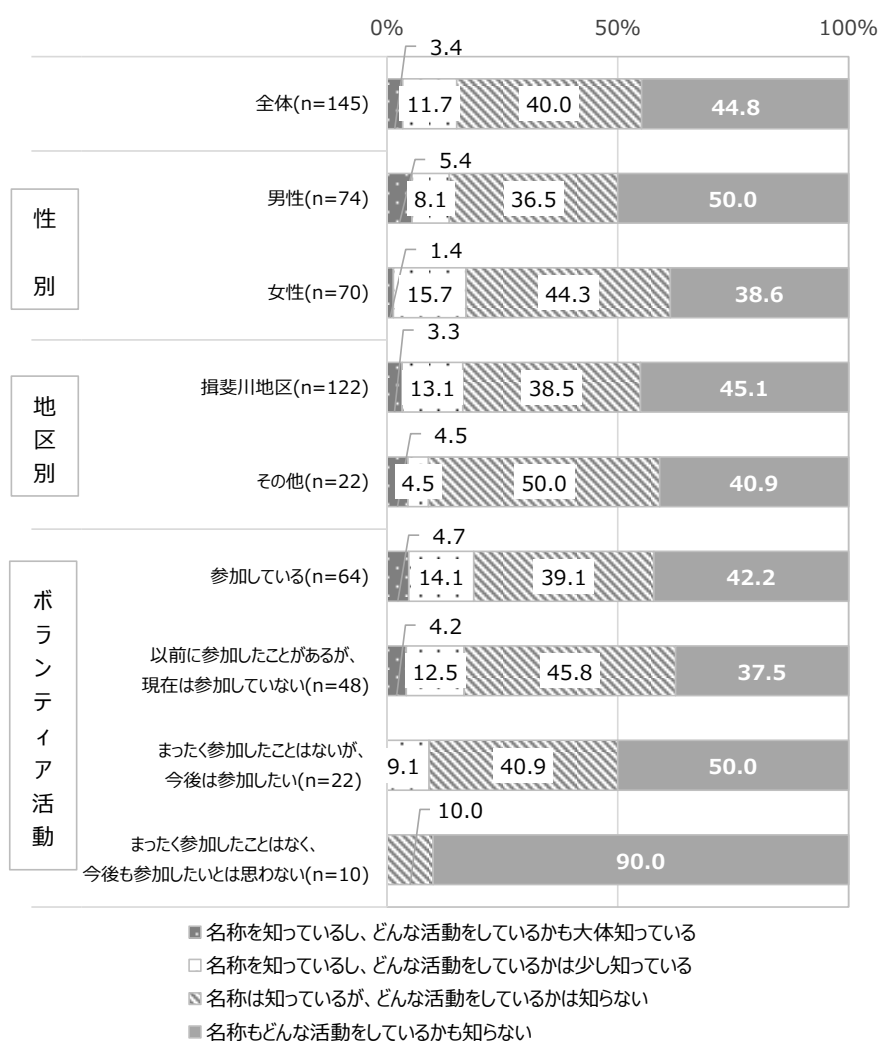


性別でみると、＜活動内容の認知度＞ ＜名称の認知度＞ともに、男性に比べて女性の方が高くなっています。

地区別でみると、＜活動内容の認知度＞は揖斐川地区が高くなり、＜名称の認知度＞はその他の地区で高くなっています。

ボランティアの活動状況別で、「参加している」もしくは「以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」の＜ボランティア活動の経験がある＞とした人の方が、＜活動内容の認知度＞も＜名称の認知度＞も高くなっています（図表 2－18）。

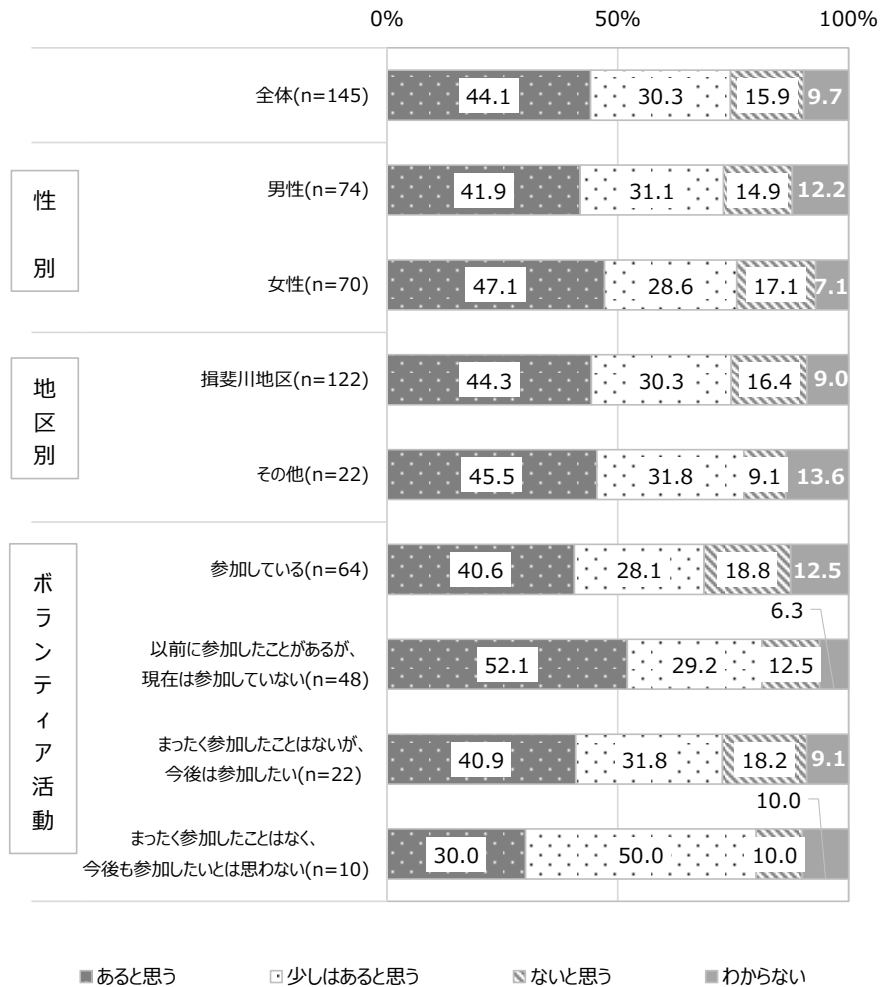
図表 2－18 社会福祉協議会の認知度（性別・地区別・ボランティア活動）



(2) 障がい者への差別や偏見

「あなたは、世の中には、障がいのある人に対して、差別や偏見があると思いますか」という設問に対しては、「あると思う」が44.1%と最も高くなっています。これに「少しはあると思う」を加えた＜あると思う＞は74.4%、「ないと思う」は15.9%という結果です（図表2－19）。

図表2－19 障がい者への差別や偏見はあると思うか（性別・地区別・ボランティア活動）



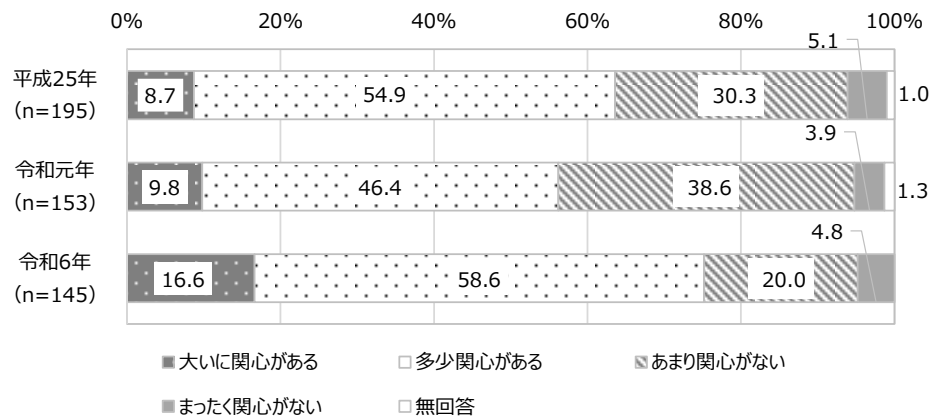
(3) 地域の助け合いや福祉への関心

地域の助け合いや福祉などへの関心については、「多少関心がある」が58.6%と最も高く、これに「大いに関心がある」を加えた＜関心がある＞は75.2%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合計した＜関心はない＞は24.8%となっています。

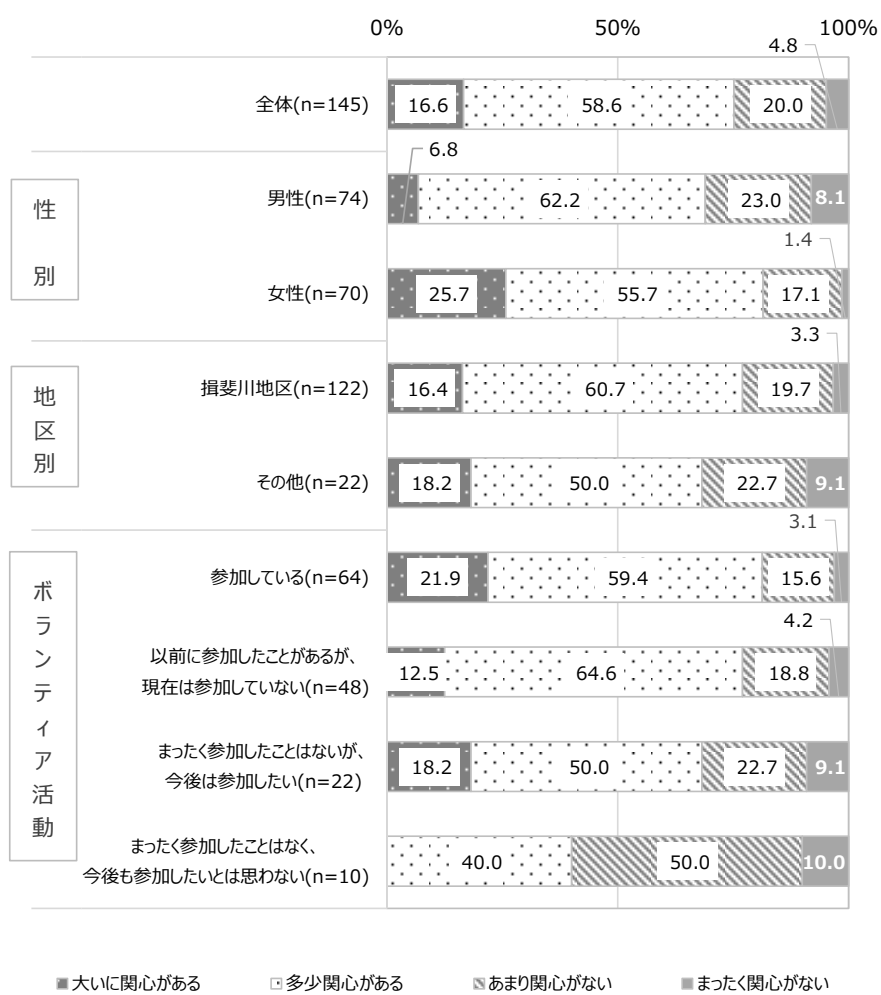
過去の調査と比べると、＜関心がある＞は平成25年、令和元年のいずれよりも高くなっています（図表2-20）。

性別でみると、＜関心がある＞は男性69.0%、女性81.4%となり、男性に比べると女性の関心度が高くなっています。ボランティアの活動状況別で、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」とした人は、＜関心はない＞が60.0%と高くなっています（図表2-21）。

図表2-20 地域の助け合いや福祉への関心の推移（平成25年、令和元年調査と比較）



図表 2 - 21 地域の助け合いや福祉への関心（性別・地区別・ボランティア活動）



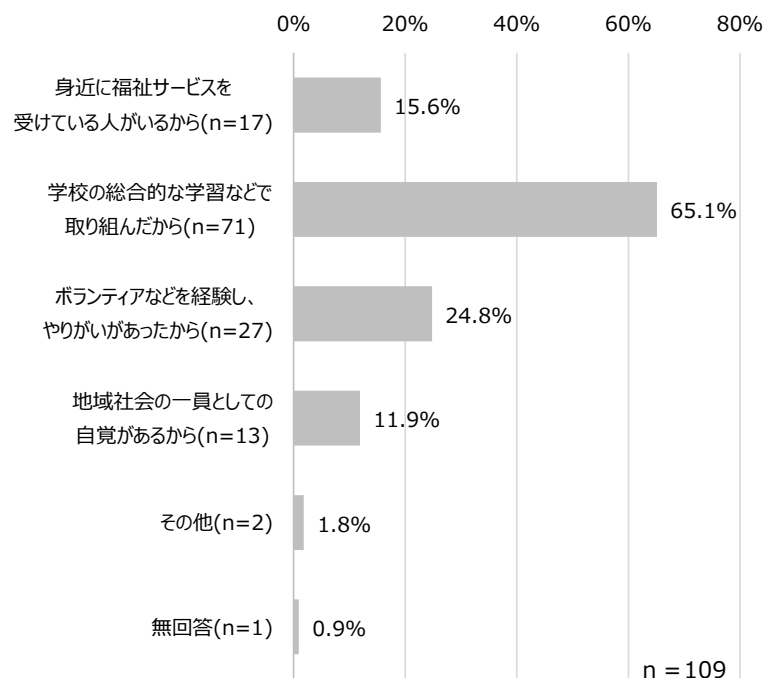
(4) 福祉に関心がある理由

前項で福祉に＜関心がある＞と回答した人に、関心がある理由をたずねたところ、「学校の総合的な学習などで取り組んだから」が65.1%と最も高くなっています（図表2－22）。

性別、地区別、ボランティアの活動状況別にみても、「学校の総合的な学習などで取り組んだから」が最も高くなっています（図表2－23）。

また、「その他」として、「困っている人を助けたいという気持ちがあるから」「福祉関係の習い事をしているから」が挙げられました。

図表2－22 福祉に関心がある理由（複数回答）



図表 2 - 23 福祉に関心がある理由（複数回答、性別・地区別・ボランティア活動）

単位：nは人、他は%

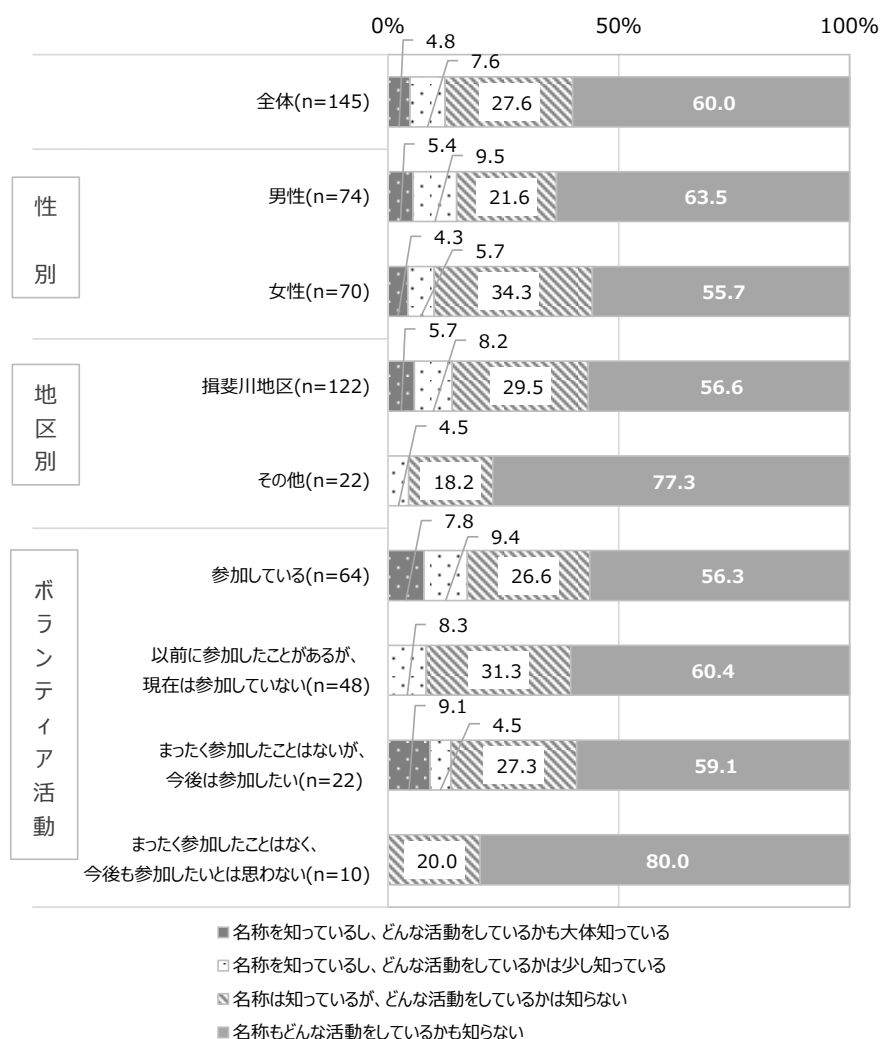
区分	性別		地区別		ボランティア活動			
	男性	女性	揖斐川地区	その他	参加している	以前に参加したことがあるが、現在は参加していない	まったく参加したことはないが、今後は参加したい	まったく参加したことはなく、今後参加したいとは思わない
n	51	57	94	15	52	37	15	4
身近に福祉サービスを受けている人がいるから	13.7	17.5	13.8	26.7	17.3	8.1	26.7	-
学校の総合的な学習などで取り組んだから	66.7	63.2	64.9	66.7	59.6	73.0	66.7	75.0
ボランティアなどを経験し、やりがいがあったから	21.6	28.1	25.5	20.0	34.6	18.9	13.3	-
地域社会の一員としての自覚があるから	7.8	15.8	10.6	20.0	11.5	8.1	20.0	25.0
その他	-	3.5	2.1	-	-	5.4	-	-
無回答	2.0	-	1.1	-	1.9	-	-	-

(5) 「おたすけサポーターはなもも」の認知度

揖斐川町には暮らしの中のちょっとした困りごとをお手伝いする生活支援サービス「おたすけサポーターはなもも」があります。この「おたすけサポーターはなもも」を知っているかをたずねたところ、「名称もどんな活動をしているかも知らない」が60.0%を占めています。「名称を知っているし、どんな活動をしているかも知ない」が4.8%、「名称を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている（7.6%）」、「名称を知っているし、どんな活動をしているかは少し知っている（7.6%）」を合わせた＜活動内容の認知度＞は、12.4%にとどまっています。これに「名称は知っているが、どんな活動をしているかは知らない（27.6%）」を加えた＜名称の認知度＞は、40.0%となっています。

＜活動の認知度＞が高いのは、性別では男性、地区別では揖斐川地区、ボランティアの活動状況別では「参加している」とした人となり、＜名称の認知度＞が高いのは、性別では女性、地区別では揖斐川地区、ボランティアの活動状況別では「参加している」とした人です（図表2-24）。

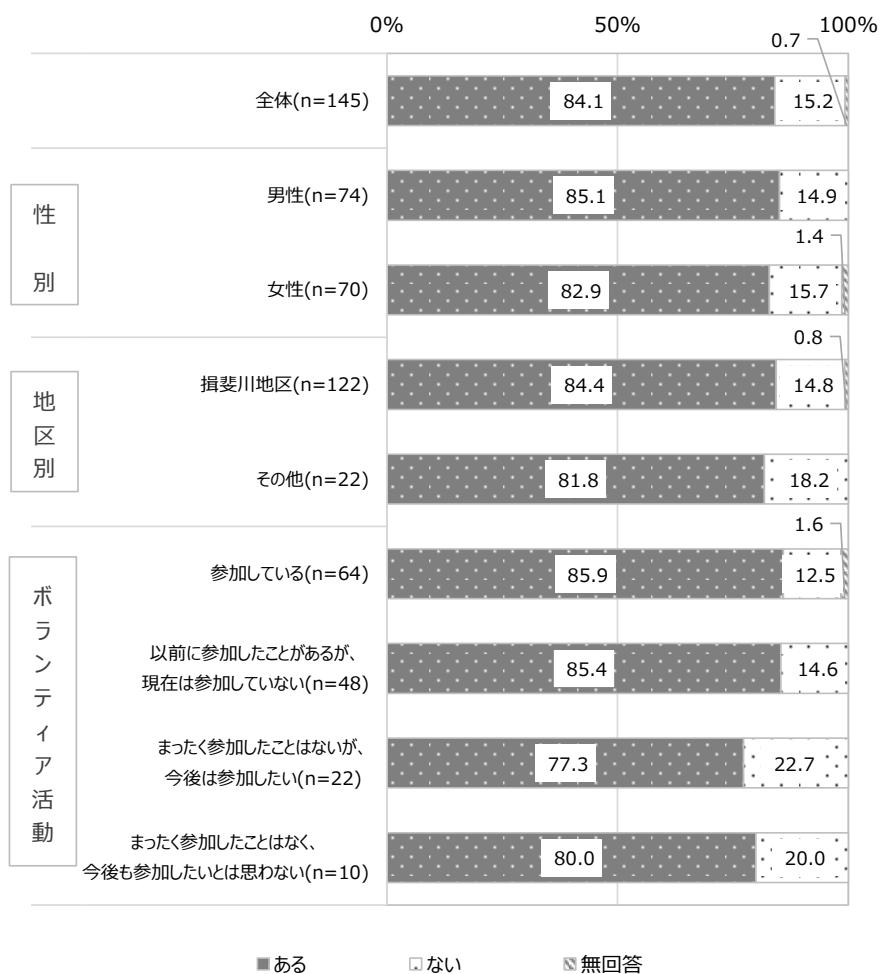
図表2-24 「おたすけサポーターはなもも」の認知度（性別・地区別・ボランティア活動）



(6) 福祉について学んだことはあるか

これまで福祉について学んだことがあるかたずねたところ、84.1%が「ある」と答えています。「ある」が高いのは、性別では男性、地区別では揖斐川地区、ボランティアの活動状況別では「参加している」とした人です（図表2-25）。

図表2-25 福祉について学んだことはあるか（性別・地区別・ボランティア活動）



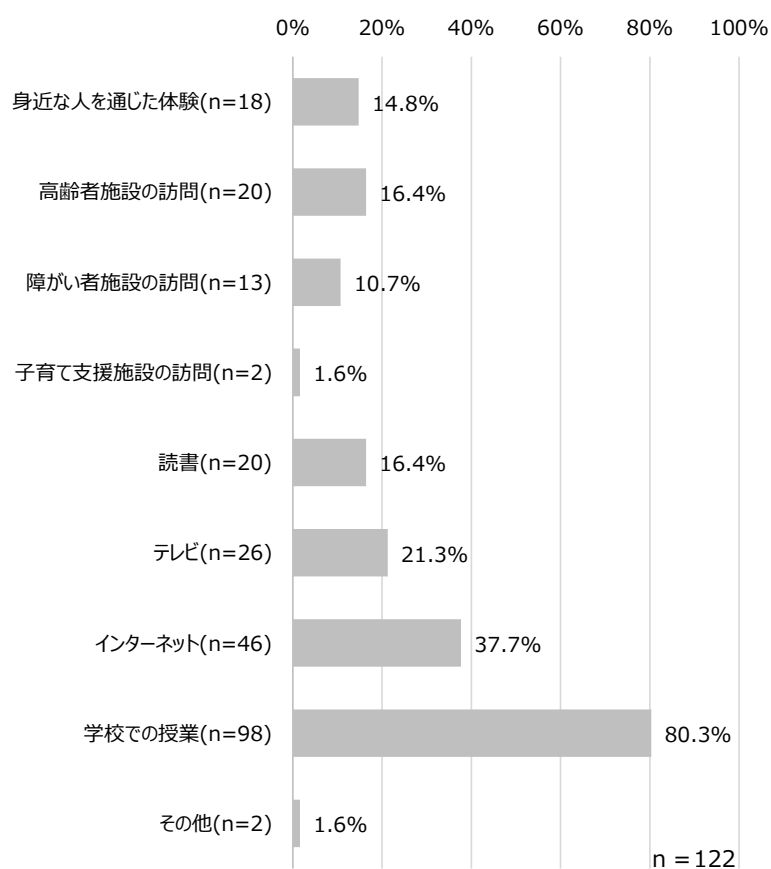
(7) どのように福祉を学んだか

前項で「ある」と回答した人に、どのように福祉を学んだかをたずねたところ、「学校での授業」が80.3%と最も高く、次いで「インターネット」「テレビ」の順となっています（図表2-26）。

性別、地区別、ボランティアの活動状況別でも、いずれも「学校での授業」が最も高くなっています（図表2-27）。

また、「その他」として、「家族に話を聞いた」「視覚障がい者」がありました。

図表2-26 どのように福祉を学んだか（複数回答）



図表 2 - 27 どのように福祉を学んだか（複数回答、性別・地区別・ボランティア活動）

単位：nは人、他は%

区分	性別		地区別		ボランティア活動			
	男性	女性	揖斐川地区	その他	参加している	以前に参加したことがあるが、現在は参加していない	まったく参加したことはないが、今後は参加したい	まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない
n	63	58	103	18	55	41	17	8
身近な人を通じた体験	12.7	17.2	17.5	-	21.8	12.2	5.9	-
高齢者施設の訪問	15.9	17.2	16.5	16.7	21.8	17.1	5.9	-
障がい者施設の訪問	9.5	12.1	10.7	5.6	9.1	4.9	29.4	12.5
子育て支援施設の訪問	1.6	1.7	1.9	-	-	-	5.9	12.5
読書	4.8	29.3	16.5	16.7	20.0	14.6	17.6	-
テレビ	17.5	25.9	21.4	22.2	29.1	19.5	11.8	-
インターネット	30.2	46.6	40.8	22.2	41.8	39.0	41.2	-
学校での授業	76.2	84.5	79.6	88.9	83.6	75.6	76.5	87.5
その他	1.6	1.7	1.9	-	3.6	-	-	-

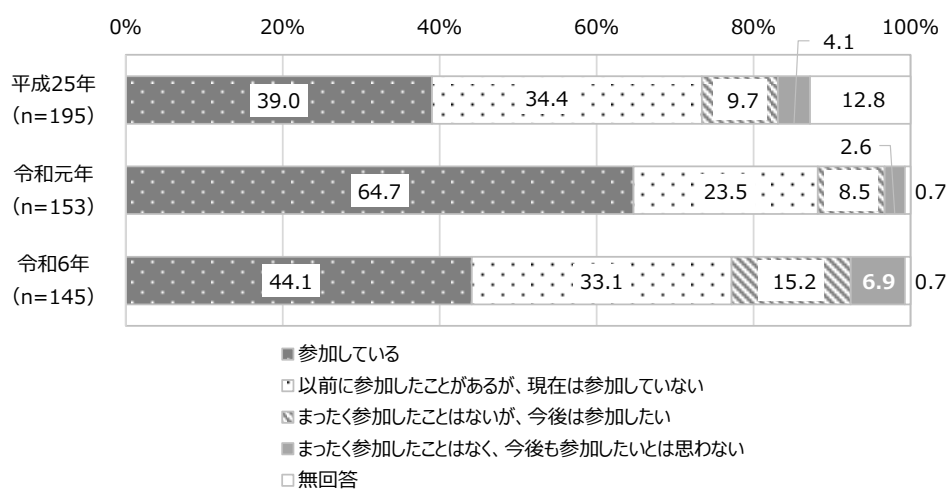
5 ボランティア活動について

(1) ボランティア活動の参加状況

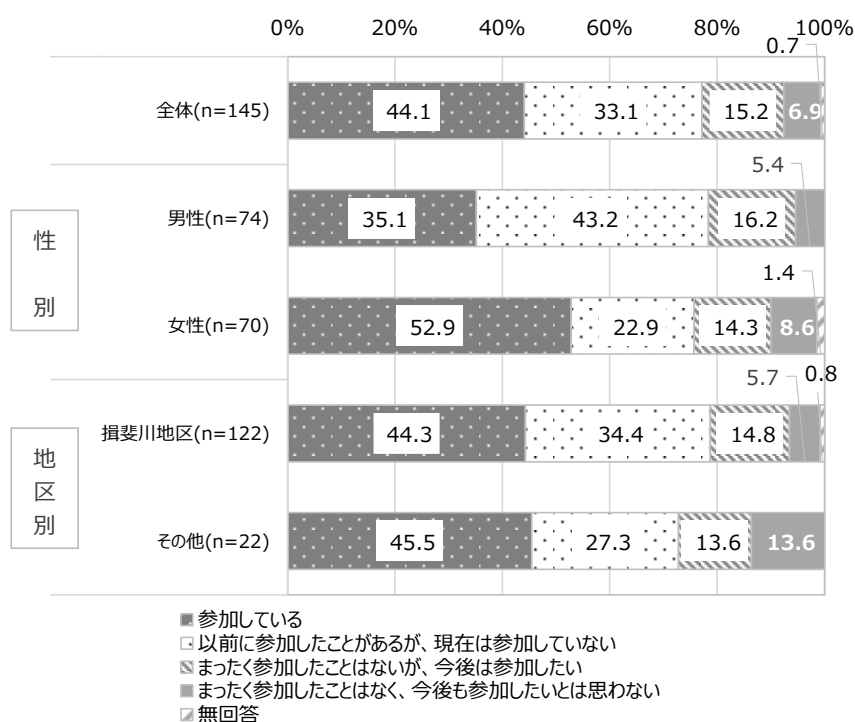
ボランティア活動については、44.1%が「参加している」と回答しています。過去の調査と比べると、令和元年から「参加している」が大幅に低下しています。（図表2－28）。

「参加している」は、性別では女性（52.9%）が男性（35.1%）よりも17.8ポイント高くなっています（図表2－29）。

図表2－28 ボランティア活動の参加状況の推移（平成25年、令和元年調査と比較）



図表2－29 ボランティア活動の参加状況の推移（性別・地区別）

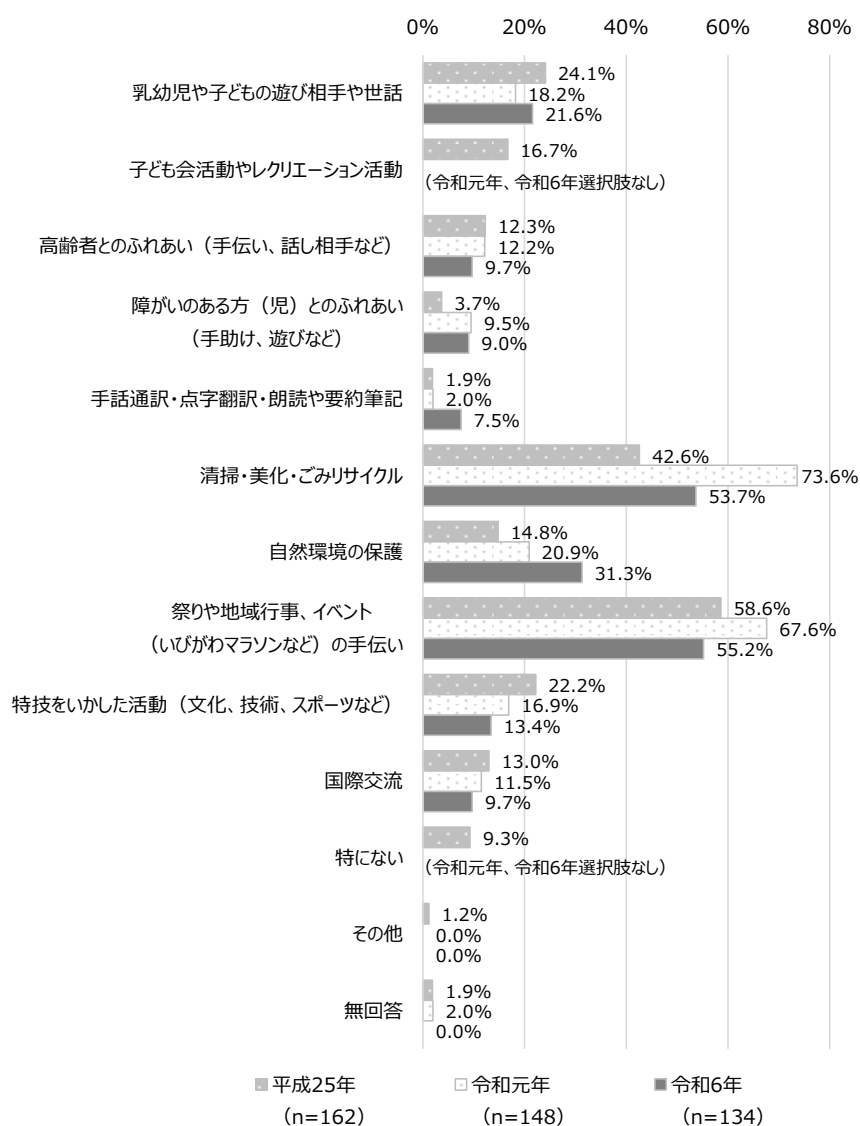


(2) 今後参加したいボランティア活動

前項で「参加している」「以前に参加したことがあるが、現在は参加していない」「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」と回答した人に、今後どのようなボランティア活動に参加したいかたずねたところ、「祭りや地域行事、イベント（いびがわマラソンなど）の手伝い」（55.2%）、「清掃・美化・ごみリサイクル」（53.7%）の割合が、他項目と比べて高くなっています。

過去の調査と比べると、令和元年調査から「清掃・美化・ごみリサイクル」「祭りや地域行事、イベント（いびがわマラソンなど）の手伝い」が大幅に減少したものの、「自然環境の保護」「手話通訳・点字翻訳・朗読や要約筆記」「乳幼児や子どもの遊び相手や世話」は増加しています。また、選択肢が変わっているため単純には比較できませんが、特に、「自然環境の保護」に関しては、平成25年調査から大幅に増加しています（図表2-30）。

図表2-30 今後参加したいボランティア活動（複数回答、平成25年、令和元年調査と比較）



性別でみると、男性は「清掃・美化・ごみリサイクル」が最も高く、女性は「祭りや地域行事、イベント（いびがわマラソンなど）の手伝い」が最も高くなっています。男性は女性に比べて「清掃・美化・ごみリサイクル」が15.4ポイント高く、女性は男性に比べて「祭りや地域行事、イベントの手伝い」「手話通訳・点字翻訳・朗読や要約筆記」「障がいのある方（児）とのふれあい（手助け、遊びなど）」が10ポイント以上高くなっています。

地区別・ボランティアの活動状況別でみると、順位の入れ替わりはあるものの「祭りや地域行事、イベントの手伝い」「清掃・美化・ごみリサイクル」が上位2項目となっています。なお、地区別の「その他」の地区では、「祭りや地域行事、イベントの手伝い」と「自然環境の保護」が52.6%で2番目に高くなっています。（図表2-31）。

図表2-31 今後参加したいボランティア活動（複数回答、性別・地区別・ボランティア活動）

単位：nは人、他は%

区分	性別		地区別		ボランティア活動		
	男性	女性	揖斐川地区	その他	参加している	以前に参加したことがあるが、現在は参加していない	まったく参加したことはないが、今後は参加したい
n	70	63	114	19	64	48	22
乳幼児や子どもの遊び相手や世話	17.1	27.0	20.2	31.6	17.2	25.0	27.3
高齢者とのふれあい（手伝い、話し相手など）	7.1	12.7	11.4	-	9.4	10.4	9.1
障がいのある方（児）とのふれあい（手助け、遊びなど）	4.3	14.3	9.6	5.3	10.9	4.2	13.6
手話通訳・点字翻訳・朗読や要約筆記	1.4	14.3	7.0	10.5	9.4	6.3	4.5
清掃・美化・ごみリサイクル	61.4	46.0	50.9	68.4	57.8	52.1	45.5
自然環境の保護	34.3	28.6	28.1	52.6	37.5	25.0	27.3
祭りや地域行事、イベント（いびがわマラソンなど）の手伝い	47.1	63.5	56.1	52.6	68.8	43.8	40.9
特技をいかした活動（文化、技術、スポーツなど）	15.7	11.1	15.8	-	14.1	14.6	9.1
国際交流	7.1	12.7	9.6	10.5	12.5	4.2	13.6
その他	-	-	-	-	-	-	-

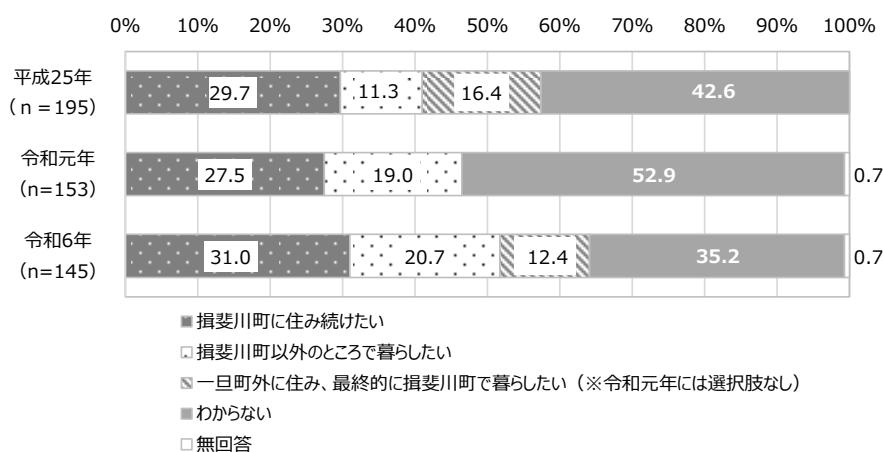
6 これからの揖斐川町について

(1) 将来も揖斐川町に住み続けたいか

将来も揖斐川町に住み続けたいかたずねたところ、「わからない」が最も多くなっています。次いで、「揖斐川町に住み続けたい」が31.0%、「揖斐川町以外のところで暮らしたい」が20.7%と続きます。過去の調査と比べると、選択肢が変わっているのも単純には比較できませんが、「わからない」が減り、「揖斐川町以外のところで暮らしたい」が増加傾向にあります（図表2-32）。

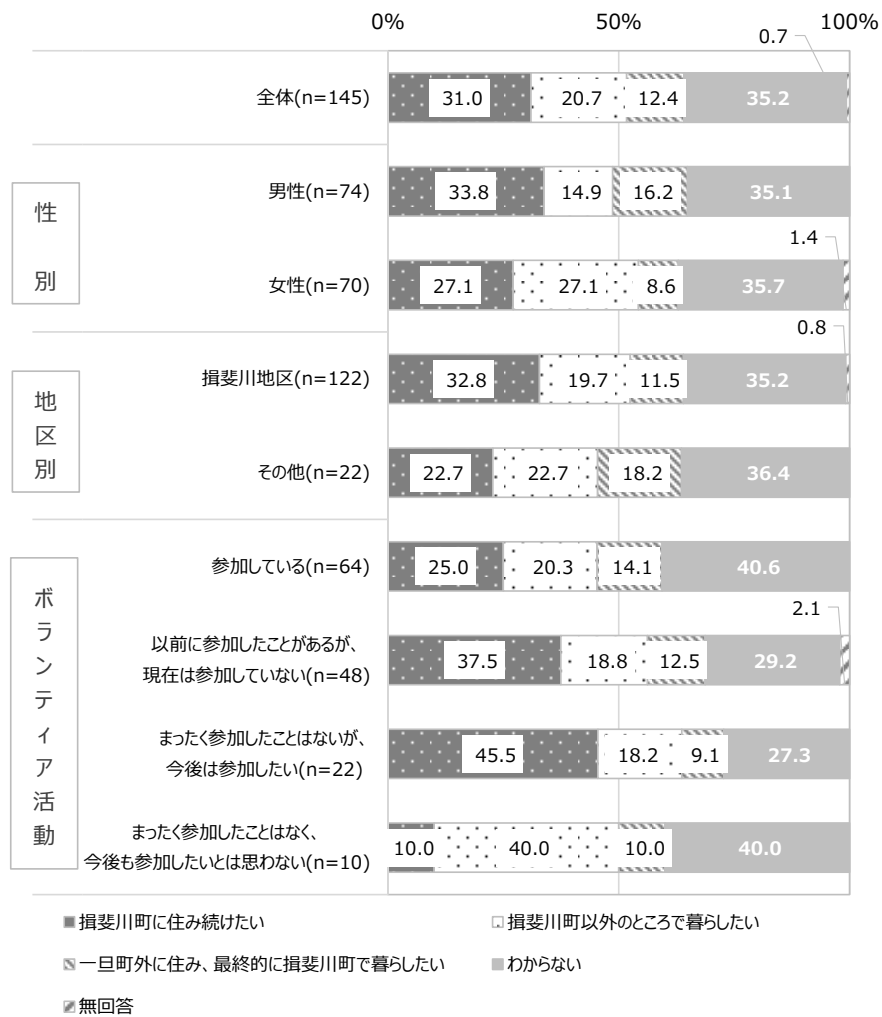
「揖斐川町に住み続けたい」が高いのは、性別では男性、地区別では揖斐川地区、ボランティアの活動状況別では「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」です。一方で、「揖斐川町以外のところで暮らしたい」が高いのは、性別では女性、地区別ではその他の地区、ボランティアの活動状況別では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」とした人です（図表2-33）。

図表2-32 将来も揖斐川町に住み続けたいか（平成25年、令和元年調査と比較）



（注）図表2-32の平成25年調査時は、選択肢の一つが「揖斐川町以外で暮らしたいが、いずれ揖斐川町に戻りたい」となっていたが、今回の調査では「一旦町外に住み、最終的に揖斐川町で暮らしたい」として集計しています。

図表 2 - 33 将来も揖斐川町に住み続けたいか（性別・地区別・ボランティア活動）



(2) 揖斐川町以外の場所で暮らしたい理由

図表 2 - 34は、前項で「揖斐川町以外のところで暮らしたい」と回答した人にその理由をたずねた結果です。

図表 2 - 34 揖斐川町以外の場所で暮らしたい理由（その他）

・ 推しが東京に住んでいるのと、イベントの場所が東京にあるから。 ・ どこかに行くのも時間がかかって不便だから ・ 海があったり海の魚をたくさん食べたいから ・ 東京とか、名古屋に住んでいる人は、欲しいものをすぐに、買えるけど、谷汲は、田舎だから、欲しい物すぐには買えないから ・ 揖斐は色々不便だし、わざわざ住み続ける良さが無い。揖斐の特徴も揖斐にあるけど必要では無い ・ 他の場所でも暮らしてみたいから ・ 自分のやりたいことがあるから ・ 色んな所の魅力を知りたいから ・ 慣れていないところに住みたいから ・ 将来の夢を叶えるため	・ ちかくなにもないから ・ 都会に行ってみたい ・ お店が遠くて不便 ・ 働きに行きたいところが県外だから ・ もっと冒険したい ・ 暑いから、交通の便が良くないから ・ 将来の夢のため ・ 揖斐川町はどこへ行くにも遠いから ・ 都会がいいから ・ 仕事しやすい環境がいいから ・ とてもいい場所なのだが、地域の人と関係が崩れており生活できるか心配だから ・ 発達していないから ・ 娯楽がない
---	--

(3) 揖斐川町の好きなところ

図表 2 - 35・図表 2 - 36は、揖斐川町の好きなところ、変わったらいいと思うところについて、思いつくことを自由記載で回答してもらった結果です。

図表 2 - 35 揖斐川町の好きなところ

・ 自然が豊か（自然がきれい、空気がきれい、山や川がきれいなど）（85人） ・ 人が優しい、良い人が多い（12人） ・ 治安が良い（事件・事故がない、犯罪が少ないなど）（5人） ・ 地域行事がある（いびがわマラソン、ありがとう花火、揖斐祭りなど）（6人） ・ 暮らしやすい、住みやすい（4人） ・ コンビニが近い（2人） ・ 田舎 ・ 公園がある、周りの人と仲良くすることができる、少し賑やかなところ、そこそこ自由に自転車でいろんなところに行けること ・ お祭りのときにたくさんのお客さんが来てくれる。 ・ 谷汲山華厳寺や横蔵寺がある ・ 横断歩道で信号がなくても止まってくれるところ ・ 会う人の多くが挨拶をしたらおじぎをしたり、挨拶を返してくれ、無視をしない ・ 静かなところ	・ ゴミがあまり落ちていないところ ・ イベントに誰でも参加できる。自然豊か、虫がたくさんいる、水がきれい、魚がおいしい、積極的にボランティアに参加する人が多い、誰にでも優しく接する人が多い、自ら挨拶をしてくださる人がいる、食べ物が多い ・ 静かで、挨拶ができていくところ ・ 仲が良いところ ・ ボランティア活動に多くの人が参加するなど温かみのある町だと思う ・ 食べ物おいしい ・ 子育てしやすい ・ 近くにコンビニがある ・ 給食費を負担してくれるところ ・ あまりお金を取る印象がなく、家族の人が家計にやさしいと感じているところ ・ みんなと楽しく遊んで楽しいなと思いました ・ 地域の人と仲良くできるところ ・ 楽 ・ 全部
--	--

図表 2 - 36 揖斐川町の変わつたらいいと思うところ

・コンビニやスーパーを増やしてほしい（7人） ・飲食店を増やしてほしい（飲食店が少ない）（5人） ・ショッピングモールがほしい（2人） ・お店を増やしてほしい（お店が少ない）（10人） ・交通機関の充実（3人） ・公園を増やしてほしい（公園に遊具を増やしてほしい、公園が少ないなど）（3人） ・虫の量（虫が多い）（2人） ・ゴミをきれいにしたい（ゴミが落ちている、ポイ捨てがあるなど）（8人） ・遊ぶ場所を増やしてほしい（遊べる場所が少ない）（5人） ・人の少なさ ・バイクがうるさい ・住んでいる人（特に子供）の人数が増えてほしい ・急カーブの先に横断歩道がある所があるから、危険がないようになったらいいと思います ・お店がもっと増えてお客さんが行きたい！と思うようなところを作る。行事をもっと増やす ・色々な建物などを作ってほしい ・揖斐郡が揖斐市？か揖斐川市？みたいに都市化したらいいな。交通も、高速道路で来たらいかな ・横断歩道で信号がなくても止まってくれるところ ・飲食店や生活において必要なお店が全然ない。だから外食するときにかに困るしわざわざ本を買うのに遠くまで行かないといけない ・街灯をつけてほしい ・もう少し外で遊べるところが欲しい、友達と触れ合える場所が欲しい、もう少し交通を安全にしてほしい ・文房具が買える本屋 ・横断歩道を渡る子供のことを確認せずにすごいスピードで車を走らせている人がいる	・どんな人でも生活しやすい街がいいと思う ・ゴミが多いし、こうゆうアンケートが多い。あと目立っていないところ ・もっと観光者が来てほしい ・もっと楽しい行事を増やしてほしい ・挨拶をしないで素通りをすることが多いので、挨拶を当たり前にする町になった方がいいと思いました ・子供が少ない ・自動販売機の設置を増やしてほしい ・川の周りに草がいっぱい生えている ・自然しかないところ ・娯楽施設が欲しい ・ずっと今のままであること ・各学校の体育館にエアコンをつけること ・病院や大きなショッピングモールがないこと ・全ての体育館にエアコン ・揖斐川町を発展できるようにお金を回してほしい・・・学校とか、子供から大人が楽しめるショッピングモールとか作ってもっとより良い揖斐川町を築いてほしい ・お金を学校とかに使ってほしい ・もっとお金を大事にして、本当に必要なものを買ってほしい。 ・大型施設が少ない ・公園以外の遊び場つくる ・過疎化の改善 ・市民プールが欲しい ・でも、かわのちかくに、ゴミがおちているから川をきれいにしたほうがいいなと思いました
---	---

第3章 意見・要望

1 一般調査

1 地域福祉全般について

- 昼、夜の配食サービスの充実。又は、事前予約で安否確認込みの日用品、食品を自宅まで届けてくれるサービス（男性 50歳代 谷汲地区）
- 福祉に関しては、最低限必要であり今後も継続して深化して欲しい。住民にとってどんな町が住みやすいか本音を掘り出して欲しい。何故ならば、小手先の政策では人口減少が止められない。流失を防ぐには、何故転出するかを知る必要がある。大事なことは人と向き合って痒いところに手が届く政策を立案することだと感じる。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 地区により、福祉サービスが異なることのないようにして欲しい。山林が多い地区なので、林業の担い手を養成していけるといい。（女性 60歳代 谷汲地区）
- ①医師確保（町内の）。②定住者を増やす。若者の移住防ぐ・他県からの移住増やす。人口の増加。③農業支援。地場産業支援、保持。④税金の使い方。建物の建造から福祉関係増やす。ふるさと納税の充実。⑤観光、自然を活かした設備で税金負担。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 心のない福祉では意味が無いと思いますが、心を育てることはむづかしいことです。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 町民からの要望は多種多様かと思います。揖斐川町に限らず、人口が減りゆく昨今において、ボランティアや社会福祉協議会でできる事も限りがあると思います。要望に対して優先度をつけて対応していくことが重要かと思います。（男性 40歳代 揖斐川地区）
- 子供、高齢者の支援は充実していると思う。働いている20代から60才位の支援がまったくなく、町外に出て行く人が多くなっていると思います。（女性 50歳代 揖斐川地区）

2 満足している点について

- 揖斐川町はとても住みやすい町だと思います。50歳以上でも出来るスポーツ（ソフトバレー、卓球等）が毎週どこかであれば行きたいです。温水プールがあったら最高なんですけどね。町内で毎朝ラジオ体操で集まる地域にすれば、みんな元気な年寄りが増えるのかも。私はぜひあれば参加したいです（将来の夢）。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- 自然豊かで水がおいしい、人が優しい。子育て支援では、園・支援センター、医療費無料、給食費無料、大変お世話になりました。（女性 40歳代 揖斐川地区）

- 身内より地区のご近所さん。区長さんを始め、福祉委員さん、民営委員さんが近況や困り事の有無を調査して下さい、「何事も相談して下さい」と折にふれ声を掛けて下さっていて、心強く感じ生活しています。何かとお世話をお掛けする事になりますが、よろしくお願いいたします。（女性 70歳代 谷汲地区）
- 私は病院や買物に、息子が障害者のため岐阜市まで出掛けます。自動車もないし役場のオンデマンドバスを利用させてもらっています。本当に私らみたいな山間部で交通の便のない所で暮らす者にとって本当に命の綱と言っていい程感謝しています。これからよろしくお願いいたします。（女性 70歳代 坂内地区）
- 良い町だと思います。これからもよろしくお願いいたします。（女性 60歳代 揖斐川地区）

3 交通手段や外出について

(1) 運転免許の自主返納について

- 車社会なので、免許返納者に対するケアを充実しないと移動手段がない（男性 40歳代 揖斐川地区）
- 今は70代で車で買物に行けるが、あと5～6年したら免許証返納した場合どうする？年金生活でタクシー、バス代が…、生活できていくものですかね？独居老人の方はどうしてみえるのですか？（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 高齢が進み免許証返納した時、西濃厚生病院迄の交通の利便性を強く希望します。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 極めて高年齢の方が軽四トラックを運転したり、自転車で移動されたりしている。周囲の方で注意する人や、場合によっては強制的にやめるよう説得できる人が居ない為、このような事態が頻繁に見受けられるのだと思う。「田舎だから…」という言葉では片付けられない問題だと思料する。行政は環境改善を図ると同時に、「自制」を呼びかけ、超高齢者の免許の返納を促進すべきである。（男性 60歳代 揖斐川地区）

(2) 高齢者の移動支援について

- 揖斐川町は車がないと生活できません。高齢になり車に乗れなくなったり身体が不自由になった時の事を考えると不安しかありません。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 高齢者が多くこれからも増えていくと思われるので、高齢者が安心して暮らせる街作りを宜しく願います。買い物に行けるところが近くにないとか、車がないと不便なので車が乗れなくなる将来が不安です。（その他または回答しない 50歳代 揖斐川地区）

- 定期バスも無くなり、車を運転する事のできなくなった年寄りの人はどうすればいいのですか？タクシー代も高いし、病院も無くなり、この先の事を考えると不安ばかりです。子供達も近くにはいないので買い物にも行けない。年寄り生きていけないです。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 車がないと不便な環境で、バスの利用も予約がいたり、時間によっては全くないなど、高齢者が住みにくい町になってきたと感じる。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- マイカーの移動しかなく不便（乗れなくなった時の不安）。移動販売車はたいへん有効です。通学路の防犯カメラの増設。高齢者等にやさしい町づくり（医療機関の充実、お買物）。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 今は買物など自家用車で自分で行けます。でもこれから年をとりスーパーなど行こうとしても、歩いて行ける所にスーパー、コンビニがありません。今一番の心配です。病院などは1カ月に1回とかなので、もし急に悪くなってもタクシーなどお願いできるけど、食べる物はそんなに買いダメできません。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 高齢者にはちょっとした移動手段が必要だと思うので、今よりもっと気軽に移動を依頼できて安く乗せてもらえるシステムがあればと思います。（女性 60歳代 久瀬地区）
- 自分が車が使える内は良い町ですが、自分で運転できなくなったら住みやすい（買い物、医療その他）の近くに住みたいです。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 将来的に問32（※やがて自分で運転できない時が来るんですが、現在のデマンドタクシーが揖斐川町以外の町に行ってもらえるよう要請した時可能であるなら嬉しい。例えば大野町の医院や池田町、神戸町の医院へ…希望！！）の意見を検討していただけるなら嬉しく思います。（男性 70歳代 谷汲地区）

(3) バスについて

- ふれあいバスについて。西濃厚生病院の面会時間は13：00～なのですが、家族が入院したため13：00ぐらいに着いて最終の14：00で帰ってきたかったのですが、バスは揖斐から出発するのに回送で利用できないのはどうしてですか？（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 交通手段が少ない。もう少しバスの本数を増やして欲しい。バスの予約もなかなかとれないと聞きます。（女性 60歳代 谷汲地区）
- 西濃厚生病院に行くバスに役場に回っていただく事はできないでしょうか。役場までシニアカー等で行けば、帰りの足を心配しないですみます。揖斐駅では駐車場がいっぱいで止めておく所がありません。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 路線バスの時間増やしてもらいたい。（女性 60歳代 揖斐川地区）

○バスの利用環境が全く不便であるため、利用しない人が多数と思われる。もっと手軽に利用できる案を考えてほしい。役場にバスが何台も止まっているのは、利用する人が少ないのでは。又は、利用しにくくて利用してないのではないか。（女性 60歳代 揖斐川地区）

○コミティーバスが1時間1本ずつだしてほしい。（女性 70歳代 揖斐川地区）

○町のバスをもっと利用しやすくなると良いと思います。（女性 70歳代 揖斐川地区）

(4) デマンドバスについて

○はなももバスは、非常に使いづらい。いざ、利用したい時に、電話するもすでにいっぱい、ダメと過去何度も利用出来なかった。2.3日前に、電話してもダメで何にもならない。（女性 60歳代 揖斐川地区）

○はなももバスとても良いと思うけど、なんせ、思ったより待ち時間があつたりと思ったように利用できない。2時間も3時間も待たないと乗れないのはどうかと思う。（女性 40歳代 揖斐川地区）

○はなももデマンドバスについて、町内同一料金の現状ではなく、乗車距離により支払う方が良いと思う。又、町内に限らず、最大距離を決めて、隣接する町までは行ける様にしてほしい。高齢者の免許返納も進み、交通手段も減ると思うし、と閉じこもりも防止されると思う。（女性 70歳代 揖斐川地区）

○ふれあいバスやはなももバスの停留所が家から遠い。高齢者になり、足に不安が有り。自宅までの送迎にほしい。集合場所以外（自宅）は割り高の料金になってもかまわないと思う。停留所は、各集合場所、自宅からの集合場所の2種類（料金は違う）あったらいいと思います。（男性 70歳代 揖斐川地区）

○デマンドバスが高すぎます。1000円にしてほしい。効率も悪く、西濃厚生病院や大野町のスーパーへ行くにも便利がよくない。（女性 50歳代 揖斐川地区）

○交通のインフラはどんどん悪くなっていると思うので、せめてはなももバスは、土、日の一方はあった方が良くと思います。（男性 30歳代 揖斐川地区）

(5) 通学について

○子どもがいる家庭としては高校に入った時の交通手段、公共交通機関を利用した際の補助などなどをもっと進めてほしい。やはり車が乗れるうちはいいが車に乗れなくなった時に生活が不自由に感じると思う。（男性 40歳代 谷汲地区）

○学生が通うのに必要な養老鉄道は、これからも継続してほしい。（女性 50歳代 揖斐川地区）

(6) 公共交通機関の充実について

○交通機関の利便性（男性 60歳代 揖斐川地区）

- 西濃厚生病院への移動手段のより充実をお願い致します。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 高齢者が病院に行くまで、スーパーに行くまでを1人でできない環境。車に乗れないと移動出来る距離に何も無い。その為家族の負担も増える。少子高齢化がひどく、昔と比べて店もつぶれる一方で、活気の無いイメージ。誰もが住みよい町になると良いと思う。（女性 20歳代 揖斐川地区）
- 医療機関と食料・日用品を購入する店への移動手段（利便性）が最低限必要になると思います（自身が齢をとった際）。他地域から引越したいと思える様な、特異性のある教育、習い事の充実。（男性 40歳代 揖斐川地区）
- 車に乗れないと買い物、病院等に行くのが大変になる。子どもが近くにいればまだよいが。たよれる人がいないと、商店や病院がそろっていないこの町で住むのは難しいと思う。町外にはそのような施設はたくさんあるので、そこへ行ける手段がほしい。養老鉄道の本数を増やし、町への行き来が便利になるといい。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- 神戸町のバラタクのようなサービスが必要だと思う。神戸町で働いていた時、高齢の方がバラタクで自由に移動する様子を見て、揖斐川町にもこのようなサービスがあればいいと思った。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- 近鉄揖斐線揖斐駅からの夜間の交通の便がない。バス、タクシーもないので困る。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 自立した人が入院退院通院などで、自家用車を短期運転出来ない時に、タクシー代などの補助金や白タクを使用出来る体制があればうれしい。（例）骨折、ガンなどの放射線治療（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 養老鉄道快速列車運行どうなった、公約（町長）。JRとのマッチングが悪い。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 公共交通機関の拡充は必要だと思う。バスやたろみ鉄道の本数を増やすなど、高齢者も若者も住みやすい町づくりが必要。子育ての支援は充実させてほしい。（男性 20歳代 谷汲地区）
- 公共交通が不便（コミュニティバスの時間が合わない）。買物不便。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 交通手段がないと老後が不安になります。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 交通手段がないので不便を感じる。交通機関の充実。揖斐川町には大きいスーパーが無い。楽しみが少ない！地区の住民がほとんど高齢者です。車にも乗れない人が多いです。したがって地区の役割が重荷になっている。役場の方でできる事は協力してほしいです。これも福祉に関係しているかと思います。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 今は車に乗れるが、今に乗れなくなる。もっとバスの普及やタクシーの利用等、友人との交流、買い物（医者も）子供ばかりじゃなく、年寄りにもやさしい町にしてほしい。会社、工場等を誘致し、若い人が他の町へ

出ていかにように努力してほしい。空き地、空家が多く、さみしい町になりつつある。活気ある他の市町村等を見習ってほしい。町会議員の数が多すぎ。何の活動をしていれるのか全くわからん。給料も高すぎ。ボーナス必要なし。こんな話をよく聞きます。そして年齢制限をすべき！みんなの意見ですよ〜。（女性 70歳代 揖斐川地区）

4 スーパー・商業施設について

- 公民館や駅の近くにお店を入れるのはいいと思いますが入れれるのならそこより外側に店舗を入れてほしい。そうすれば近くの人買いに来て経済が回ったり従業員やバイトの雇用につながると思います最近空き家を多く見かけるので近くの工場に社宅として貸し出したりとかしてもいいかなと思います（男性 30歳代 揖斐川地区）
- スーパーが少ない。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- スーパーが少ない（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 近くにカネスエの様な安くていい店が無い。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 町に大きな商業施設がないため、活気を感じない。買物をする時は大野町より向こうへ向いて行ってしまう（ほぼみんなそうだろう）。さびれた町感があり将来性がみい出せない。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- レジャー施設や工場誘致を考えてみても。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- スーパーマーケットを増設してほしい。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- スーパーが1つしかなく不便です。町外への買い物が多く困ります。スーパーや企業に誘致に力をいれてほしい。人口減少対策に力をいれてほしい。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 他町へ買い物に行くことが多いので、大型スーパーがほしいです。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 揖斐川町は店などが少ないと思うので、色々な施設をつくってくれるとうれしいです！（男性 40歳代 揖斐川地区）

5 子育て・教育について

(1) 子育て支援について

- あまりにもお年寄りファーストになりすぎず、未来ある子供や若者のために力を入れて欲しい（男性 50歳代 谷汲地区）
- 子育て支援は、小さい子どもから高校生、大学生まで必要です。通学定期券の補助が高校生までですが、大学生にも拡充するとより揖斐川町に子どもたちが住んで学べる環境になると思います。また、学校給食

の無料化により、給食の内容が落ちてしまったり、パンが少なくなるなどの声も聞いています。少額でも徴収することで、子どもたちがより良い給食メニューを維持してもらえると良いのではないのでしょうか。これだけ物価高騰している時代なので、各家庭への負担も否めないと思います。揖斐川町は、他市町村に比べ、子育て支援は良いと思います。今後も高齢者だけでなく、幅広い子育て層への支援をお願いしたいです。（女性 40歳代 揖斐川地区）

○保育士の待遇改善し、保育士さんの人数を増やして頂きたいです。療育施設、子育て支援センターの規模を大きくして行きやすい場所にして頂きたいです。（女性 30歳代 揖斐川地区）

○子育て環境に不安があります。高齢化はもちろんのことも思いますが、少子化対策が必要だと思います。子育て世代への支援を検討ください。（女性 30歳代 揖斐川地区）

○高校生までの医療費無料化や給食費無償化は、子育て世代にはとてもありがたいですが、住民税や他の税金が高くては、その他世代には負担が大きいように思います。必要のない施設はなくて、税金がかからないようにすることも大事だと思います。学校の備品や施設が老朽化しているようなので、必要のあるところに、きちんと税金を使ってほしいです。（女性 40歳代 揖斐川地区）

(2) 教育について

○学校の1クラスの人数が減っていると聞いた。統合も考えていくこと。教員や保育士のマンパワーの確保と、人材の質の向上をのぞむ。（男性 50歳代 揖斐川地区）

○少子化、人口減への対応として、学校の統廃合などを議論すべき。（男性 50歳代 揖斐川地区）

(3) 公園などの子どもの遊び場について

○子どもの遊び場は公園だと思っている。大まちがい！雨の日雪の日でも楽しめる遊び場がほしい（大野町の木育ひろば見習ってほしい）。いつでも（休日、夜とか）体を動かせる軽スポーツができる体育館を開放してほしい。住民の意見をもっと気軽にらせる場があるといい（公共施設、図書館などに意見箱など設置）。（女性 40歳代 谷汲地区）

6 高齢者福祉について

(1) 介護サービスの充実について

○高齢化のため、買い物支援、移動支援の充実を要望します。（男性 60歳代 揖斐川地区）

○合併後、サービス面での低下を感じる（例：振興事務所内の人員。相談対応が本所（役場本庁）しかできないことも多く、出向かなければならない）。池田町のように週1回、開庁時間の延長日があると助かる。（女性 60歳代 谷汲地区）

○除雪など、高齢者はできないことは心を入れてほしい。一人ぐらしの人のみとどけやケアをよろしく。（男性 70歳代 揖斐川地区）

(2) 高齢者の見守りについて

○人生最後は一人…！！その時の御支援をたのみます。（男性 70歳代 揖斐川地区）

○高齢者の方の安否確認、防災訓練を積極的にする。土砂災害があるかもしれないので、水分を多く含んでいるのが分かった時点で避難（松山の土砂災害見て）。（男性 30歳代 揖斐川地区）

○現実的には難しいかもしれませんが、高齢者の見守りには、ご本人が望むご近所のパートナーさんの様な 2 名程の（家族以外の）方を決めておいて、気軽に相談、見守りし合える様にし、困った時は民生委員さんにも相談できるとかすると、家族の安心と、少し社会福祉にも貢献したいと思うご近所さんとのつながりができて良いかなと思いました。（女性 60歳代 谷汲地区）

(3) その他的高齢者福祉について

○高齢者に優しい街づくりをして頂きたい。（男性 70歳以上 春日地区）

○高齢者で障がいの大、小かわらずやさしい町にしてほしい。なやまないで毎日がくらしやすい町にしてほしい。（女性 70歳代 ー）

○独居老人の方の今後の介護について、申請や入所などの相談などどうしたら良いか。（女性 60歳代 谷汲地区）

○高齢者が多いので福祉に力を入れるのはわかるのですが、もっと若い人達が揖斐川町にいたいなと思えるような取り組みも大切だと思います。（女性 20歳代 揖斐川地区）

○高齢になっても農業など健康で続けられる支援があると、住む人も増加してくるのではないかと思います。（男性 70歳代 谷汲地区）

○高齢者対象の物、金の助成は不必要ではないか。理由として、残りの人生で使い切れない程の資金を持っている…本当に必要な人は 1 0 0 人もいないので…？揖斐川町は限界集落になっているので、森林事業に人材（男女青年）、設備、大型機械の導入に金を使い、将来のために若い人に投資をする！！福祉は高齢者はもういいのでは？若者の福祉は、汗をかく場所の提供をする。（男性 70歳代 揖斐川地区）

○若い人達が出て行ってしまう街。現実を見ると、高齢者支援の必要性が重視優先事項になります。残念です。（男性 60歳代 揖斐川地区）

7 障がい者福祉について

- 今は、障害でも目で見てわかる事が少なく、精神的な面の方々が増えているので、もっと理解をしてもらいたい。冷たい対応はやめてもらいたい。不登校児のしせつを増やしてもらいたいし、今はどうしていいかも、どこへいってはなしをきいてもらえる（時間が決まってるがその時間はいけない）かもわからないので、情報を増やしてほしい。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 認知症の増加に伴い、家族皆んなの支援となる過程において、自由に行動、自分で夜、昼関係なく家から出かけてしまう。その対策のひとつとして、GPSの利用、器具、発信などの助成を強く要望します。（女性 70歳代 谷汲地区）
- 私は障がい者のいる家庭です。親なきあと、障がい者が安心してらせる地域づくりをきたいしております。（女性 70歳代 揖斐川地区）

8 地域活動・地域行事について

- 現行消防団制度に不満がある。団れきによる退団制度等を充実させないとかたよりが生まれ、同じ人員で実施していくことになる。他地域では人数がいるという理由から3年ほどで交替しているため不公平感が否めない。10年ごえが当たり前では田舎にこしてくる方も少ないのではと思わざるを得ない。（男性 30歳代 谷汲地区）
- 地区活動に参加しているが、いつも参加する人が固定されていて、参加しない人は全く拒否をしている。その温度差を埋められるとよい。地区の集まりでしか顔を合わせることはなく、住民の名前（顔）も分からず生活しているため、さみしいような恐いような感情。空き家が増え荒れ果てている。そうなる前に対応はできないのか？独身（単身）の方が増え、家族（身より）がない人への支援。高齢者のみならず若い世代も身守れる体制がほしい。デマンドタクシー（自宅前）は難しいですね。使いにくい。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 年寄りしかいない地区に公民館推進員の役が何回もまわって来ており困っている人が多数見られる。定年制か、廃止の検討を？（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 地域の人が少なすぎて、地域活動に限界がきています。特にいびまつりが地域で行うのはもう無理です。若い方たちの意見を取り入れ、根本的に変えていかないと存続はできません。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 日頃の生活の中で介護保険では出来ない「おたすけサポーターはなもも」で困っている人に対して暮らしのお手伝いをしていますが、サポーターが不足しており、待っている人のためにも、多くの方が生活支援サポート養成講座を修了しお互いに助け合っていく社会づくりが必要と感じております。（男性 60歳代 谷汲地区）

- 交通の便が悪く、将来への不安を感じ、また色々な当番が多くて時間的負担も大きいので、別の所に引っ越したいと思っている。住民、住民と、あまりにも声高に言って、福祉活動や防災活動が強制的なものになると息苦しくなると思う。上からこういうことをやれ、と押しつけるのではなくて、住民が仲がよいから自然に助け合いが生まれてくるような自治活動を目指さないと、かえって住みづらくなると思う。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 高齢化が進み、地区内も60～70才がほとんどになり、行事もだんだんできなくなり、活性化できなくなっている。日々の楽しみもなくなり、家にとじこもりがちになる。地区で楽しみを作っていけたら…歩いて集まれる場所で。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 年を取っても役がまわってくるのでなくして欲しい。（男性 70歳代 揖斐川地区）

9 地域の人との関わりについて

- 地域の人との交流は大切ですが、時にはそれが負担になることもあります。高齢化もあり、家庭の都合で地域の行事などに参加できないこともあります。美化デーの草刈りなど真夏は危ないですし、業者に頼んだほうがよいような場所もあります。今までの当たり前な事も見直して欲しいです。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- コロナで地域での関わりは減ったと思います。時代の流れか、地域に何かを求めるにはむり。でも何かおこれば、皆動くと思う。（女性 60歳代 谷汲地区）
- 村のつき合いが多いため大変。区費以外のお金が多すぎる。募金を強要してくる。（男性 50歳代 揖斐川地区）

10 まちづくりについて

- 揖斐川町も例外なく住民の高齢化が進んでおり、将来の「消滅自治体」に名を連ねている。
将来の人口減と町の運営を考えると、役場周辺への移住促進策が重要だと思う。（それしか無いと思います）仮に町の間人全てが役場から半径10km以内に住んでいたら、町の維持にかかる費用も格段に少なくて済む。将来的に人口減が進むと、今の町全体のインフラや福祉を維持するのは不可能であり、役場周辺への移住促進策は理にかなっている。（海外では実施されている）（男性 50歳代 谷汲地区）
- クラウンロードが開通したので娯楽施設や観光、隣県との福祉でつながりも出来るとよいなと思います。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 若者の意見を尊重し、実行する体制をつくり具体的に実践 情報公開をする snsの積極的活用を行い スマホを使った行政手続きの実施無料Wi-Fiを駅 学校などに設置しデジタル環境を整備 いきいきカード なんかアプリで運用すべき（男性 60歳代 揖斐川地区）

- 今後の中期については高齢者、障害のある方と子育て支援にあてて長期的には雇用環境の整備にあて
揖斐川町にすんで良かった住みたい町となってもらいたい。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 新しい考え方で町民が必要とすることを（古い慣習や古くからの付き合いは切り離して）実行してほしい。
高齢者の介護認定をキチンとして欲しい。「自治体にお金がないから」「県から高齢福祉にかけるお金を減
らすように言われているから」という理由で他地域で認められる介護認定が揖斐では認定されない。国民と
して公平に受けられるべき。またそのようことを言うスタッフの態度を教育して変えて欲しい。福祉もデジタル
化して効率的化して欲しい。「デジタルは苦手だから」とデジタルやりたくない発言をしている。 広く一般にイ
ンターネットで情報公開を積極的にして欲しい（現状もPDFが多すぎる）。福井県とつながったので（観
光収益を増やすために）福井と岐阜の両県共通で『毎月イベント』を実地して「他地域から客を呼び込み
活性化・収益化」を実施して欲しい。 福井の海、岐阜の山で海/山マルシェ（福井まで行かなくてもいつ
でも新鮮な魚介類が購入でき、おいしい料理を食べられる）、藤橋のキレイな星空、プラネタリウムは魅力
的で他地域からでも人を呼べる。 インターネットでの情報発信も必要。 webサイトやyoutubeだけでは
なくクロスメディアで発信するべき。 併せて指定管理制度（決め方、運営の仕方）も見直しして欲しい。
老朽化した建物は撤去して、バリアフリートイレや災害時の避難場所を整備して欲しい。（女性 50歳
代 揖斐川地区）
- 池田揖斐川大野線のますだ歯科前の交差点の交通量が増えたので、交差点に信号を付ける必要があ
ると思います。（男性 30歳代 揖斐川地区）
- 人が楽しく住める揖斐川町にしてほしい！ 店や娯楽施設もない所に若者は移住しないと思います。活気
ある町づくりをしてほしい。他県の人達が移住したいと思える町づくりをしてほしい。人口が増えると町が活
性化すると思います。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 若い人が出て行かなくてもよい町づくり（たとえば企業誘致とか）をしてほしい。住民の方に時々まちづくり
の意見を聞く機会を設けてほしい。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 若い人達、子育て家族が住みたいと思えるような揖斐川町になる事を願います。高齢化していく揖斐川
町をどうしたら良いのか、若者の意見を聞いてほしい。学校等で話題にしまわう等。（女性 60歳代 揖
斐川地区）
- 少子高齢化の波は止めようありません。これからは公共工事にお金をかけるより、福祉にお金をかけなけ
ればなりません。町や社会福祉協議会の職員支援にお金を回してほしい。民間活用に重きを置くと、無理
がどこかで来るような気がします。民生委員のなりてがいなくなると思います。（男性 60歳代 揖斐川地
区）
- 人が来て定住したいと思うメリットがない。人が住んでくれて人口が増加する工夫が必要と思う。企業誘致
努力が遅い。揖斐川町には何もない、魅力がない！！（女性 60歳代 坂内地区）

- 揖斐川町に住んでもらうために町に対していろいろ行事をしたりして、別の住所をかまえてみえる人がもどってきたり交通の便をよくして町内で住んでもらえるようなまちづくりをしてほしいです。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 役場近くの揖斐川町の事だけ考えないで下さい。久瀬、藤橋、坂内も揖斐川町です。もっとこれらの方の事も考えて下さい。山をおりていかなければ何もありません！！老人たちはもっと不満があると思います！！もっとしっかり、揖斐川町でよかったとみんなが言えるように議員さん達、ちゃんとして下さい！！定例会で寝ないように！！むかつきます！！（女性 50歳代 久瀬地区）
- 福祉サービスを向上されるため企業などを誘致し、産業能力を高め働ける場を提供。福井県までの道路は完成したものの、揖斐川町は単に通過点にすぎない。日本海と太平洋工業地区の中間点としての発展を期待する。大野町、池田町、神戸町の平野に比べ、揖斐川町は山間部が大半。山間部の特性を生かした産業を構築し。税收アップを図り福祉を充実させる。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 住みよい町になっていくためには、いろいろな意味で便利な町になっていくことが重要だと思います。人が増えればまた発展していくことができると思います。住みよい町づくりのため真剣に取り組んでほしいですね。（男性 40歳代 藤橋地区）
- 夢があるまちづくりをしてほしい。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 消滅可能性都市と言われて久しいが、人口減少率は県内トップクラスの現実。やはり若い人が出て行ってしまう。我が家も子供2人共愛知県に住んでいる。福祉は概ね満足であるが、人が減るばかりでは維持出来ない。周囲の市町村を見習った戦略が必要ではないか。近々マグロードが全線開通するが、何か戦略はあるのか。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 将来の消滅地域に挙げられていることを真剣に考えなければならない。若い人が定着しやすい、外部からの移住者が増加する様な方策を立案、実行しなければならない。若い人が集まりやすい施設なり環境を作り、老人と若人が共に協力も応分の責務を果たし合えるような方向のまちづくりを目指すことが出来ないものか…。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 健康寿命を伸ばすための運動サークル等が、岐阜市のようにほしいです。池田町活動団体も種類が多く、少しうらやましいです。（— — —）
- 美しい言葉（音）が響く揖斐川町。毎日、町内放送にて美しい言霊を届ける。日本一の言霊大国を揖斐川町から発動するとか？どうでしょう？（男性 40歳代 春日地区）
- 我々高齢者には福祉も大事だが、もっと“住みたい”“魅力ある”町へ…。人口の増える町にしてほしい。（男性 70歳代 揖斐川地区）

- 安心と安全を感じるから生活できることが重要だと思います。人口が減る中、やってもらうばかりではなと住民が自立して行動することも必要になると思います。そのための上手なガイド、アシストを行政に行っていたきたい。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- 揖斐川町の過疎化および若者の他市町村への転出、高齢化が問題。この問題を解決した他市町村を見習うべき。例えば、中小河川に小規模の発電所（高低差の大きい揖斐川町は適所）等を作り（各部落に数ヶ所）、電気代が無料又は少額になるなどのこれをPRし、若い人達の定住を促し、イビデンの様な優良企業を誘致する等し、さまざまなアイデア取り込み、地域活性化する必要があると思います。谷汲山等も観光PR、交通の便を良くする。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 安心して住み続けたい地域にするために、各地区の“まちづくり、地域づくり”の組織へ、揖斐川町が責任をもって人的、金銭的支援を行う。高山市や関市で実施されているので、揖斐川町でも可能な施策である。“まちづくり条例”を策定し、実施してほしい。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 揖斐川町の持つ強みを存分に生かして、消滅しない町を目指して。池田、大野との連携を強めて、交通の分断を出来るかぎりなくしてほしい。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 住民減少ですべての面にひびいてくる。活気の有る町作りを願う。（女性 70歳代 谷汲地区）
- 住みよいまちづくりの為に、休耕田、畑の雑草対策及住民への思いやりがわすれないこと。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 住みよいまちづくりや福祉について考えてくださっていることをうれしく思います。地域や環境で思うこともありますが、揖斐川町がさみしくなっていくのは気になっています。現在私共は安心して暮らしていて、行政にも近所の方にも助けられています。感謝しております。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 20才から45才位までの女性の住みやすい町づくり。①上記の女性がどこで毎日買物をしているか調べ、それに合ったストアを誘致する。②車で5分～10分位で働きに行ける会社を誘致する。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 魅力ある町には安心して住める衣・食・住が不可欠です。足りないから足すのではなく、生かすという方法もあると思います。自助・他助・公助かみあう事を期待しています。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 観光、集客は重要ではない。鳥獣害対策が重要である（熊、猪、鹿）。（男性 50歳代 春日地区）
- 居住地を集めてはどうか。今のままではインフラがもたない。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 久瀬「乙原信号の所」と久瀬「JA前信号」の2ヶ所にある「古い大型地図看板」があまりにもきたなく、見にくい。多くの観光客が見ているのに、いまの状態では立ててあるのもはずかしいと思える。早急に新しい物に立て替えるか、撤去するかしてほしい。303号は福井からの車も多くなり、「揖斐川町を案内する」物が必要になっていると思える。とにかく今の物はどうかしてほしい。（女性 60歳代 久瀬地区）

11 公共の施設の充実について

- 使いにくい公園（暑いよね、自然ないよね）。図書館とはなれた役場と公園。計画性ないなぜか町のまん中に J A ダサイ。各務原は自然のある公園、図書館オシャレさがある。揖斐でつくるたてものすべてダサイ。すみたくない。不便。計画性ない。いきあたりばったり。大丈夫なんですか？この町は？よく皆平気ですよ。もっと良い町見習おうよ。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 子育て支援センターの空調設備の充実。利用可能時間の延長。土日祝日も利用できるようにしてほしい。有料でも構わないので。（女性 30歳代 揖斐川地区）
- 町内に特別支援学校が出来て 14 年です。しかし、卒業後の就労支援、さらに親亡き後の生活の場（グループホーム）は 14 年前のまま増えていません。生涯、揖斐川町に住み続けられる様グループホームを設立して下さい。お願い致します。（女性 50歳代 谷汲地区）

12 道路について

- 道路？歩道まで覆い被さってくる、木や草などを整備して欲しいです。（女性 40歳代 谷汲地区）
- せっかく福井県と結ぶ冠山峠道路が開通したのだから、もっと町として藤橋プラネタリウム周辺を整備有効活用すべきと感じる。広い芝生スペースや屋外ステージなどがあるのですから、キャンプ場やグランピング、音楽フェスや屋外イベントなど、町がバックアップしていけば、若い世代や家族連れなど、多くの利用が増え、揖斐川町の活性化につながると思います。（男性 30歳代 揖斐川地区）
- 道路整備してほしい。役場周辺はきれいなのに、郊外にでると道はガタガタ。特に徒歩ならつまづきそうです。道幅のせまい道もそうです。町道、林道区別なくきれいに整備できないでしょうか。子供、老人が歩いて外出（安心して）できるように、道をきれいにして下さい。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 小野坂トンネルが暗くて汚くて怖い交通（自転車）危ない。他のトンネルは整備されているのに、どうして小野坂だけは古いままなのか教えてほしい。（女性 40歳代 谷汲地区）
- 下岡島のごみ収集車、特にガスタンク車（13t）の通り道を粕川の堤防を通れるように改通してください。岡島には子供が多く住んでいるから、今までに“あぶない”と聞いたことが 2、3 件あります。大垣ガスタンクの移動ものぞみます（ハザードマップを見て移動してはいけないと思います）。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 「歩道」の除草、整美を！！草が伸び放題で歩けない。車椅子も通れない歩道があり、心が痛む。歩道とは言えない。路側帯の左右の除草によって安全と美化が保たれる。安心、安全な町、きれいな揖斐川町でありたい。（女性 70歳代 谷汲地区）

- 小学校や中学校への通学路の安全確保。街灯を増やしてほしい。歩道を広げる。通学路へ防犯カメラの設置。特に児童が少ない場所。電線を地下に埋める。（男性 20歳代 揖斐川地区）
- 町中全てに明かりを灯せとは言いませんが、夜になると「ここちょっとヤバイんじゃないか？」と思える場所が所々見受けられます。たとえば上ミ野から清水までの約700～800mの間。こんな所に外灯が欲しいです。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 安全なまちづくり→上町一方通行のT字路交差点にあったカーブミラーが1つなくなったため、本町方向からくる車がみえづらく、前の方に出ないと安全確認ができない。早急に設置してほしい。JASポート近くの交差点でよく事故がおこる。信号を設置してほしい。観光にもっと力を入れては？揖斐川町のよい所を町民自身が知らないことが多い。ボランティアガイドをつけた観光ツアーを組んで町内をまわったり、また、旧徳山村ハツアーを組んだりetcみんなが行きたいと思うような企画であれば、有償でも参加すると思う。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 道路へ街灯を充実される。夜暗い。危険で歩行できない。道路、アスファルト舗装の整備。集落内、排水路を整備。山からの宅地へ雨水が侵入してくる。（男性 60歳代 谷汲地区）

13 企業の誘致、働く場所について

- 企業を増やして、雇用して、人口を増やす事。揖斐川町は、30年考えが古い！真剣に、議員さん達が考えているのか疑問に思う（女性 10歳代 揖斐川地区）
- 高齢者の働き口など、高齢者自らが、参加できる地域づくりを引き続きやってほしい。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 人口を増やすことが必須。働く場所がないので子育ての環境は良くても移住には踏み切りづらい（男性 40歳代 揖斐川地区）
- 若い人はもちろん、60才以上の人の雇用の場所をもっと作ってほしい。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 企業の誘致。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 第1に人口減少が最大の問題である。揖斐川町は会社を誘致するのが全々力が入っていない。以前もイビデンが来るのをうまくとまらず残念であった。そしていび川マラソンも中途はんぱで、余り町にはメリットがないのでやめる方法も1つの案だと思う。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 働くのに魅力的な企業が町内に増えること。例えばライフワークバランスがとりやすい、福利厚生が充実している。出産、子育て支援の充実。この2つが重要だと思います。（女性 30歳代 谷汲地区）
- 農業をやる環境整備。農機具のレンタルサービス。農業指導。（男性 70歳代 揖斐川地区）

14 揖斐川町の経営について

(1) 町職員

- 役場へ電話しても対応が悪い。もっと教育をして下さい。(男性 70歳代 谷汲地区)
- 職員の方の人員配分を考えて。福祉関係の方々を少し増やすと良いでしょうか。暇な部署もあると聞きますが…。(女性 60歳代 久瀬地区)
- 職員、町長、一部の農協組織に片寄らず町民に奉仕の心を！あれば町民も職員町長に無償の協力をする事になると思います。(男性 70歳代 揖斐川地区)
- 町行政を品行あるものとするのが前提。そのうえで、職員の質の向上、各種事業の品位を保つことが基本。(男性 70歳代 揖斐川地区)
- 福祉委員、民生委員と共に社会福祉協議会の職員や町役場の福祉担当の職員等が直接住民の声を聞いて見てはいかかでしょうか？地域住民に寄り添い“住みよい町づくり・住民の福祉”に活かしてみては！！無償のボランティアに頼るばかりでなく、有償職員こそもっと声をすいあげて現場にいきすべきです。(女性 60歳代 揖斐川地区)
- 一部の町会議員の上から目線、横柄な態度を改めていただきたい。(女性 60歳代 揖斐川地区)
- 町会議員の数減らす。大野、池田より人口の少ない揖斐川町が、何故一番多いのか？その分、福祉に充てる。(男性 60歳代 揖斐川地区)
- 困った時に相談しやすい職員のスキルアップを行い、不安等をへらしていく対応を行う。その場面での安心感が支援につながり、不安のかいしようになると思われますが…。(女性 60歳代 揖斐川地区)

(2) 町財政

- 今は、学校があるので学生等がいるが社会人になり県外に転出するケースがあると思う。
将来の人口確保として町内に働ける企業を増やして町民の場合は特別に福利厚生が付加価値をつける。
また、一人世帯の家が多く空き家も増えているので、イベントの一過性で人を集めるのではなく定住者が増える対策〔何年住んだら住民税、固定資産無料等〕もしくは揖斐川町のふるさと納税・農産物の特産化・とかを強化して自然とお金が集まりやすい仕組みも必要かと感じる。冠山トンネル開通の恩恵を利用する。
一人世帯には、はなもものバスは料金が高いと感じていると思う。例えば、Uber eatsではないが、スーパーと連携して移動販売車を工夫するとか、各部落の公民館にてカフェ等があると多少は地域住民の交流会にならないかと。若い世代と年配の世代両方から対策あったほうがよい。(男性 40歳代 揖斐川地区)
- 税金を少なくしてほしいです。(女性 60歳代 揖斐川地区)

○使い道のないプレミアム商品券はやめた方が良いと思う。その財源は他の有用なところに回してもらいたい。

（女性 70歳代 揖斐川地区）

○国の税金の無駄遣いが多い。国民を馬鹿にしている。（男性 60歳代 揖斐川地区）

○税収が少なくなるなかで、町として全てのサービスを充実させることは困難である。自分でしなければならないこと、自分が地域に対して出来ることはなにかをみながしっかりと考えなければならないと思います。なんでもかんでも町が整備する必要はないよ（自分達で解決できることなら）。（男性 50歳代 揖斐川地区）

○税金の負担が大きいわりに子供が減るなど、成果につながっていない。支援体制を見直した方がよいのでは。何でも無料化無償化にすればよいというものでもないと思う。支援しても成果があがらないのだから。高齢化、人口減が進み、地域住民で助け合うということは難しくなっていると思う。大野町のように高速道路のインターもない、広い道路も…。大きな会社、企業誘致も難しいですね。（女性 60歳代 久瀬地区）

15 情報発信について

○首長さんの言うゆっくり町消滅の策がもっと町報、HPで見える化して、町民が町づくりに参加している達成感の充実に結びつくようお願いします。外部より町活性の知恵を提供していただける人材を確保して下さい。（男性 70歳代 揖斐川地区）

○自分うけられるサービスがわかっていない場合があるため、わかりやすいサービス提供を望む。（女性 60歳代 揖斐川地区）

○福祉ではないですが、休耕の田畑の利用方法について、町からの情報、アドバイスをいただけますとありがたいです。（女性 70歳代 谷汲地区）

○揖斐川町の良さを外部（全国の人）にPRする。自然豊かな地をもっと活用する（キャンプ場、トレイルなど）。イベントを多く開催し、外からの人々を呼びよせる。空き家があれば移住して来れる様な魅力あるリフォーム可能にする。揖斐で育った若者が、もどってきたいと思える地域にする。家庭をもって子育てしやすい町として。地元で働き場所を確保する。IT企業の研究室や大企業の分室、工場などを誘致する（都会に作るより安価でできる）。（女性 70歳代 揖斐川地区）

16 医療機関について

- 近くに病院がほしい。老健が1つしかない（山びこの郷）ので、もっと作ってほしい。老人ホームなどの介護施設をもっと作ってほしい。税金をもっと安くしてほしい（年金だけでは毎月赤字）。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 小児科と皮膚科と眼科が近くに無いのでほしいです。総合病院が無くなってしまい残念です。これから心配です。車がつかえなくなった老後を考えると不安です。揖斐小もランドセルではなく指定の鞆が良いと思う。（女性 30歳代 揖斐川地区）

17 防犯・防災について

- 通学路や人通りが少ない場所への防犯カメラの設置をしてほしいです。（女性 20歳代 揖斐川地区）
- 防犯カメラを町中に設置し、犯罪を未然に防ぐ、安心できる町をアピールする。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 空家がたいへん多くなってきて、防犯対策がその割には遅い。1人暮らしの高齢者の方も多くなってきている。手助けするにも近所の人ではおいつかない。かといって知らない人が来るには不安がある。現状をすみやかに把握して、近い所からなんとか安心して暮らせる場所にして欲しい。行政放送は、身近な人が声かけするような、町内放送として生の声でまず声かけするような朝晩から出来るような放送から始めてみてはどうでしょうか。例えば「戸締りをしましょう」とか、迷惑のかからない時間に「ラジオ体操」のような放送の事です。（女性 70歳代 久瀬地区）

18 鳥獣被害について

- 熊が町内のあちこちに出ているので対策をしてほしいです。子供たちを小学校に通学させるのが毎日心配です。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 畑が、今は猿等の問題で、作ってもとられて何もならない。もっとそちらの対策もお願いしたいです。熊も不安です。（女性 60歳代 谷汲地区）
- 鹿、猿の被害。（女性 50歳代 谷汲地区）
- 住む回りが草木がおい茂って見とおしが悪く、動物が近くまで来ている。（男性 70歳代 坂内地区）
- 鹿や猿が増え、農業が成り立たなくなっています。駆除に力を入れてほしいです。（女性 70歳代 谷汲地区）

19 アンケート

- アンケートで大まかな方向性を探るのも必要ですがまちづくりや福祉というテーマは地域によってニーズが全く異なります。どこかで議論して決まったこと（①）を住民に展開しても成功しません。住民が意見を出し合える場があれば参加意識を実感でき結果として出てきた案が①と同じであったとしても成功するでしょう。（男性 60歳代 坂内地区）
- 高齢者が多く人口も減っているがいび祭りやマラソンなどボランティアで成り立っているが、町民運動会なども今までと同じように続けるのは住民の負担になっていくと思う。今後、どうして行くか住民アンケートをとってほしい（女性 50歳代 揖斐川地区）
- アンケート内容がブレブレで何を問いたいかわからない。住民目線でしっかりアンケートを作る所からやってほしい。そのためには、アンケートの目的を明確にして、その結果をわかるように公表して、何をすべきかを明確にするべき。福祉が前面に出ているが、福祉の前に人口減少や人口流出の対応をどうするかが、現段階でのまちづくりの本筋だともう。人がいないと現状ある福祉の仕組みも成り立たないと思う。真剣に行政に取り組まないと、本当にいけない時期なのでしっかりしてほしい。また、アンケートは過去から色々なものを取っているがその結果や過去からのトレンドを町民に分かるようにしてほしい。町民に伝わったことが、あなたがたの伝えたことであると認識してほしい。よりよい町になるよう期待しています（男性 40歳代 揖斐川地区）
- このアンケート自体、高齢者のことばかりの質問が多いと感じられ、揖斐川町の未来のため、子どもにもっと目を向けていただきたい。子育て支援に関する質問が少なすぎると感じた。子ども、若い世代の人たちにもっと支援をしてください（教育含む）。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- アンケート内容を少なくして、難問を減らす。町の配布物をなくし、インターネット的に！経費削る！（女性 60歳代 谷汲地区）
- アンケート結果を参考に、多数の意見だけを重視することなく、少数でも我々の気づかないよい意見を参考に、住みよい町づくりを推進してほしい。アンケートをとるだけで終わらないように！！（女性 70歳代 谷汲地区）
- 本アンケートは質問が多く、適当に解答してしまい、住民の真の意識調査になるのか疑問を感じる。次期計画は、住民の声を反映しているという（住民意識調査アンケートを行うことにより）行政側の住民への説明にするのではないか！アンケートの対象者が不明であり、信憑性に欠ける（真に住民の声か疑問）。区長を通して、地域毎に声を聞いてはどうか！！（男性 70歳代 谷汲地区）
- アンケート内容は、住民に聞くべきこと、行政が考えるべきことをもう少し整理した方がよいと思います。もう少ししばってアンケートを実施して下さい。アンケートをやらなければならないからやっている感を感じる。（男性 50歳代 揖斐川地区）

20 その他

- もっと頑張れ（男性 50歳代 谷汲地区）
- 町民プールの取り壊しについてもったいなく思います。出来れば3セクや指名管理等に依頼するとか、施設を他の使い方、釣り堀にするとか、スケートボード練習場に改築するとかの再利用の方法がなかったのでしょうか？コロナ禍の間中なぜ保全作業をしてなかったから疑問です。取り壊すくらいなら他の使い方を町民なり知識人の意見を聞いても良かったかと思います（男性 60歳代 揖斐川地区）
- デマンドバスの予約がとりづらい。買い物難民のための移動販売車なのに、値段と品質が悪い。お年寄りに優しい販売にしてほしい。プレミアム商品券をバローやゲンキーでも使えたら買いたいと思う。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 健康に関しては予防事業の充実。その筋の専門家の人材確保。多職種の連携で、実践できるシステムをのぞむ。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 草、木、雪に今対応しているところ以外で困っている箇所が沢山ある！環境税を納めているんだから平等に対応してほしい！不便で仕方ない！不公平で住みにくい！（女性 40歳代 揖斐川地区）
- ファミリーサポート事業が利用できるとありがたい（女性 30歳代 揖斐川地区）
- 貧乏町なので諦めています。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 日頃の業務お疲れ様です。空家を追跡捜査するなどして、血縁関係者と連絡を取り解決してほしい。（男性 60歳代 谷汲地区）
- 大和小学校と北方小学校を合併しては？？どちらも子供の数が多いとはいえないし、運動会などイベント事がもっともりあがるといいと思う。（女性 30歳代 揖斐川地区）
- 炎天下での部活動やスポ少活動について、熱中症で大変なことになってからではおそいので、警戒アラートがでている日は禁止にするなど、災害時のように教育委員会から指示を出していただきたいです。（女性 40歳代 揖斐川地区）
- 空家などをいかしていただきたいです。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 町が責任をもって推進できる体制を構築して下さい。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 子育て支援センターの駐車場を広くするか、保健センターの前の横断歩道に信号をつけるかしてほしい。子育て支援センター利用の際、シルバーさんの車でいっぱい停められずはなもみに駐車するが、横断歩道に信号もなく、待っていても渡らせてくれない車ばかりで子どもが危険な目にあうリスクがある。そういった場面に何度も出会った。深夜に騒音をたてて集団で走るバイクを取りしましてほしい。（男性 30歳代 揖斐川地区）

- 農地の減少に危機感を持っている。農地の有効利用を考えていただきたい。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 森林の管理。災害に繋がる伐採は好ましくないが、土地の持ち主の高齢化、次世代の山林への感心と管理、伐採にお金がかかる事から手付かずとなり倒木。民家と山の境がなくなってきている。（女性 60歳代 谷汲地区）
- 子供が少ないから支援をするのではなく、支援をされて喜ぶ親になってほしい。子供の為ではなく親の支援になりがちになっていると思います。自分で仕事をしつつ子育て支援をうけてほしい。身勝手な意見で申し訳ありません。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 町民の意見をもっと聞いてほしい。みまもり台帳の作成をはやく、変更のある場合はすばやくしてほしい。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 病院、ショッピングセンター、生活面で不便なので、今は元気だけど将来はどうするか…悩みです。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- ハード面も大事ですが、ソフト面も大切だと思います。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 河川敷の整備と公園化を更に進めて、景観を良くしてほしい。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 地域の事は地域で考えるまちづくり。役場、町長、議会がじゃまをしないでほしい。住民のやる気がへってしまうから。何か旗をあげてくれればやりよい、住みよい。しかし、何ひとつ旗があがらないので、自分達でやるしかない。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- この先30年で消滅可能性がある町として、町長＋町議会はどのような対策を考えているのかわかりやすく方向性を示してほしい。3年～5年の計画も大切であるが、長期的な目標に基づいた計画でないと、「ただ作っているだけ」になってしまうのではないかと。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- プレミアム商品券を使う店がない。商工会目線でなく、住民目線で事を進めてもらいたい。大手スーパーやコンビニで使いたい。西濃厚生病院への足が少なく困っている。育児支援も大事だが、車を運転出来ない年寄りは大変。バスをもう少し遅くまで病院発としてもらいたい。当然空車も多いと思うが、とにかく診察が待たされる為、最終便に乗車出来ない日はタクシーで帰宅する。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 揖斐川町教育委員会へ。令和5年度大雪警報の学童の登校について、揖斐川町より雪の積雪が少ない岐阜、大垣、本巣、神戸、池田の教育委員会は小中学校休校した。なぜ雪の多い揖斐の小中学校は休校にしないのか。判断が最悪である！（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 人口減少対策。子どもがUターンして揖斐川町で定住したいと思う町づくり。企業誘致。山、川の適正な管理（災害防止）。（男性 50歳代 揖斐川地区）

- 揖斐川町には商業施設が少なく、商品券等があっても消費できる場所がありません。日常の買い物なども町外へ出るばかりです。せっかく養老鉄道などがあるので、駅前の再開発などをしてもらいたい。町の顔となる駅前の衰退は、町民としては少々恥ずかしいと思う。（男性 40歳代 揖斐川地区）
- 子供会など地域交流は大切だが、社会の変化によって、子育て世代が無理をして夜の会議、平日の会議などに出席している現状がある。無理せず、会議などをへらして書面などですませれることはすましてほしいです。（その他または回答しない 40歳代 揖斐川地区）
- 空き家対策の充実。高齢者の介護予防。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 合併して大きい市または町となり、無駄をなくす。（男性 30歳代 揖斐川地区）
- 美化デーの見直しが必要（縮小）。バスの利用方法がわかりにくい。祭りの継承は縮小しても良い。担手不足。道路整備（不必要な道路）見直し。主要の歩道必要。近隣町との連携が少ない。ゴミ処理リサイクルセンターの建設。（男性 50歳代 揖斐川地区）
- 伝統行事などに参加したくないから。できるだけ、すぐには帰ってこれないところへ行きたいと思っているから。高齢者に力を入れるのはいいが、若い人が住みにくい。住みつづけたいとは思わなくなっている。（女性 20歳代 揖斐川地区）
- 住みよいまちとはどのような町をいうのかわからないので、なんとも言えない。現在の生活を守っていくことだけでたいへんなので、他のことは考える余裕がない。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 空き家再生。移住者定着。各種スポーツ運動。バス利用（本数、ルート増やす）。地域タクシー。（男性 10歳代 揖斐川地区）
- 今は定年前の年。仕事での日々の為まちづくりについて考える時間などなく、アンケートで知った事など多々ありました。ただ、一番は住みやすいまちづくりを町内 1 つになってやっていく事が前向きになれると感じています。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- プレミアム商品券の取扱い店が、揖斐の商店街で使用できるところがない。ましてやお年寄り足がないから使用できない。バローやゲンキーなど、家族で利用できる店にしてほしい。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- 揖斐川町の特産品に何がこの土地にむいているか調べ動き出してほしい（たとえば、文旦…など）。また、山の木を切り炭作りとか、小さいことかもしれませんが、揖斐川町はこれでいくというものの作り、食べ物、コロッケ、パンとか。お茶だけでは…。前には菊輪糖など。また復活とか。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 国策も含め、現在の少子化対策はまちがっていると思う。経済的な対策や子育ての支援に片よりすぎていると思う。子孫を残すことの大切さ、人間としての（生物としての）必須の義務であることを忘れ、今を楽しみたい、楽をしたいを追い求めているのは自分である自覚を促す教育の充実に関心がある。いい車にいい家においしい物を食べ楽しみたい…を応援しているように見える。これではやがて地域も国も

- ほろびる。日本に働く人を送り出している国はなぜ少子化していないのかを考えよ。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 町の行政の見える化の推進をお願いしたい。（男性 20歳代 揖斐川地区）
- 御近所の方はやさしく、子育てをしている時は暮らしやすい町でした。その子供達が成人すると、どうしても就職先を求めて町をはなれていきました。町に残った子は、冬になり雪が積もると出勤できない状態です。自宅の前は除雪しても、一人暮らしの方の前までは除雪できません。このような状態では緊急事態が起きた時、対応できるのでしょうか？（女性 60歳代 谷汲地区）
- 企業誘致。交通手段の充実。地元企業の活性化。いじめ対策の徹底（見て見ない放置防止）。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 廃校、廃園について今後利用されるのか、淋しくなる一方です。（女性 60歳代 谷汲地区）
- 学校教育（英語）のレベルアップ。教員の質の向上と増員。「いじめ」の徹底防止策と明確化。現在「いじめ」にあっているのに、解決の糸口が見えず困っています。このまま続くかと思うと不安です。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 子供達は他県に出て、夫婦2人の生活です。子供の世話にはなりたくないと思いつつ、今後の不安もあります。老人が安心して暮らせ、若者が流出しない、働く場が有り、活気ある街になる様期待しています。（女性 60歳代 揖斐川地区）
- 町全体を見て、住居についてはコンパクト化（集中し分散ではなくスマート化）し、維持管理の負担（上下水道など）を減らし、従来型の個々を尊重した住まい方ではなく、まとまりのある（助けあえる）協力的な生活が出来る町づくりを進めて欲しい。若い方が集まる様な職場を作り、子供が安心して（親も安心して）暮せる学校（通いたくなる差別化した特色のある教育が出来る、受けられる）を作り、老後はずーとここに居たいと思える住みやすい便利な町とする。買い物、病院、学校、職場をどうしていくかを。税金を払ってでもいいたいと思える町に。具体的な方策はまだ思いつきませんが。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 人口減が叫ばれる中、少子化対策定住対策は必要かもしれまんが、人口減を前提とした施策を考えて欲しい。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 車がなくても生活できるまちづくりをして欲しい。特に白い食品トレーは車がないと捨てに行けないので困る。スーパー等で回収を義務付けて欲しい。高齢ドライバーが多く、近所でも90才超の方が運転してみえます。砂利運搬のダンプカーや通勤車がマナーが悪いので、地域住民優先を指導して欲しい。冬は出勤時間に除雪が間に合わず、遅刻してしまうので、夜中にも作業して欲しい。賃金が全国平均以上の職場を用意して、若者の定住をすすめて欲しい。（女性 50歳代 揖斐川地区）
- なにもかわらない。（男性 40歳代 谷汲地区）

- 町内を見ても、空家とか、家の周囲草や木は伸びほうだい。この状態を何とかしてほしいです。（女性 70歳代 揖斐川地区）
- 公園遊具は、各地区にあったのが撤去され、南方の公園へ行くのに遠い地区もあるので、近くでもまた遊具を置けば良いのでは？（子育てに力を入れているのであれば）アスレチックを作れば若い世代が集まってくるのでは？年寄りには住みにくい町になってきていると思います。デマンドバスも、予約するのは急用の時に困る。考えてほしい。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 若い方にとっては子育てをする上で自然豊かな環境でいいと思うが、現実、生計を立てる上では、職場が30分以上という距離等、不便さがあり、やむをえず町外（職場に近い便利な方）を選ぶという矛盾がある。その為一緒に住んでほしいが、この現状から進めることができない。なので、今都会から自然を求めて移住する方も多いので、そういった町、魅力ある町をめざし、住まなくても来たい場所、住みたい場所に近づけるようにと願う。（女性 50歳代 谷汲地区）
- 年に一度くらいは町民と語る会を実施し、自由参加で町民の声を聞く場を作る事も大切だと思います。当然ですが町会議員も同席して意見交換すべきであると思います。（男性 70歳代 揖斐川地区）
- 小中学校、高校等のボランティア活動は、学校教育での「しかけ」が意図的に行われ、よく活動している。しかしながら、成人になってから続けられるかという行動に結びついていないと思われる。特に公の仕事をきて、退職をむかえる者の率先したボランティア活動を望むところである（公務員、企業人、議員等）。それらの実践が一般市民の活動のモデルになると考える。ひいては健康寿命の延長にもつながる！自身もその意味でも実践している。（女性 70歳代 谷汲地区）
- よろしくお願いします。（男性 60歳代 久瀬地区）
- 空き家を、町の予算でリフォームし、若い世帯の移住を促進してほしい。若い世帯や子育て世帯の住宅購入支援を町の予算で行ってほしい。外国人の増加による治安の悪化に配慮して欲しい。（男性 40歳代 揖斐川地区）
- 生活に不便。車に乗れないと生活できない。自然がゆたかでとっても良いのに、住みにくい。70・80代の人の意見が強すぎる。もっと若い人の意見を聞いてくれる町になってほしい。昔はとか昔からの習わしがいや。毎日の時間のチャイムを早くメロディーにしてほしい。子供の頃のつらい思い出がフラッシュバックする。独居高齢者が多いから、ひとりで生活しなくても良い色々なタイプの施設を増やして、そこで食生活が楽になるようにしてあげてほしい（立派な新建物は必要なしで）。奥地の方に冬だけでも中心に住んでいただき、コンパクトシティ計画で経費の十一を考える。（男性 60歳代 揖斐川地区）
- 後期高齢者になり、今後色々皆様のお世話になる年令になりましたが、近所の方々も同じ様に高齢者の方が多く、まずは自分の健康に注意をしてがんばらなくてはと思っています。（女性 70歳代 揖斐川地区）

○便利性（女性 60歳代 揖斐川地区）

○公共施設での地元の業者を使っていないのはなぜですか？（女性 50歳代 春日地区）

○若い人達は車に乗車できてどこへでも行けるけど、職場が無いため町の方へ家族とともに出て行くため、高齢者だけが残っているので活気もない状態。何か1年に1回2回のイベントを開催する事で町に活気を。人が集まる場があると良いかも。車に乗れない人達に簡単にどこへでも行ける様に、路線を考える。
（女性 70歳代 久瀬地区）

○交通事情を良くしてほしい。大垣市や岐阜市への通勤通学等でアクセスを良くするため、①揖斐川左岸堤防を2車線化してほしい②養老鉄道を北進し、新揖斐駅を岡島地区に設置してほしい。特に①は大野下磯地区の西濃厚生活院へのアクセスとして重要である。美化ディー等の地域での出席行事が多すぎるため減らしてほしい。犯罪防止のため、防犯カメラを多く設置してほしい。防犯灯も増設してほしい。役場付近に救急車の処点を設けてほしい。大野町中之元から揖斐川町へは時間がかかるため、町内に設置してほしい。パロー揖斐店南付近の桂川沿いの2車線の町道にガードレールを設置してほしい。熊対策を行ってほしい。（男性 60歳代 揖斐川地区）

○揖斐川町は住みにくい。（女性 60歳代 揖斐川地区）

○揖斐川町の古い町並みはおとろえる一方です。しかし、古い酒蔵があったり伝統の山車があり、良い伝統はあります。活性化はあると思う。地道な活動がきっと将来生きてくると思う。知識のある方が集って生きる道を探してほしいです。（男性 70歳代 揖斐川地区）

○生まれ育って71年が経ちます。緑豊かな揖斐川町には都会にない良い所が沢山あり、私にとって「自慢の町」です。嫁に行った娘も、子供を育てる小さい頃は揖斐によく来ていました。孫も又、「揖斐に来たい」と話す様です。代が替わっても「揖斐に行きたい」の言葉をつなげたらいいなと願います。（女性 70歳代 揖斐川地区）

2 中学生調査

1 まちづくりについて

- ☐ 大きい公園をつくってほしい
- ☐ お店が少ない（女性）
- ☐ ポケモンカードが売っている場所を谷汲に造って欲しい。（男性）
- ☐ 大人の人達はもう少しお店を増やしてほしい（男性）
- ☐ マジで飲食店やお店がない（男性）
- ☐ にぎやかさが無くなった本町通りを復活させたい。（女性）
- ☐ お店が少ないから、ほしいものがなかなか買いに行けない。（女性）
- ☐ 道路が凸凹（女性）
- ☐ スポーツ活動（女性）
- ☐ 高齢化が進んでいるので、小さい子供達をもっと生まれてほしい（女性）
- ☐ これからも豊かな自然を維持して行ってほしい（男性）
- ☐ 揖斐川町の魅力を教えること（男性）

2 地域活動・ボランティアについて

- ☐ 通学路に草が生えていて通りにくいので地域で草むしりボランティアをしたい。（男性）
- ☐ 行事をもっと増やしたい。（女性）
- ☐ 小学校の運動会にまた参加したい（男性）
- ☐ 積極的に行事に参加したい（女性）
- ☐ 町民運動会がなくなってしまったのでやってみたい（男性）
- ☐ ゴミ拾い系がやりたい（女性）
- ☐ 文化祭や、福祉についてもっと学びたいです。（女性）

3 高齢者福祉・障がい者福祉について

- ☐ 障がいを持つ方にお話を聞いてみたい、何かの災害や戦争の体験談を聞いてみたい（女性）

4 地域のマナーについて

- 僕の家近くに交差点があり、夜中ブンブンうるさいので、しないでほしい。（男性）
- ゴミ拾い。（男性）

5 学校について

- 平日部活動の活動時間の延長（男性）
- 税金を使いすぎなのと、給食無料化じゃなくて学校で使うテレビや雨漏りの修理に使ってほしい。（女性）

6 その他

- 近所のおばさんが自分ちの家の塀を使い、覗いてくる（気持ちが悪い、監視されているみたい）（女性）
- 暑い（女性）